Kodak Gray Scale

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

inches 1 2 3 4 5 6 7 8

cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

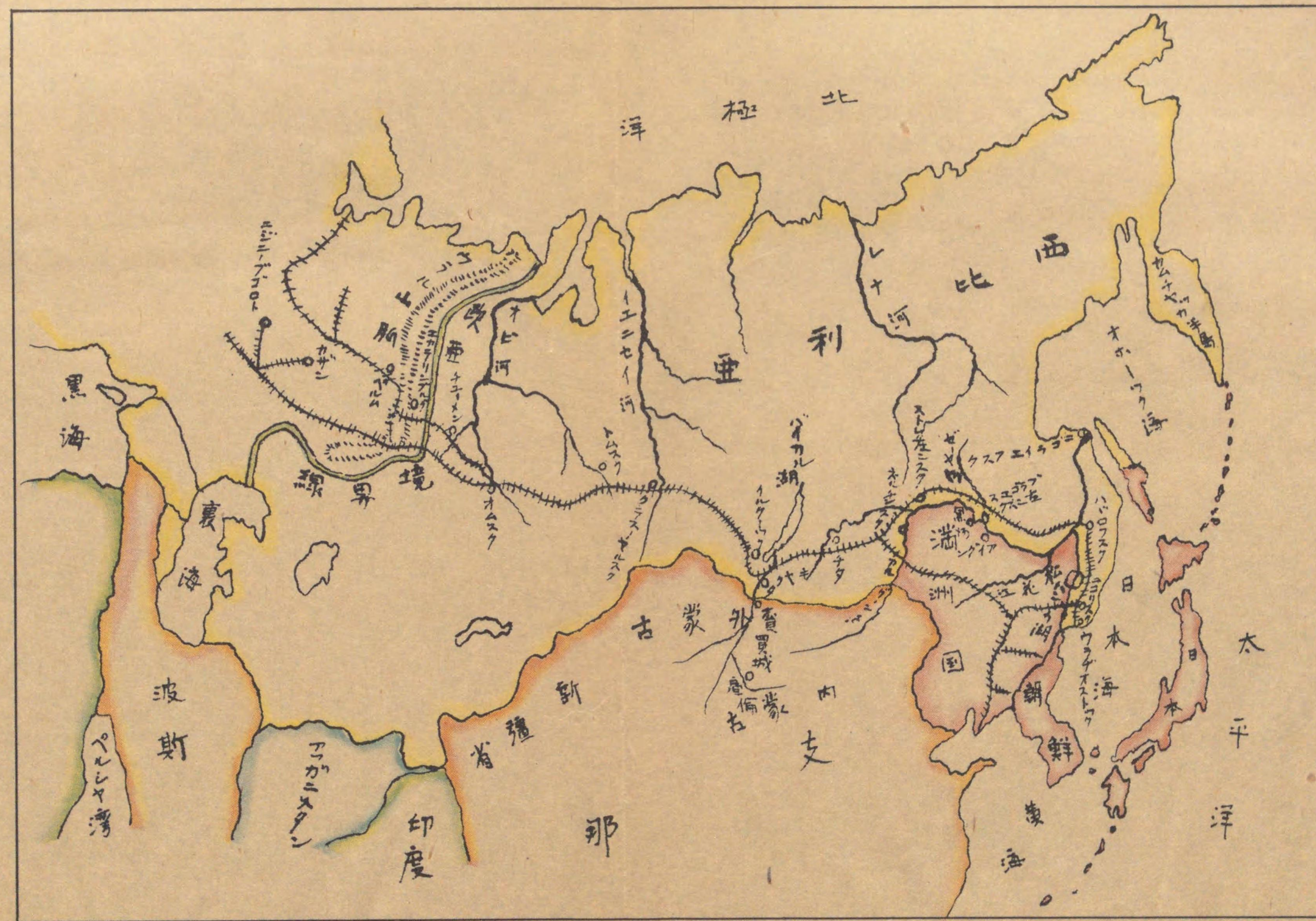
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80

292.23
E76s

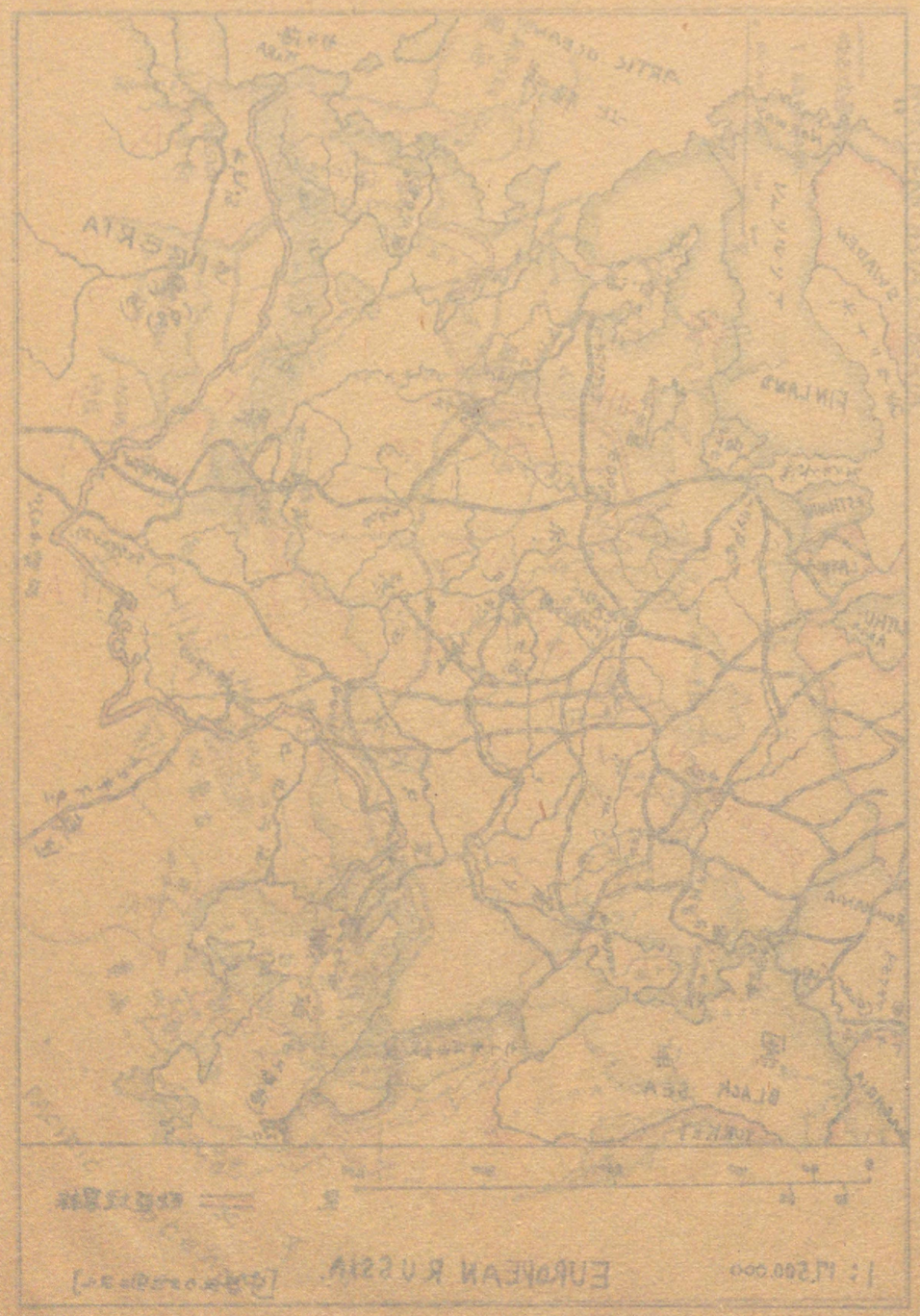
西伯利亞日記（寫）

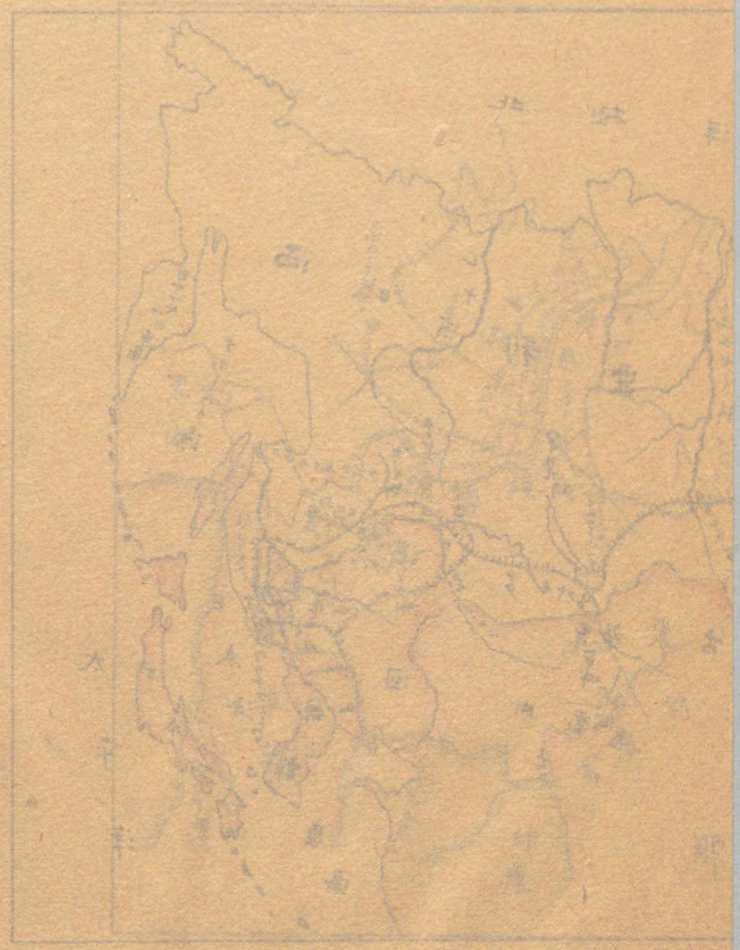
卷之壹

国立国会図書館
27. 3. 4
261594

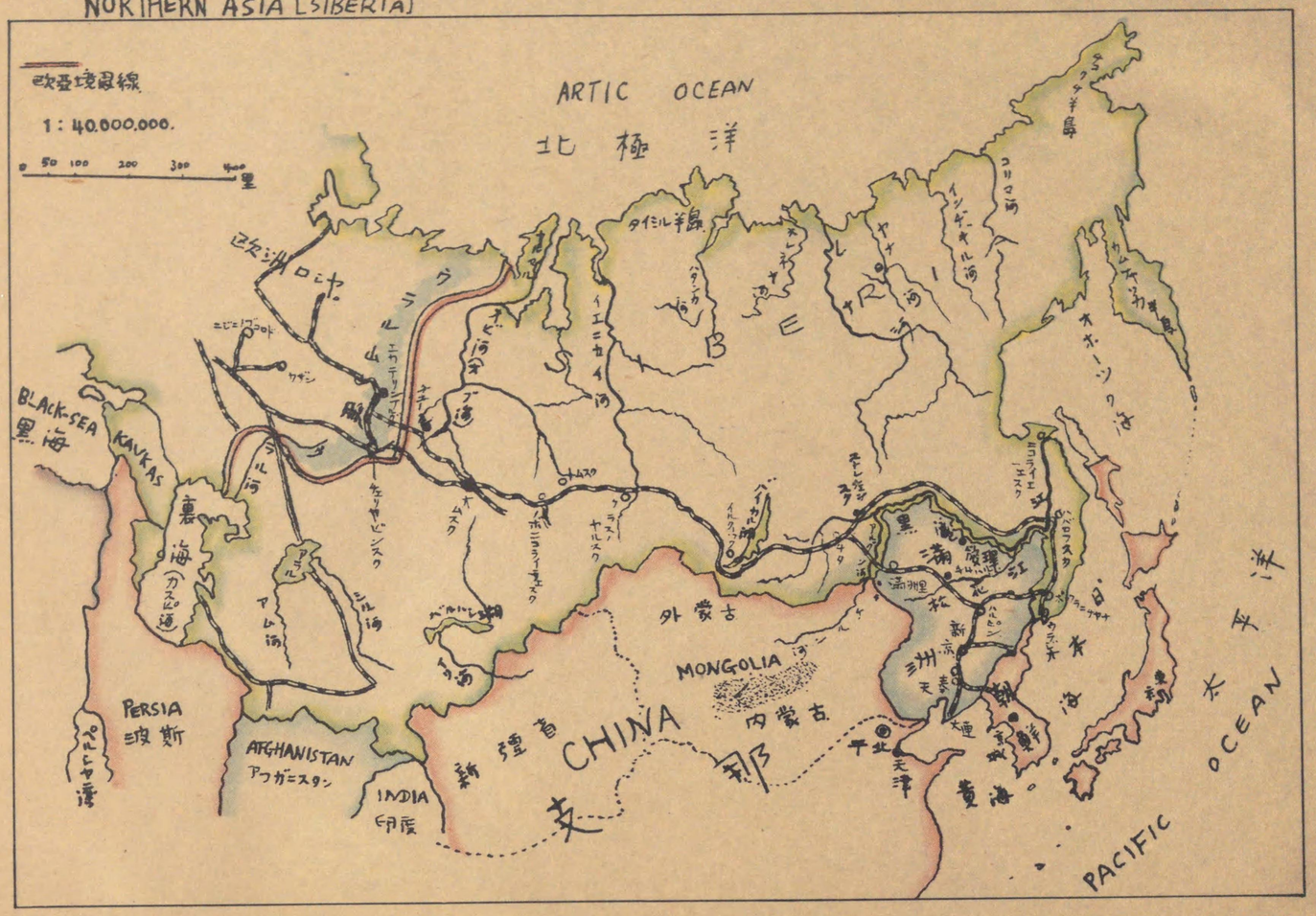


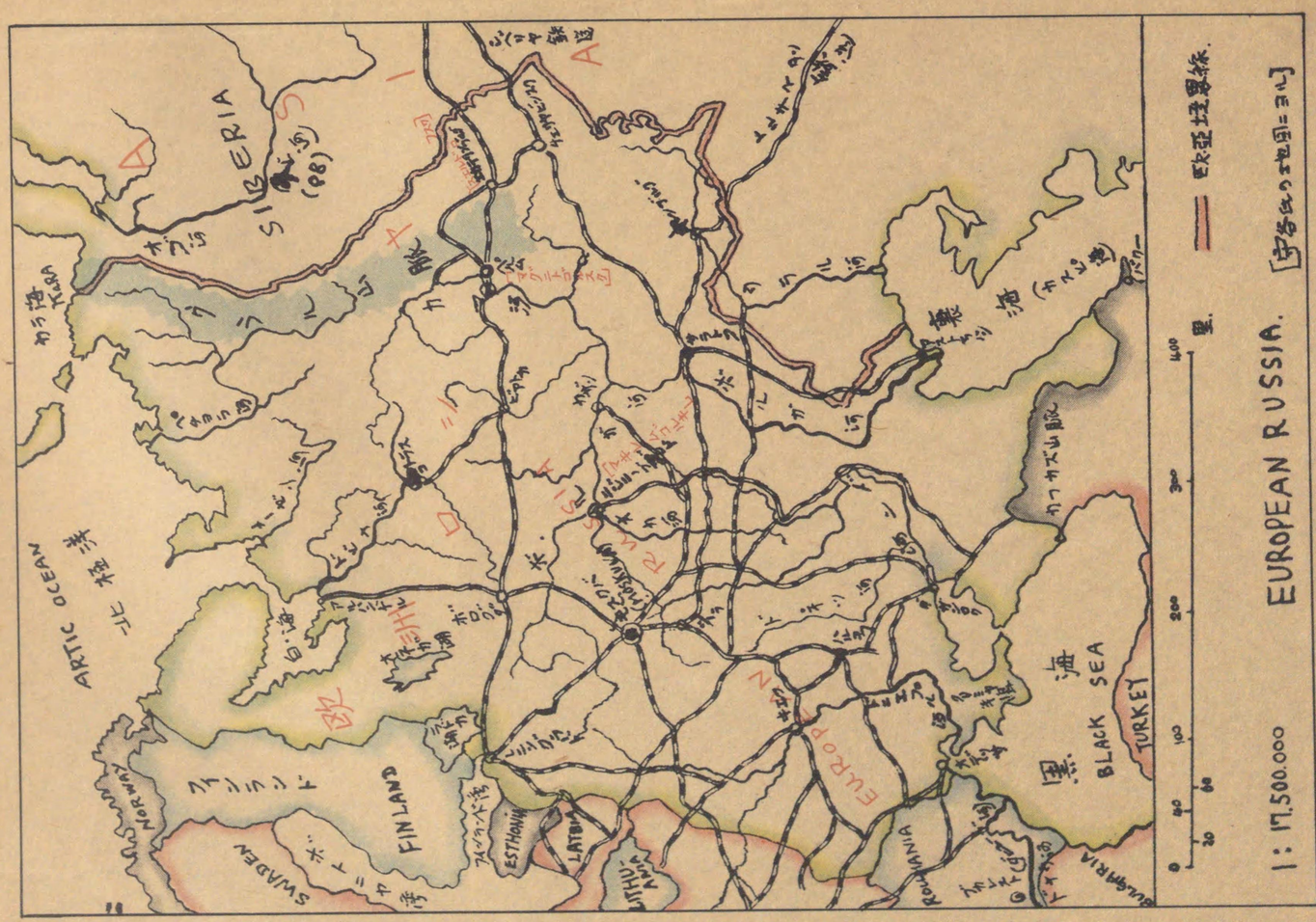
北極洋
西比利亜
レナ河
オビ河
エニセイ河
トムスク
オムスク
バイカル湖
イルクーツク
チタ
オホーツク海
ハバロフスク
ウラジオストク
日本海
日本
太平洋
満洲国
朝鮮
東海
外蒙古
買賣城
内蒙古
支那
新疆省
境界線
裏海
黒海
波斯
ペルシャ湾
アフガニスタン
印度
カザン
ペルム


BLACK SEA
TURKEY
FINLAND
EUROPEAN RUSSIA



NORTHERN ASIA [SIBERIA]





2f2.P3E76 1

序

一、本書ハ父榎本武揚（當時四圭才）ガ「シベリヤ」ノ横斷ヲ終リテ歸國シタル時ノ自筆ノ日記ヲ文章ニ勿論体裁等總テ原文ノ儘ヲ寫シタルモノ也

一、此ノ「シベリヤ」日記ハ父ガ明治七年一月十四日海軍中將ニ任ゼラレ次テ同月十八日ニ兼テ全權公使ニ任ゼラレ露國公使館在勤被仰付、魯都「ペテルブルグ」ニ駐在五年ノ後歸國ノ際ニ「シベリヤ」旅行ヲ企テ明治十一年七月二十六日「ペテルブルグ」ヲ出發「モスコワ」ノ經テ「ニジニノブゴロト」迄ハ汽車ニ依リ「ニジニノブゴロト」ヨリ「オルガ」河（裏海ニ注グ）ノ流船ニテ下リ「カザン」ノ經テ「カマ」河ニ入リ之ヲ溯リテ「ペルム」ニ出テ、「ペルム」ヨリ「タンタ溯ス」（馬車）ニテ「ユカテリンブルゲ」、「チエーメン」、「トムスク」、「クラスノヤルスク」、「イルクーツク」ニ至リ「バイカル」湖ノ渡リテ「キヤクタ」、「チク」、「ネルチンスク」、「ストレチエンスク」ニ至リ、「ストレチエンスク」ヨリ復タ汽船ニヨリ「シルカ」河ヲ下リ黒龍江ニ入リ（黒龍江ハ「シルカ」河ノ下部ヲ為スモノニシテ別

河ニアズ只「シルカ」河ニ「アルケン」河ニ落ツル処ヨリ「アムール」ト云フ名ヲ負フナリ」「ブラゴウェスチェンスク」、愛琿、「ハバロフカ」ニ航下シ此処ニテ「ウスリ」行ノ汽船ニ乗換ヘ「ウスリ」河ヲ溯リテ「スングチャ」河ニ入リ之ヲ溯航シテ「ハンカ」湖ニ出デ「カーメンルイボロフ」ニ登陸シ馬車ニテ「ラヅドルナヤ」ニ至リ此処ヨリ汽船ニテ「スイフン」河ヲ下リ「レチノイ」ニテ魯艦ニ乗移リ「ウラヂオストック」ニ到着（九月廿九日）セル迄ニ七月ニ亘ル旅行ヲ日々毛筆ニテ認メタルモノ也

一、本日記ヲ讀ムニ経過地方ノ人情風俗、地勢、土味、勿論農工商、諸事情及ビ鑛業殊ニ砂金採取並ニ政治、経済、軍事ニ亘リ又時ニ魯国極東政策ニ関シ筆マメニ書カレアルヲ知ルベシ

一、此旅行ノ諸入費ハ旅費及ビ荷物運搬費合計魯貨約四千〇五拾三「ルーブル」ニシテ之ヲ邦貨ニ換算スレバ（金壹円ニ付魯貨壱「ルーブル」六十七「コペーキ」換）約貳千四百貳拾八圓也

一、本日記原本ハ大小二冊ノ洋帳ヨリ成リ大ノ方ハ長サ七寸三分幅六寸、厚サ八分ノ表紙ノ雑記帳様ノモノニシテ小ノ方ハ長サ四寸、幅二寸二分、厚サ四分ノ極ノ小型ノ手帳也而シテ「ペテルブルグ」出発（七月二十六日ヨリ八月九日ノ前半迄ハ大型帳ニ同日ノ後半ヨリ九月十三日ノ前半迄ハ小型帳ニ同日ノ後半ヨリ同月二十八日朝「ハンカ」湖ニ入リタル所迄ハ再ビ大型帳ニ記載サレテアリ而シテ其ヨリ翌二十九日夕浦潮港ニ着ク迄ハ大型帳ノ表紙ノ裏ニ文章ヲ為サズ所々ニ切々ニ地名ト距離数ト時間等ノミヲ書ニテアル也

追記

昭和九年参月吉日

西伯利亜旅行ノ目的

榎本春之助

一、當時日本人ハ大ニ「ロシヤ」ヲ畏レシカ故ニ實地ニ魯領ヲ旅行シテ一部ノ書ヲアラワシ以テ日本人ノ臆病ヲ覚サシ且後来ノ為メニセントテノ企テラレシコトハ左記書状ヨリ知ルヲ得ベシ

一、左記手紙ハ父榎本武揚カ魯都「ペテルブルグ」ヨリ東京ノ留守宅ニ送リタル宅状ナリ而シテ美濃紙二枚ヨリ成レリト思ハル最初ノ一枚ノミ現存スルヲ以テ其宛名ハ不明也然レトモ魯都ヨリノ宅状ハ母宛カ伯母宛カ又ハ伯父宛カ或ハ其連名也

一、左記宅状ハ明治拾年一月一日ニ認メラレタル者也一月一日ニ認メラレタリト云フ所以ハ書中ニ（之ハ日ハ金八四年ニ誕生日ナリトアリ上）尤金八後

ハ文中ニ

ニ明治九

（西暦千八百

バナラヌ

月十五日頃

リ右ニ付

郎 一百寺

校次弁左

明治九年十二月五日夜附宅状ノ一節

手前昨年帰国願を政府ヘ差出承知ニ相成候段も先日妻ヘ申遣候右も
過日電信を申越候返事（実ハ電信を問合せ候事）来候書状ニ而
きゝ申候去ル頃花房子より一寸申越候ハ又政府も手前を一度魯
国に在勤為致候論も有之由手前先頃手前ニ代リ小西郷を代りに
せんと存し同人に申遣候処同人大悦ニ而申越候其後花房より申越
候ハ又政府も外国語の出来ぬ者の公使ニせぬとの由就而ハ西郷も失望
したるべく存候……白狐皮も殊ニ外
内御徳大寺より厚く申越候　主上御意に叶ひ候旨ニ候宮

左記手紙

新年ニ成慶先以而其表御揃御様始一同御無事ニ而御加年ニ成遂賀候
次に手前事も不相替壮健ニ而迎春候条御安意可被下候さて今日ハ金八四年之
誕生日……且ハ黒田氏魯行を勧めた罷越候得も昨日之様ニ思はれ候（其
そもや旅と三年ニ相成申候年を無程相願ひ相叶ひ可申実ニ月日の早足ニ驚入候

明治九年十二月吉夜附宅状ノ一節

手前当表出立も百五十日以内と相成候ハゞ五月初旬ニも是非発足の積り途中ニ都合杯も
手分相付少しも差支無之旨諸人（魯人）請申候魯西亜の田舎は役人を殊に尊ミ
むかし我国の御用道中に似候る気味有之との趣

と自分なから我を信し居候ハ、一体日本人ハロシヤを大に畏れ今ても蝦夷を襲ふ杯
人杯といふはハしこも棒も掛らぬ當推量ニ而中々左様の訳ニも無之を知らずて
今手前身分ニ而上もなきよきおもひ「ロシヤ」之領地を旅行して日本人の臆病を
覚まし且ハ後来の為めと思ひて実地を経て一部の書をあらはし候心組ニ御座候

國立國會圖書館藏書

一、當時日本人ハ大ニ「ロシヤ」ヲ畏レシカ故ニ実地ニ魯領ヲ旅行シテ一部ノ書ヲアラワシ以テ日本人ノ臆病ヲ覚サン且ハ後来ノ為メニセントテノ企テラレシコトハ左記書状ヨリ知ルヲ得ベシ

一、左記手紙ハ父榎本武揚カ魯都「ペテルブルグ」ヨリ東京ノ留守宅ニ送リタル宅状ナリ而シテ美濃紙二枚ヨリ成レリト思ハル、最初ノ一枚ノミ現存スルヲ以テ其宛名ハ不明也然レモ魯都ヨリノ宅状ハ母宛カ伯母宛カ又ハ伯父宛カ或ハ其連名也

一、左記宅状ハ明治拾年一月一日ニ認メラレタル者也「一月一日ニ認メラレタリト云フ所以ハ書中ニ「今日ハ金八四年之誕生日」トアリ、亡兄金八（後年武憲ト改名）ハ明治六年一月一日生ナレハ也、次ニ明治拾年ナリト断定セシ所以ハ文中ニ「肥後長州ノ一揆暴動」トアリテ前者即チ神風連、後者則チ前原一誠ノ変ハ共ニ明治九年十月（西南戦争ハ十年二月ニ始マル）ニシテ又魯土開戦ハ明治十年四月二十四日（西暦千八百七十七年）ナレハ也而シテ魯土開戦ノ結果明治十年四月帰国ノ予定ハ見合ハサ子バナラヌコトトナリ遂ニ翌十一年七月ニ延ビタルナリ是レ十年五月二日夜認メ母宛ノ宅状ニヨレバ「五月十五日頃よりは弥陸路出立の積りの処「トルコ」一件六ヶ敷相成去四月廿四日より弥戦争相始まり右ニ付同日電信を以て此方外務省ニ相届け一二ヶ月出立可見合旨申進し候處昨一日寺島卿より電信ニ而此度ノ戦争終末迄當國ニ留り候様申越候ニ付実に無拠次第ニ左様御心得可有之候」トアルニ依ル也

左記手紙

新年之御慶先以而其表御まつ様始一同無事ニ御加年之段遥察いたし候

次に弊方事も不相替壮健ニて迎春いたし候条御省慮下さるへく候さて今日ハ金八四年之

誕生日・・・・・・且ハ黒田氏魯行を勧めた羅越いたし候も昨日之様ニ思はれ候（さ

さても旅と三年ニ相成今年を無程相顧相叶ひ申候実ニ月日の早足ニは驚入候

杯と年寄めかしき申分ながら気象を却て以前より若く成りたる如く・・・・・これ

これまで中南表出立の期も相迫り候ニ付「シベリヤ」通行は誠ニ楽しみにて見るべき

事定めて多からんと存候もの之一旦出し候ハヽ否日も早く帰国いたし度ならんか

と自分ながら我を信じおり候、一体日本人ハロシヤを大ニ畏れ今も嫌悪を懐ふ

人杯といふはハシニも棒にも掛らぬ當推量ニて中々左様の訳ニも無之を知らず

今手前身分さへ上も及きよきおりから「ロシヤ」之領地を旅行して日本人の臆病を

覚まし且ハ後来の為めと思ひて實地を経て一部の書をあらはし候心組ニ御座候

國立國會圖書館藏書

日本政府も此事を望み居ルハ、一縣陸軍卿抔も頗る之を注意致し
居しは尤の事と存候」肥後、長州一揆之暴動も四五日前より日本新聞ニ而相知候迄
一承知致し・・・・・・とかく前原のたんのといふ鬼計のよふな事を世人へいへ為せとも・・・！

明治九年十一月七日附宅状ノ一節
右士族等いづれも愚痴なる方向を失ひたる者に有之候付、厳重の処分を申付けられ巨魁といへども死一等を恕し、兼て手前建言致置候南洋諸島に移されば、様実も公使岩倉右府迄一筆差出申置候

明治九年九月十二日附宅状ノ一節
先便御送り申候小笠原写真を一冊の折手本と為し、其表紙に手製の「ガルファニ」仕掛にて「日本領南洋群嶋之内小笠原島之部 榎本所蔵」といふ文字を銅版にて取附候積りにて銅版を既に出来上り申候。手前ても小笠原島より尚ほ南にある「ラドローネン」諸嶋をも「イスパニヤ」より買入て日本領と為す事を先頃建言し、当節も朝廷評議最中之由、先達而寺嶋より申越せり。是を種々込入たる見込有之事ニ付、右之次第に付小笠原島等の写真も別して楽しみ存候為め申候

「シベリヤ」日記

明治十一年七月二十三日「ツァルスコエセロー」ノ離宮ニテ一時帰朝御暇乞ノ謁見相済同二十六日午后七時十五分ノ汽車ニテ彼得堡府出立

出立前ニ御用状寺島氏へ黒田氏へ壹通外ニ宅状壹通ヲ認ム家僕等ニ金ヲ與フル了并セテ二百六十「ルーブル」

汽駅ニハ「ボシエット」氏ノ命ニテ鉄道掛ノ士官出迎ヒ「エキスタラウァゴン」一輛ヲ予カ為メニ出セリ於是大岡生モ亦此中ニ入ルヲ得タリ

出立前午后二時「バシレフスキー」氏「パスポールト」及内務卿ヨリ各縣令へ当テタル「オープンレットル」壹通ヲ持来リ且ツ云ク内務卿ハ本日「モスコワ」府始メ「シベリヤ」各縣令鎮台等へ予カ「シベリヤ」行ヲ電信ニテ知ラセ萬事周旋スベシト申遣シタリト〇「ブロッセ」氏亦別ヲ告ケニ来リ予カ寫眞ヲ乞フ即チ同氏外「バシレフスキー」氏ニモ與ヘタ

日本政府も此事あら此事を望ミ居れハ山縣陸軍卿抔も閣下にハ注意可被成
居しは尤の事と存候」肥後、長州一揆ニ暴動も四五日前ニ日本新聞紙面ニ逆
一議相成申し……とかく前原のなんのといふ鬼神のよふな者ハ、なけれども……！
「余丈も助け遣し候ニ付先便ニも申上ル通」岩倉右府には種々申上候へども同人の力ではヨク
ユクかどふどか分らん木戸杯もかれこれ申立死罷行ねバフビンと存候……諸
島流しにても去て置ケハ何の為の用を為しすかしと存候」英国と「トルコ」一件もドウカ丸
く治りそふな事若し師サヲ存ルモナカク肝要之事ニて四月下旬の帰国も見合
ハセ子バナラヌ事存れど……花房子より段々手紙参り同人もなかなか朝鮮国都
お参りまで無之ホンノ貿易場見立の位見の如きこともなすて……一位寺嶋も朝
鮮に手を出す心もなけれど手前よりも彼此（以下次紙の記録あるべき筈なれど
も其次紙も前文の通り見當らじ）

「シベリヤ」日記

明治十一年七月二十三日「ツァルスコエセロー」ノ離宮ニテ一時帰朝御暇
乞ノ謁見相済同二十六日午后七時十五分ノ汽車ニテ彼得堡府出立
出立前ニ御用状寺島氏へ黒田氏へ壹通外ニ宅状壹通ヲ認ム家僕
等ニ金ヲ與フル了并セテ二百六十「ルーブル」
汽駅ニハ「ポシエット」氏ノ命ニテ鉄道掛ノ士官出迎ヒ「エキスタラウァゴン」一輛
ヲ予カ為メニ出セリ於是大岡生モ亦此中ニ入ルヲ得タリ
出立前午后二時「バシレフスキー」氏「パスポルト」及内務卿ヨリ各縣令へ
当テタル「オープンレットル」壹通ヲ持来リ且ツ云ク内務卿ハ本日「モスコワ」府
始メ「シベリヤ」各縣令鎮台等へ予ガ「シベリヤ」行ヲ電信ニテ知ラセ萬
事周旋スベシト申通シタリト○「ブロッセー」氏亦別ヲ告ケニ来リ予カ寫眞
ヲ乞フ即チ同氏外「バレレフスキー」氏ニモ與フ

汽駅ヘハ「コロネル・コワコ」「ラムナヤンダユ」「ペルシヤ」官民等送リ来ル館中諸子ノ中
高木、安藤二生ハ病ヲ以テ来ス
汽車既ニ発ス車中ニ於テ予カ貯置キシ日本一瓢ヲ開テ飲ム甚タ口ニ
適セス冷気体ヲ侵ス初冬ノ如シ寒暖計ヲ検スルニ列氏十一度タリ夜
十二時眠ニ就ク
「モスコー」迄ノ汽路ハ二条ニシテ殆ト一直線ヲ為ス「ニコライ」帝石筆ヲ以テ
画ニ画セシ「プラン」ニ係ルト云フ
彼得堡ヨリ「モスコワ」迄ノ間モ亦平地ノミニテ見ルベキモノナシ只土地ハ沙地ナラズシテ粘土ト赤地多ク鉄道ノ両側ニ畑極メテ少ナキ他ノ魯国鉄道ニ筋
ニ異リ何ノ故ナルヲ知ラス両側及ヒ四方大抵皆林木ニシ樹ハ「カンピカバ」多ク
松林モ亦アリ其太サハ径三四寸ヲ過クルモノナク見ル吾邦松林ノ如キ大樹
ハ夢想スベカラス

二十七日　終晴　彼得堡ヨリ「モスコー」迄六百四「ウョルスト」
午前十時「モスコー」府ニ着シ「スラヲヤンケネ、バザール」ト云フ「ホテル」ニ投宿ス府中
ホテル」ナリ彼得堡府ノ「ホテル」ヨリモ外国風アリ
汽車「モスコー」府ニ達スルヤ鎮台ノ命ヲ以テ陸軍大佐出迎ヒ「ホテル」迄来ル
予同氏ニ托シテ鎮台ノ好意ヲ謝シ且ツ云ク予ハ自ラ鎮台ノ部ニ至ラス名紙ヲ
投スベシト雖モ途中草卒ナルヲ以テ面謝セズト○昼食外浴室ニ赴キ其
ヨリ帰ラ車ヲ命シ市川子ヲ拉ノ鎮台ノ部ニ至リ名紙ヲ投ス夫ヨリ「クレ
ムリン」ノ周囲及中ヲ行キ夫ノ有名ナル大鏡「ツアル、コロコリ」ヲ見ル又大砲ヲモ
見ル口径二尺七八寸ニシテ銅製ナリ鋳リシヨリ以来試撃セシコトナシト云フ
午后一時寺見子着ス○余ハ着スルヤ直チニ「ウラジホストック」駐剳日本領
事務官ニ電信ヲ以テ汽船ノ日本ヘ航スル最モノ期ヲ「ルクーツク」府ノ電
信局迄知ラセ置クベキヲ頼メリ○二橋子ヘ一書ヲ出シテ医者ノ礼四十「ルー」ヲ附ス

並ニ荷物箱ノ ヲ頼メリ
晩食後八時附添「ポリス」ノ「カピタン」其未テ「エルミタージ」ニ行カンコヲ勧ムルヲ
良馬車ヲ命ジ大岡寺見ニ生ヲ拉ノ赴ク予ハ「ポリス」ノ頭ノ定座ニ就テ
劇ヲ見ル園中「イルミナーション」及「エレキテリック」火アリ園中ニ池アリ舟ヲ浮ブ婦
女群集良園ヲ出テ本夕鎮台其婦ト共ニ来臨セリ○「シュー ンマーヘル」氏ニ逢フ

十一時帰舎一睡且ニ達ス

二十八日 晴 日曜

午前十一時ヨリ車ヲ儀ヒニ生ヲ拉ノ「ミハヘル、ヒヨードルウヰチ、ロマノフ」ノ祖
ノ「ボヤール」タリシ時ノ住居ヲ訪ヒテ一見セリ 極テ小室ノミナリ二百六十五年
以前ニ物ニ夫ヨリ「エトノガラフイゼー」ヲ一見ス(「ロマノフ」ノ即帝位ハ一千六百
十二年ナリ)「ムゼー」ハ夏中ハ閉デ居レドモ「ポリス」ノ士官来リ予カ為メニ室
ヲ開ケ示セリ寫真中ニ田邊氏ト田中廉太郎ナノ像アリ夫ヨリ「クレムリン」
ノ帝城中ヲ悉ク一見ス巨大ナリト雖彼待堅ノ冬宮ニ如カズ○山本子ヘ雑報
一封ヲ出ス

午飯後市中ヲ車行シ午後八時三十分ノ汽車ニテ「ニジニーブゴロット」ニ発ス「エキ
スタラトレイン」ニ而甚美ナリ且士官一人途中ノ駅迄送来リ邏卒一名「ブゴ
ロット」迄汽車ニ附添来ル

上車後大岡生携ル所ノ「マデラ」酒ヲ二生ト共ニ酌ミ談笑十一時ニ至而眠
ニ就ク夜中暖気ノ大増スヲ覚フ

鎮台及「コロテル」等暑剌ヲ置キ去ル

二十九日 晴「モスコワ」ヨリ「ニヂニノフゴロット」迄四百十「ウョルスト」
午前九時半「ニヂニノフゴロット」ニ着ス「ポリス」「メーストル」「ゲナラル」出迎ニ来リ予
ヲ「ポチトーワヤ、ガスチンツア」ト云旅屋ニ案内セリ茲ニ投宿ス旅屋ハ疎ナリト雖モ
前面ニ壹千坪許ノ湖水アリ窓前ニ樹木繁リ「ダーチヤ」ノ思ヲ為セリ清

暑ニテ四方ノ景殆ト「イタリヤ」ノ小府ニ似リ只魯ノ寺観多キヲ以テ其魯
タルヲ見ルノミ
午飯ヲ加ヘ了リテ浴室ニ赴キ夫ヨリ鎮台ヲ訪フニアヤルセルク」ニ赴キ留守ナルヲ以テ
名刺ヲ投メ去リ又河ポリシメーストル」ノ邸ニモ名刺ヲ投ズ夫ヨリ二生ヲ拉ノ「ヤルマルク」ヲ
一見スルニ昨日表向ヲ開キノ会アリシ為ニハ甚実ハ魯ノ七月廿五日ヨリ真ニ開ク
答ナルヲ以テ大抵皆閉(閑)戸シ更ニ見ルベキモノナシ只「キルギス」「タール」「ベルシヤ」商人等
彼処此処ニ少スルヲ見ルノミ市中塵甚多クシテ快カラズ夫ヨリ写真師ヲ訪ニ嘗
表ノ写真若干枚ヲ買フ
遂ニ二生ヲ拉シテ「アレキサンドルスキ、サード」ヲ訪フ「アカ」「オルガ」河一目ノ下ニ在リ汽船帆
船様子処々ニ散羅スルノ景尤美ヨリ園ニ高処アリ中腹茶屋ニテ晩食ス殆ド
吾邦飛鳥山ニテ宴ヲ開ヲノ心地セリ五時半帰ル
○「モスコウ」ヲ発シテヨリ今朝七時頃ヨリシテ鉄道ノ左ニ岡ノ連綿不(ル)断ヲ遥カニ見ル「アカ」
河ノ右岸タルベシ
「ニヂニノフゴロフ」ノ止ノ町ニ「カカ」河ノ橋船ヲ越ヘ坂ニ上リ岡上ニアリ平地ヲ抜ク十丈許
故ニ眺望最モ宜シ
彼得堡、莫斯弗府等ニ比スレバ暑気アリト雖モ菓樹ヲ見ス「プリスメーストル」ニク
冬ハ五ケ月アリト
五時半帰舎鎮台ノ名刺机上ニアリ彼ヨリ予カ留守中ニ来訪セシナリ市川子ト
謀リ道中ノ食物ヲ市中ニ而三度直(ジキ)行ノ火船発スルノミナルヲ以テ
「ヂニノフゴロフ」ヨリ「ペルム」迄ハ一週日中ニ而三度直(ジキ)行ノ火船発スルノミナルヲ以テ
明日十一時ニ其船ニ乗込テ出立スルニ決ス当所ヨリ「カザン」迄ハ毎日出船

アリ
鎮台ノ命ニテ「ポリス」壱人予カ旅屋ノ前ヲ昼夜守レリ
晩方大関生ト共ニ歩シテ「ヤルマルク」ニ至リちさみ物ヲ買テ記念トス
夜十二時就眠先是旅宿ノ貸敷寝所もきたなき故夫の「ワンドロイス」ノ患ヲ避ン為メ粉薬ヲ寝所ニ散セント欲セシニ其薬ハ荷物中ニ深蔵シテ急ニ出スニもクつきニヨリ試ニ薬ヲ散セズシテ夜ヲ終ラントテ眠リタルニ無幾シテ右ノ鬢間甚タ痒キヲ覚ヘ且夢幻ノ間ニコレヲ掻クニ遂ニ大ニはれタリ醒メテ之ヲ見レハ目上ニモ二ケ所「ワンドロイス」ニ刺レタル跡アリコレ蓋シ夜具ニ多キニヨリアヤシゲナル「ブランケット」一枚ヲ「ケルネル」ニ命シテ取寄セ用ヒ其「ブランケット」中ニ「ワンドロイス」居リタルナルベシ於是急ニ燭ヲ照ラシテ夜具及寝衣ヲ換スル二更ニ見ヘタ時ニ大関生等尚未タ眠ニ就カズト見ヘ談笑ノ声聞ヘケレバ最速猥ノ部屋ヲ訪フニ声ハ市川子ノ部屋ニアリ渠等尚「カルタ」ヲ三人ニテ遊ヒ居タリ乃チ市川子ヨリ「アンモニヤ」ヲ貰ヒテ刺所ニ塗リ夫ヨリ予カプレヨーセシ「ウオルレンデーケン」ヲホドキテ夜具ニ移テ眠ラントスル片試ニ尚一次燭ヲ以テ枕ヲ換スルニ果シテ「ワンドロイス」歩キ居ルヲ見テ急キ之ヲ殺シ然ル后寝ニ就ク時ニ既ニ三時頃タリ良久シテ夢甚煩悩ナリ醒テ見レバ両臉ト腮ノ処ヲ更ニ三四ケ所刺サレ居タリ予怒ニ堪ヘ兼ヌレモ「ワンドロイス」ノアルヲ見ズ遂ニ是亦旅中一小難事ノ記念ナリトアキラメ漸ク寝リ朝六時ニ起ク故ニ寝リタルハ僅ニ三時ニ過キザリシ苟且(カリソメ)ニ物事ヲ為ス時ハ却テ多少ノ時ヲツブシ其上イラヌ腹立ヲ起ス事只ニ今日避虫粉ヲ用ヒザリシ結果ニヒトシキ事少カラズト記シテ以テ自ラ警ム

○「ヤルマルク」ノ処船橋長サ七丁余ニシテ「アカ」河タリ此河直ニ「オルカ」ニ列ル今朝「モスコワ」ヨリノ来路ノ途次左側ニ見(アラ)ハレシ連綿タル閣ノ下ハ即チ「アカ」河ノ右岸タリ

○「ニヂニーノフゴロウト」ノ閣ハ高サ約十五丈ヨリ二十丈許上ニ「クレム」城ノ謂ナルベシアリ是レ「イワ

261504

ンゴロズノイ」ガ轡鞘ヲ逐出セシ由ニ築キシ壁ヨリ煙火遥ニ壁頭凸凹状相連ナ
「モスユワ」ノ「クレムリン」ニ均シ極メテ防戦ニヨキ地理ヲ占メタリ

○「ヤルマルク」ノ紀事

○「ニヂニノフゴロウト」ヨリ水ハ石灰多キト見ヘ「サボン」能ク溶解セス

七月三十日　晴

午前十時旅宿ヲ立チ渡船場ニ至リソモレヲ」号ノ火輪船ニ駕シテ十一時
ニ「ニヂニノフゴロウト」ヲ発シ「オルガ」河ヲ下ル両岸ノ景色閑心人目ヲ娯ハシム○オ
ルガ」河ハ常ニ高クシテ左岸ハ低キヲ以テ暴雨ノ河ノ交互高低スル者ニ均
シカラズ或ル書ニ博士ノ新説ニハ北半球ノ河ハ皆右岸高ク左岸低ク
南半球ハ之ニ反スル地球ノ運転方向ニヨリテ然リト云フ此説ニ不同意ノ
説多シト雖モ一奇説ナリ
発船ヨリ一時間半許ニシテ右岸ニ「ベスヤドノエ」村ト云フ村アリ此村ハ

以前ヨリ美女多ク生ル皇族ノ通行ノ節ハ必ス出テテ「カピテイン」語リ此事
吾邦肥前松浦ノ河内港ニ似タリ」河幅ハ狭キ所ニテモ三四丁ニ下ラス大抵若町
許又コレヨリモ廣キ所モアリ水ハ濁赤色ヲ為セリ奥筑ハ多シ鷗群飛スルヲ
以テ知ルベシ「ストレリツ」輿ハ此河ニテ釣ルナリ餌ヲ用ヒズト云フ
河流ハ「ヲワ」河程急ナラス右岸ハ高サ十丈ヨリ二十四五丈許ナルベシ左岸ハ僅
二丈ヨリ二丈ニ過ギズ故ニ毎年五月出水ノ時ハ水ノ嵩スコ十七八尺ヨリ二十尺ニ
過ルヲ以テ左岸ハ平地ニ圍水ニ覆ハレ、コアリト云フ土味ハ粘土ノ粉ヨリ成立
テ往々酸化鉄ノ為メニ赤色ヲ現ハセリ樹木ハ右岸ノ方多シ且ツ右岸ノ
岡上ハ往々能ノ畑ヲ為セリ左岸ハ畑少ナシ且ツ左岸内部ハ処々ニ瀦水(タマリ)
アリト云フ右狩河ニ灰セリ○午后三時半「ゲチアール」某ホーコーニク」某等ト
共ニ酒ヲ飲ミ魚ヲ食フ兵制ノ談話抔ニ時ヲ移セリ
午後九時頃ヨリ暗黒ヲ為スヨリ星光水ニ映シ夜気清冷甲板上ヲ歩スル数時

両岸共ニ夜航ノ為メ処々ニ二本ヅヽ並ヒタル燈アリ又薪ヲ燃スモアリ只「ブーイ」ハ
面倒ナル漕筋ノ外ハ見ルコトナシ「カピタン」云フ「オルガ」河ノ漕筋ハ浅処ニテモ八尺ニ下
ラスト○予カ乗込ミシ汽船「サモレヲト」ハ水入三尺ニテ長サ十八九間ノ外輪船ナリ
上中下三等ニ客アリ馬力ハ七十ニシテ船行ハ流ニ順テ七里餘ニ覚ユ薪ハ石炭ヲ
用ヒス皆木薪ナリ其大サ径五六寸ノモノヲ二ツ割ニ為シ長サハ三尺許リ斯ル木
薪ヲ用ユルニ付キ大抵六時位ツヽニ船ヲ寄セテ薪ヲ積ミ入ル薪ヲ搬フニハ往々
村婦人ハ二本ノ棒ニ載セテ船ニ運ブ故ニ薪ノ積入ニ十五分時間許ヲ費ス
夜露深シ○霧ノ深キ夜ハ泊シテ明日ヲ待ツト云フ水流ハ現下「ルマール」ナリト
○夜二時眠ニ就ク○夜十一時「ストレリツ」奥ヲ立ツ「ゲラル」等ト食事
中予「コロチル」ニ魯国ノ銘産ノ「チユレイ」ハ「ストレリツ」ノ種類ノ氣胞ヨリ製
スト聞キ居ルコトヲ話シテ其然ルヤ否ヤヲ問フニ同氏云フ氣胞ニテハ不足ナル以テ
歓骨ヲモ併セ細切シテ熟湯ニテ烹其汁ヲ打冷シ凝固セシモノヲ截リ焼テ賣
買ニ出スナリト語リ是ハ「アスタラカン」府ニテ製スト云フ「アスタラカン」ハ奥類最モ
多ク且ツ菓物ノ出ヲ最多キ由「リンゴ」桃李等皆在リ
航河中汽船ノ荷船ヲ引テ「ニヂニノブゴロット」ニ上ルモノヲ見ル甚タ多ク材木類
奥穀類等ヲ積メリ○筏ヲ浮ベ流ニ下ルヲ見ル筏ノ前後ニ蠅ハタキ状ノ桅ヲ付
ケタリ又筏上ニ小家ヲ立テ居レリ

七月三十一日　晴「ニヂニノブゴロット」ヨリ「カザン」迄ハ船路三百八十一里ナリ
午前四時ニ起キテ甲板上ニ歩ス朝暾波ニ映ジテ美ナリ同六時「カザン」ニ着ス「カザン」
ハ左岸ヨリ泊舟許リ府迄ハ七「ウヲルスト」アリ予ハ大岡生ヲ拉テ直ニ上陸シ
「イヅウオスチック」ニ入ル茶ヲ喫シ馳セテ府ニ至ル途ノ左側ニ「ピラ
ミタル」ノ造築アリ奇形ナリ是ハ魯兵「カザン」府ヲ韃靼人ヨリ取リタル時ノ
千人塚ナリト云フ夫ヨリ「カザン」ノ府中一番大ナリト云フ町ヲ廻リテ直ニ帰船ス
「カザン」ニ付モ岡上ニアリト雖ニヂニノブゴロット止程高カラス且ツ同所程ノ好風景

ナシ先是船ハ朝五時ニ「カザン」ニ着シテ同九時ニ接舷ノ若ニ「タイムテーブル」ニ載セタレ共其実ハ六時ニ着シ同八時接舷スルヲ以テ「カザン」府ハトテモ見ルヲ得ベカラズト「ホリレー」我等ニ語レリ然ルニ幸ニ一ノ良馬ヲ付ケタルイヴウオスチック」ニ逢ヒタルヲ以テ急キテ遂ニ同府ノ大町一個走ケヲ見ルヲ得タリ價ハ三「ルーブル」ヲ望ニ任カセテ遣ハセリ泊舟所ヨリ府内迄ハ二条ノ「ツレムウェイ」アリ粉土ノ細キ粉ニテ成ルヲ以テ風ナリモ馬車ニテ塵ノ立ツ甚ダシク路上韃靼人ガ馬車ニ荷物ヲ載セテ行ク者最モ夥シク韃靼人ハ紫髯緑眼ノ者多シト雖モ眼口ハ大ニ「アヂヤ」人ニ近シ只、亜細亜人ヨリハ野生ニ美ナリ頭ハ悉ク剃リテ全ク坊主ナリ「コロイン」ヲ蓋ヲ丈ケ「ドングリ」ノサヤ様ノ「ミユッツ」ヲ載キ而テ其上ニ帽子ヲ冠リ衣服ハ「ペルシヤ」ニ類セリ教門ハ回教ニシテ文字ハ「ペルシヤ」ニ同ジ「ペテルブルグ」ノ府ニアル韃靼商人ハ「カザン」府内ニ六大ニ富メル韃靼商人アリト云フ此辺甘瓜(マクワ)大ナル人頭ノ如キ者二十五「コペーキ」乃至三十「コペーキ」ニテ韃

韃人賣菜ル

午前八時「カザン」ヲ発シ十二時正午ニ「カマ」ニ着シ「オルガ」河ハ西南ニ流レ(即チ右)「シンビルスク」「サマラ」「サルトフ」等ニ府ヲ経遂ニ「アスタラハン」ニ府ヨリ「カスピヤン」海ニ入ル「カマ」河ハ泊源ヲ「カラル」山ニ発シ此所ニテ「オルガ」ニ出逢ヲナリ乃チ左ノ方「カマ」河ニ沿リ行クニ両岸基ダ高クシテ「オルガ」ノ如クナラズ河中処々ニ洲島アルヲ「オルガ」ニ異ナラズ「カマ」河ハ「オルガ」ニ異ナリテ澆筋深ク且ツ両岸基ダ高カラズ故ヲ以テ夜中岸上ニ燈明標ヲ見ルヲ甚ダ稀ナリ

八月一日 晴陰

河幅ノ幅員及両岸ノ景一様ニシテ更ニ昨日ニ異ナラズ四方ヲ決皆スルニ山ナシ

四昼夜行程ナリ

両岸赤土ノ粘土ニシテ松林処々ニ繁シ
ル五五乗松曲屈シテ大ニ本邦ノ景ヲ思ヒ出セリ午前十時「ピヤニボール」ト云フ村ニテ薪ヲ積入
ホール」ト、醉郷ノ謂ナリ
竟日経過スル所ノ風景別ニ記スベキ程ノ者ナシ両岸互ニ高低アリテ皆赤黒地
ノ膏腴ナリト見ヘ畑物、山上ニ迄出来居リ又牧牛羊場モアリ両岸処々ニ村落アリ
就中最大ナルハ晩方船ヲ一時間許リ停メテ薪ヲ積入レシ「サラポリ」邑ナリ人家、
約一千軒モアルベク寺塔処々ニ聳立セリ邑ハ高岡上ニアリ予ニ生ヲ拉シテ両側桑ノ馬
車一輛ヲ僦ヒ市中ヲ週ルニ市街ノ幅廣クシテ且正シ坂ハ処々ニアリ人家大抵皆木
製ニシテ石造モアリト雖ニ屋ニ過ギズ
此村尚尤モ富メリ予等見生ト共ニ長崎一足ヲ来ルニ儼僅ニ五「ルーブル」ニ過ギズ
「ペテルブルグ」ニ比スレハ百「ペルセント」迄廉ナルニ似タリ
夜ニ入テ風ヲ起シ烈シク細雨點々下ル暫時ニシテ止ム

本日晩食前文「ゲラウル」ノ話ニ曰ク頃日
何レモ許可ヲ得ベク而テ人皆大抵借用ノ好ク其期限ハ九十九年ヲ以テ或期ヲ了レハ又
々延ハスヲ得ベシ
金銀ニ鑛丈ケハ無税ナド其礦ハ官ニ賣ラルベカラズ官ニテ金鑛買上ノ定價ハ
金一「ゾロトニク」ヲ金貨三「ルーブル」五十「コペーキ」ノ割合ナリ（但シ其金鑛ハ官ヨリ居密
ニ「コペーキ」ノ割合ナリ
ニテ調ブルナリ
金坑ノ持主又ハ其職人金鑛一「ゾロトニク」ニ付テハ「ゾロトニク」ニ割ノ純金ヲ持来レハ紙幣七十「コペーキ」ニテ買遣シ
ヨリ「ペルム」迄ハ一千〇二十三「ヴルスト」ナリ故ニ「チニノブゴロウド」
ニ「ルーブル」ニ十「コペーキ」ニテ買遣ス故其出高年ニ四五「プード」ニ至レリトハ是レニテモ持
主ハ之ヲ官ニ賣テ利分少カラズ
八月二日 午前曇午後快晴「カザニヨリペルム」迄ハ一千四百〇四「ヴルスト」ナリ
竟日甚ダ穏ナル日寄ニテ午后三時頃ヨリテハ満天雲ナク風モ全ク微ナリ両岸景

備考
「ゾロトニク」ハ我ガ一匁一分三重五毛ナリ、九六「ルーブル」ヲ「ゾロトニク」トス

八更ニ昨日ニ異ナル河中深ク納基ヲ屈曲セル市昨日ノ如シ処々ニ松ヲ傳ヘテ蒋ヲ積ム処ニ二十分乃至一時間モ止ラス汽船ニテ登陸シテ其地味ヲ見ルニ皆粘土ト沙ノ交リタル膏腴地ナリ畑ハ山上迄能ク耕セル処多シ村落ハ皆丸木製ノ家ノミニシテ農家ハ皆富メリ「タール」人到処ニ多シ樹ハ松多クシテ良材ヲ処々ニ見ル

汽船ノ止ル処毎ニ魯ノ村婦群ヲ為シテ「イチゴ」(灌木ノ胡瓜、牛乳、パン等ヲ賣ル只韃靼ノ婦人ハ見ル丈ケ稀ナリ「タール」ノ婦ハ常ニ家ニアリテ家事ノミヲ司ドリ魯婦ノ如ク外出シテ稼ガズ「タール」ハ一夫数婦ヲ妻トルヿ「トルコ」「ペルシヤ」等ニ均シ是レ回民一般ニ乱タルヨリ斯ノ一夫ニシテ数婦ヲ妻トハ別ニ村ニ必ス独リ男子多カラント魯人ニ問フニ其答ニ「タール」ニハ女ノ生レル丁男子ヨリ多キヲ以テ其憲ナレト此後十年之ヲ信セス

晩食後甲板上ニ歩スル内ニ人中ノ一老人ニ其「アベセ」ヲ書セシム其字ハ二十八字ニシテ「トルコ」、「ペルシヤ」皆同文字ナリ

夜一時「ペルム」ニ着ス右側ニテリ即チカヽル河左岸ナリ迎ヘ役人等及馬車モ鎮台ヨリ出シ且ツ揚場ニハ「イルミナーシヤ」ヲ設ケタリ其親意真ニ謝スル外ナシ着船後カヨイトノ人声ト甲板上ノ喬音ト「ワンドロイド」ノ為メ寝ラレス四時人定ヲ待チ漸ク眠ニ就ク

八月三日 快晴

六時ニ起キ八時ニ登陸スレハ鎮台ヨリ役人一名警官一名警視廳ノ馬車ヲ以テ予ヲ「ペルム」府ノ商人某ノ家ニ宿セシム氏家主ハ彼得堡ヘ赴キシ留守中ナリト雖モ飾付モ頗ル立派ナリ鎮台下役ハ宿終始控ヘ居リ門前ト玄口ニハ「ポリス」ヲ置キ厳重ニ警護セリ

顔ヲ洗ヒ衣ヲ着替ヘテ後市川ヲ拉シ鎮台ヲ訪ヒ通辞ヲ以テ礼ヲ述ベ夫ヨリ下役ノ案内ヲ以テ「タランタス」一輛弐人乗ノ者ヲ三百十五「ルーブル」ニテ買ヒ更ニ小振ノ者一輛ヲ車屋ニテ「チユーメン」迄傭入ル「タランタス」ハ「バネ」有ル者モアリト雖モ聞キ糺スルニ今日見ル中ヒ

ハ「バ走」ノアルモノナシ其故ヲ問フニ「バ走」ハ途中ニテ必ス損シ而シテ之ヲ繕修スル能ハザルヲ以テ
細キ棒ヲ以テ「バ走」ニ換ヘタルナリ此「タランタス」ハ極メテ堅固ナリト請合且ツ見届ケタレ氏
高低ノ山道概ネヲ通ル時ノ動揺ハ息ヒヤラレタリ
当府ハ「カマ」河ノ左岸ニアリ家数ハ二千二ノ「フゴロウト」程多カラス然レ氏「ペルム」ハ佛国全
州程ノ大縣(グベルニー)ニテ「エカテリンブルグ」府モ亦此府ノ管轄ニ属ス下役ト暫時話セシニ左ノ如シ
「ペルム」ト「エカテリンブルグ」ニ府ト鉄道ハ殆ト将ニ落成セントス然レ氏未タ開カサルヲ以テ行客ハ旧
ニ由テ「タランタス」ニテ旅行スルナリ「ペルム」縣管轄中ニ就テ「ソリコム」郡「ルーニュフスキー」ニハ
石炭山多ク其量ハ毎年四十万「ミルリウン」「ポード」ヲ採ルモ六十年間ハ尽キサル筈ナリ
此石炭ヲ開採シテ魯国ノ汽船車等ニ用ヒ且ハ「エカテリンブルグ」ノ附近ニ鉄山及ヒ製鉄
所ニテ此近用ヒ来ル木薪ニ替ユル為メ新ニ四百八十一「ウェルスト」ノ鉄道ヲ筑キタルナリ但シ右
石炭ハ只ニ此ノ鉄道而已ニテ搬ブニアラズ兼テ又其山ヨリ此ノ鉄道ヘ通スル枝道(鉄道)
ノ外尚又「カマ」河岸近ヘモ枝路ヲ筑キテ川船ニテ搬ブ為メニ明年此ノ二枝道ヲ筑ク見込ナリ

リト云フ「ペルム」「エカテリンブルグ」本鉄道ノ價ハ凡ソ四十「ミルリウン」ナリト云フ石炭山ヨリ本鉄道
近ノ枝線ハ凡ソ九十「ウェルスト」又「カマ」河近ノ枝線ハ八十五「ウェルスト」許ナリト云フ
「ペルム」ヨリ「エカテリンブルグ」迄ニ「タランタス」ノ駅路弁セテ三百六十五「ウェルスト」ナレ氏此鉄道ハ
四百八十「ウェルスト」ナリト (此未詳 未確)
「ペルム」縣ハ毎年政府ヨリ二十万「ルーブル」ノ「ソブシヂー」ヲ受ケ居レリ同縣ノ村役(ゼムスツウオ)ハ三百五十
「デシャチン」ノ地主ナラデハ撰フヿモ撰ハル、ヿモ出来ズ其在職ハ三ケ年ニテ二十一以上ノ者ヲ用ユ
兼テ船中ノ約束ニヨリ「ゲネラール」某氏ハ「ペルム」ノ製砲所ヲ一見セラレヨトテ「インシェニエール」ヲ連レ
来ル於是正飯後寺見氏ヲ拉シテ「ゲネラール」及役人等ト共ニ四足引キノ馬車ニテ赴ク製
砲所ハ「カマ」河岸ニアツテ「ペルム」ヨリ我カ一里半許ナルベシ本日ハ日曜日ナレ氏「ヂレクトル」等
皆態々出テ来リテ悉ク予ニ各所ヲ示セリ大製砲所ニテ五十「トン」ノ「ハームル」アリ砲ハ「クルップ」
ノ製法ニ全ク同シ只鋼(ハガネ)ノ坪ハ「クルップ」ノ坪ヨリモ大ニシテ且ツ「グラフィート」数種ヘ極上ノ白
粘土ヲ和シテ作リ焼キタル者ナリ此坪ハ三四度用ユルヲ得ルト云フ両度用ヒシ者ヲ見ルニ

是ニ然ルベシト思ヘリ○銅ヲ熔カスハ「シーメンス」ノ瓦斯法ニテ瓦斯ハ木ヨリ取レリ此熔鋼
爐ノ煉火石ハ「クワルツ」ノ粉ヘ二「ペルセント」石灰ヲ加ヘタル者ナリト○「ブツリングスタール」モ
アリ又鉄ト鑄鉄ト割合セテ熔シ「スタール」ニスル法モ用ユ是ハ重ニ大砲ノ輪ニ用ユト云フ
三口径ノ「ハラスハルドカラナート」モ多ク鑄ル鑄型ハ頭丈ケ鉄ニテ其餘ハ沙ナリ同鉄ナレド
頭ハ早ク冷ルヲ以テ白色鉄トナリ其他ハ鼠色鉄ナリ又「テレッキバンク」ハボールニテ
見タル者ヨリ善シ「ボール」ノ心ハ空ニシテ鉄屑ハ此中ニ入ル○火薬ヘ鉛ヲ捲キタル者ハ先ツ
其鉄弾ヲ焼キ「ズ」ヲ以テ衣セ夫ヨリ別ノ型ニ入レ鉛ヲツギ込ムナリ又銅ニテ巻ク方ヲ旨ラ
用ユト云フ其製ヲモ一見セリ○此製造所ニテ用ユル鉄ハ皆魯産ノミナリ三時半ニ辞
去ル本日暑氣殊ニ甚シク路傍ノ粘土馬車ニ蹴立テレ烟ノ如シ
役人及「ゲネラール」ト共ニ前府ノ遊園ニテ晩食シ了リ夫ヨリ市川及二生ト共ニ浴室ニ至ル実ハ
低キ谷間ノ如キ処ニアリ温泉ノ心地セリ浴終リテ直ニ舎ニ帰リ旅装ヲ急頓シ午後
八時半過キ二輌ノ「タランタス」ニテ「エカテリンブルグ」ニ向テ発ス寺見生ハ予カ車ニ乗
込リ星光満天心地甚快馬ハ四足ニテ荷ノ重ニ許リニテモ約我カ七八十貫アルベシ然ルニ
馳ルヿ矢ノ如シ「ペルム」ノ馬ハ「キルギス」ノ種ニシテ大ナラサレ氏極メテ強ク且ツ疲レズ是ハ昨夕
船ヨリ一寸登陸セシ時現ニ着目セリ○前文「ゲナラール」某ヨリ「ペルム」ノ「ゼオロヂカルマップ」ト写真
壱枚ヲ得タリ馬ニ鈴ヲ付ケ其響構々トシテ馬夫ノ掛声ト相和シ甚タ壮ナリ路傍ニ「ナガン」ノ帳幕ヲ張テ
假居スルヲ見ル
「ペルム」出立ハ三日ノ午後八時半タリ同所ヨリ十七駅ヲ経テ「エカテリンブルグ」ヘ五日ノ午後一時
ニ着セリ但シ夜中モ兼行セリ駅ノ近キ者ハ十五「ヴェルスト」遠キハ二十五「ヴェルスト」タリシ
「タランタス」ハ兼テ聞キ及ベル通リ動揺大方ナラズ然レ氏昨夜殆ト眠ラサリシ疲レアルヲ以テ
二三時間ウツヽニ睡レリ駅場ハ村落ニシテ至レハ焼火アリ「ポリシ」立テ予カ来ルヲ警メ
村役ノ勘定スル様及ヒ馬ノ用意整ヒ居ル様抔殆ト我邦駅場ニ異ナラス駅馬ハ元来
魯国一般ハ官有ナレ氏「ペルム」ヨリ「エカテリンブルグ」ノ間ハ魯人某氏ノ受ケ持ナリシト云フ
○寺見子車中ニテ酒ヲ飲ミ萬里ノ行従是始ル等ノ語等アリ又車ノ動揺ニテ腹中轉
倒シ少シク痛ヲ覚ヘシガ須臾ニシテ止ム

八月四日

車窓ノ眠未ル迄ニ氣ハ氷點以下五度ナルベク自申暑氣ト大ニ異リ曉三時ヨリ日ノ醒ル天氣快晴殊星在天光クアリテ日出ヅ

「ベルム」ヨリ「ユカテリンブルグ」迄ハ土質皆「ケレイ」ニシテ灰色ナリ「フルハルデケレイ」ノ層粘土中ニアルヲ多ク見カケタリ所謂「ペルム、オルマーシー」ニシテ到処皆然リ

土地ハ高低甚ダ多シト雖モ急坂ハナシ然レ共名ニ聞ヘタル「ウラル」山嶺ヲ越ユルノ路ニヘ今モ高嶺ヲ見ンカトテ坂上ヲ望ムニ決シテ高山嶺トテハ一個モナク只次第ニ高ノ丸心地スルノミ

途中多少ノ村落アリ皆丸木製貧家多シ牛羊ノ路ニ横ル婦女児童等ノ予ヲ見テ立ツト村夫等ハ帽ヲ脱シテ立礼スル等皆記スベシ「ペルム」百八十二「ウラル」ノ一番高キ処ナリト其果シテ然ルヤ否ヤ知リ難シ且記シ置ク此処モ別ニ山ニシテナシ

水ハ処々ニアリ石ハ曾テ見ズ四方ニ木立能ク繁リ居リ此処ニ着シ清水ニテ茶ヲ煮之ヲ飲ミヲ加ヘ味殊ニ佳晝暮一駅ニテ晩食ス食了ハリテ直ニ又馬ヲ駆テ発ス附添役人ニ百五十「留ル又ト」迄送リ来レル者アリ是ヨリ「ケガロツプ」ニ至ル毎駅走セ来ル故モアリ路ハ「ケレイ」ヘ馬跡馬車ノ跡ニテテキボクナルニ「ガロツプ」ニ過ルル次テ車中ノ動揺実ニ言語ニ絶セリ眠ルノ得ズ然レ共前路ヲ急ト試ミノ為メトヲ思ヒテ我慢セリ夜十一時頃殊ニ甚タシカリシカ流石ニ昨夜ノ極レリト見ヘ夢幻間ニ車幕窓ヲ上ル夜既ニ明ケントスル時ニ前ニ叶ヒリ寺見ユヨリオコスニ遑モ覚ヘス眠リタル事ヲ知リ此ノ動揺ハ頭ヲ打ツ程ノ大風浪中舩ニ乗ルカ如ヨリモ体ニ疲レリ

「ベルム」ヨリ以来官路皆十間許リニシテ両側ニ小溝アリ左右ニ又十間餘草地ヲ残シ置ケリ是レ牛馬ヲ連レテ行ク者ノ為メト聞ヘタリ山ニ到処甚タ高カラズ

五分通り畑より他、五分、林より只日本如き大樹ニアラズ路傍景色ハ大ニ北海道
札幌近邊ニ似タリ地ニ膏腴ナル以テ畑皆宜シ只村ニ甚タ稀ナリ牛馬鳥雀
外珍禽奇獣ナシ狼ハ時折出ルト云フ又熊モアリトカ
○本日途次ニテ「シベリヤ」行ノ罪人五十餘名「タランタス」ニテ行クヲ見ル就中惨ヲ脫シテヲ等ヲ携ヘル者アリ皆髪剃去ラレタルモノアリ婦人ノ別車ニテ随行スル者アリ罪人ノ「ファミリー」ナルベシ又婦女ノ嬰児ヲ抱キテ其ノ夫ノ「シベリヤ」行ニ従フ者アリ坐ロニ哀情ヲ発セリ罪人ハ鎖ヲ繋ギタト聞キシカ然ラズ只轅毎ニ兵士一名附添居レリ
○「ペルム」ヨリ「エカテリンブルグ」迄ノ鉄道ニハ「トンネル」ナシ只橋ハ数ケ所アリ地高低アルヲ以テ價高

八月五日

前ノ如ク昏夢漸ク覚ヘ大ニ元氣ヲ覚ヘリ於是焼酎一口ヲ喫見ヲト共ニ飲ミ焉
前ノ幕窓ヲ揚ルニ山氣鬱茫トシテ暁雲前途ヲ遮リ霧ノ如シ高所ヲ知ルベシ
但シ本日ハ曇ルニ故尚更ナリ山路高低アルヲト馬ノ疾走スルヲ昨ノ如シ路傍ハ好ク
松林密立セリ
朝五時一駅ニテ茶ヲ飲ミ且夜来市川子馬車ノ損セルヲ修繕スル為メ二時間許リ
此ノ村ニ止ルヲ以テ際ニ駅ノ「カナペー」ニ假眠ス快甚シ既ニシテ損所直リ直チニ又発ス
途中製鉄所一個所ヲ見タリ湖ニ添フ
昨夜ヨリ「カガク」ナルカ知ラネドモ「ポリス」前後ヲ車ニテ護シ来リ警官礼義厳キ
ヿ感心セリ馬ハ「カロップ」ノミニテモ行ヲカズ
右ノ如ク「カロップ」ノミニテ来リシヲ以テ十二時半「ペルム」ヨリノ命ニヨリテカ為メニ備ヘアリ旅宿ニ
午飯ヲ加ヘテヨリ衣ヲ改メ良車ヲ儀ニ「ポリス」ノ頭ヲ訪ヒ出迎ノ禮ヲ謝ス「エカ
テリンブルグ」ハ鎮台ナシ「ポリス」ノ頭ハ即チ市中ハ隨分立派ニテ

高所ヨリ望メハ殊ニ美ナリ町幅モ廣ク人口ハ
「ポリス」ノ頭ニ聞クニ云ク「エカテリンブルグ」ハ「ウラル」山嶺ノ東腹ニアリト然ラハ即チ予
等ハ知ラズ／＼欧州ヲ越ヘテ「アヂヤ」向ノ東腹ニ下リタルナリ
旅屋ノ主人ハ猶太民ト見ヘ挙動不快ヲ覚フ詰合ヒノ小吏ヲ前導セシメ既ニ閉
ヂタル宝石店ヲ八時前ニ戸ヲ開ツ開カシメ「トウパース」(所謂「ウラルセ、ブリヤント」)等石ヲ買フ
午后三時頃ヨリ雨降リテ止マズ○午飯后浴室ニ赴ク甚ダ好シ洗濯物ヲ明午后五
時迄ニ終ラシメヨト命ズ夜十二時迄行ニテ筆ヲ擱ス更ニ疲レタル心地ハナシト雖モ熟
睡スルナラン本夜ハ前日船中「ワンドロイ」ノ一ニヨリ避虫粉ヲ寝所ニ振散セリ只ニ今
夜ハ虫ニ襲ハルヽコトナキヲ願フ十二時ニ夜柝響キ窓外雨声ナシ犬ノ吠ユルコト遠ク耳
ニ達ス既ニシテ枕ニ就クニ幾クモナクシテ煩寛ヲ覚フ覚メテ見レハ即チ虫ニ刺レタル
ナリ於是燭ヲ燃シテ虫ヲ殺スコト三匹ニ至ル更ニ粉ヲ面部及寝衣ニ付ケテ眠リ直
チニ朝七時迄熟睡セリ

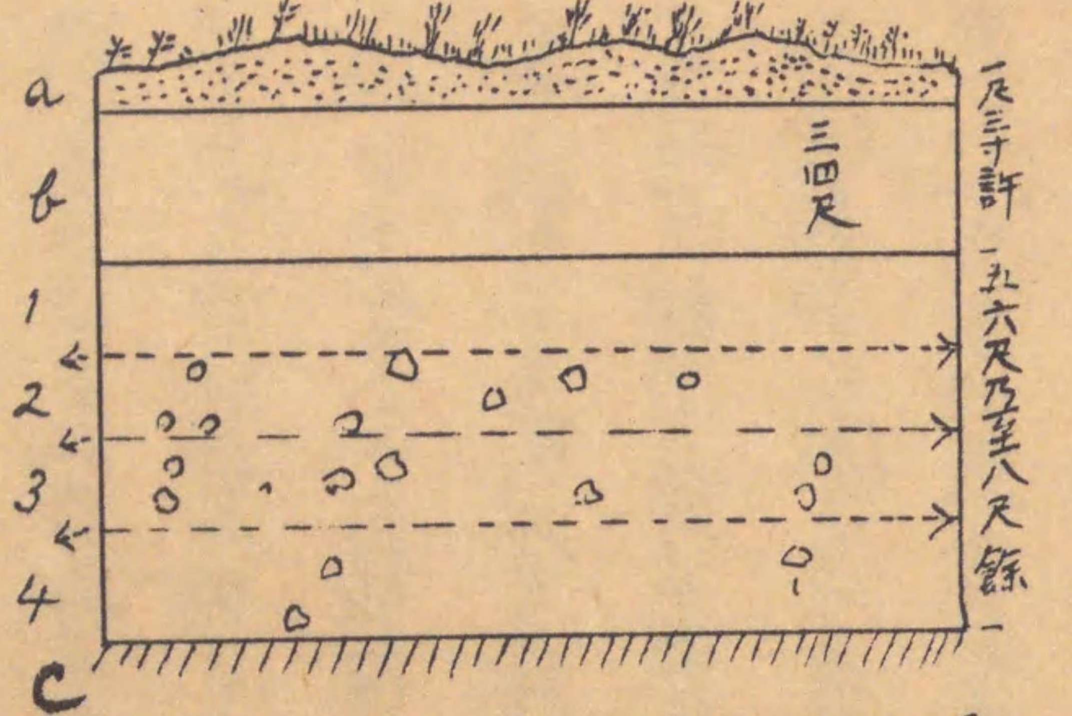
○

「エカテリンブルグ」ヨリ三十五「ウェルスト」手前ノ往返駅ニ「ニヂニシャイタンスキー」ト名付ル処
アリ此処ハ即チ欧亜ノ分堺ニシテ水ハ此辺ヨリ分流スト云フ即チ昨日経過セシ所ナレ氏高
処ニアラサルヲ以テ欧亜ノ分堺タルハ「エカテリンブルグ」市正某ノ話ニテ始メテ知レリ市正
(「ゴロスカヤ、ガラワ」即チ「ビュルゲルメーステル」ノ義)某ハ民撰ニテ七年前ヨリ両度撰バレタリト云フ「エカテリンブルグ」
ノ市政ハ即チ府内「アドミニストラシー」ノ頭ニテ「ペルム」ハ十二郡ニ分レ各郡皆此ノ市正ナル者アリ民
撰ニテ四年間ナリ○「エカテリンブルグ」管轄中即チ十二郡ノ中ニ出来ル麦ハ大抵毎年五百万俵
モ他県ヘ出ス多クハ「カマ」河ニテ上作ノ年ハ麦一「プード」ニ付キ價十五「コペーキ」ニ過ギスト云フ
管轄中及府ノ附近ニ鉄銅其他ノ製造所アレ氏皆政府ヨリ現下民ヘ売拂ニ出シ盡
クシテ目下働カズ

八月六日　雨

徹宵有雨午前十時市正某氏(前文ニ記セシ人)禮服ニテ予ヲ訪ヒ来ル又砿山次官陸

筆大佐某モ来訪ス皆面語ス十時ヨリ「ポリシー」頭ノ案内ニテ政府所属ノ石細工所ヲ一見ス水車ニテ働ケリ構ハ稍大ナレモ目下寥々タリ夫ヨリ前ニ氏郎ニ名刺ヲ投シ直ニ府外ニ「ウヰルスト」許ノ小丘ナル地即チ沙金場ヲ訪フ此沙金場ハ十五年前迄ハ政府ノ働キシ所ナレモ原来抛チテ働カス現下二ケ月前ヨリ商府ノ一巨商「パウルミハイルウヰチ、オシエルコフ」ナル者兄弟二人ニテ堀試ニ従事セリ其地タル赤地交リノ小高キ平地ニテ然カモ処々ニ沼地様ナルタマリ水アリ地面ヨリ堀下ケ三四尺ニシテ「クワルツ」交リノ沙礫アリ之ハ土分ヲ金ヲ含有スル土ト称ス其厚サハ均シカラサレモ大抵六尺許ニシテ止ム其ノ下ハ又ニ別ノ土ニシテ金ヲ含マズ其證トシテハ「クルワツ」ノ屑ノアラヌヲ以テ知ルト云フ堀主云ク予レ二ケ月以来如斯処々ニ穴ヲ堀チ試ムルニ大約四層ヲ為ス了左ノ如ク而シテ第三層ノ処ニ金ヲ含ム多キヲ見ルト



aハ従来ノ土ナリbハ沙礫交リノ赤土ノ、4ハ同色ノ土ニシテ中ニ「クワルツ」ノ片屑ヲ多ク含ム是レ即チ沙金ヲ孕メル土ナリcハ又金ヲ含マザル赤土ナリ

○試堀ノ了ナルヲ以テ洗ヒ場ハ水ヲ貯ヘコレニ筧ヲ付ケ舌アリテ水ノ注入スル多少ヲ規則立テ而シテ筧ノ下ニ「クラヅル」ヌ者動揺セヲ振付ケ「クラヅル」ノ上部即チ砂土ヲ抛入ルル処ニハ鉄板ニ栂許ノ穴ヲ穿チアリ其下ハ第一、第二、第三ノ三個ニ隔板ヲハメ第一ハ急ニ斜ヲ為シ第二第三ハ緩ナル度ナリ

地ヲ穿ツニハ鶴嘴ヲ用ヰ而シテ其土ヲ鉄ノ半円状ノ器ニ入レ車ヲ取付ケ馬ニテ洗場ヘ引行ク其洗方ハ本邦ノ洗金ノ節ノ手際ニ全ク異ナラズ甚タ熟練ナル者ナリ予ハ之ヲ見テ昔「ケンヌイ」十勝等砂金洗ヒノ了ヲ思出セリ○堀主云ク土ノ嵩壹百「プード」ニ付キ砂金三十「ドリ」ヲ是迄得タリ是レニテハ利益ナシ希望スル所ハ壹百「プード」ニ付キ四五十「ドリ」

ヲ得ベキニアリ一「プード」ハ四十「フント」、一「フント」ハ九十六「ゾロトニク」、一「ゾロトニク」ハ九十六「ドリ」ナリ是故ニ百「プード」ノ土ニ三十「ドリ」ノ砂金アルハ三百六十八万六千四百分ノ三ニシテ即チ土壱百万分ノ一ニ不足カ砂金ナルナリ堀主又云ク水カ自由ナル時ハ百「プード」ニ付キ二三十「ドリ」ノ金ニテモ器械ヲ以テ洗フ件ハ利アリト

堀主ハ予カ為メニ二十「プード」ノ土ヲ堀ラシメ之ヲ洗ヒ水銀ニテ「アマルガメート」シ而シテ之ヲ鉄皿ニテ水銀ヲ蒸発セシメ(火ニ焼テ)而シテ之ヲ目方ニ掛ケテ見タルニ砂金二十二「ドリ」アリタリ去ハ百「プード」ノ土ニ砂金一「ゾロトニク」ト十四「ドリ」ノ割合ナリ即チ土三十六万八千六百四十分ノ一ノ砂金ヲ含メルナリ堀主ハ此ノ金ヲ予カ記念ノ為メニトテ予ニ送レリ且ツ云ク本日ハ高貴ノ客ニ示サントテ職人等格別ニ骨折テ良キ砂土ノ部ヲ洗ヒタルニヨリ斯ル好結果アリタレ𪜈何レノ部モ斯カル度ニ参ラズト断ハレリ予ハ金ノ多量ナルニ驚ケリ然レ𪜈是レ恐クハ堀主予ニ示スカ為メ洗器中ヘ預メ洗ヒ置キシ良砂ヲ交ヘタルナルベシ其證ハ堀主兄弟三人並ニ子息等モ此ノ多量ヲ見テ更ニ驚喜ノ色ヲ顕ハサーリシニテモ推知シ得べケレハナリ況シヤ堀試ノ始ニ於テヲヤ、然レ𪜈堀主兄弟三人ハ何レモ合力同心シテ従事シ且ツ極メテ殷勤ナル様イカニモ山師ノ風ハ断シテナシ察スルニ殿様ウヅラ狩リニハウヅラノ群レ立ツト同一ノ承計ヒナラシ斯ル風ハ却テ人笑ヲ招ケリ堀主ハ其所堀ノ金砿二塊ウラルノ別砿ニテ採タル者ヲ予ニ贈レリ予ハ其ノ二塊ヲ大関寺見二生ニ與ヘリ

○「エカテリンブルグ」ハ人口参万五千人ナリト市正語レリ市中ノ長サハ我カ三十丁餘ナリ今年ノ魯暦書ニ拠レハ弐万五千百三十三人ナリト此ノ説確カナルベシ

午后六時雨ヲ冒シテ発程ス「エカテリンブルグ」府ハ出入処共ニ「オブリスキ」状ノ煉火石柱長サ二十五尺許ノモノ雙立シテ郭門ヲ為セリ上ニ双頭鷲ノ飾アリ今夜雨頗ル盛ナリ車ノ動揺頗ル甚シ

○「エカテリンブルグ」府内ニ頗ル大ナル一湖アリ「ウエルフ、イセツキ」ト云フ高厦岸ニ臨テ立ツモノアリ湖水樹影相映シテ大ニ風色ヲ添ヘリ

八月七日　陰時々細雨アリ

暁四時ニ昏夢醒ム車窓ヲ開ケハ冷氣膚ニ透ルヿ我カ十二月初旬ノ如シ六時頃車駅ニテ朝飯ヲ加フ茶砂糖ハ共ニ自ラ携フル者ニ係ル「パン」其他肴モ求スレハ得ヘシ

途中「タランタス」荷物車ノ五十乃至七八十輛連リ来ルニ逢フヿ屢次但シ十車ニ馬夫一人位ノ割ニテ其餘ハ馬自ラ行ケリ其荷物ノ何物タルカヲ問フニ皆「キヤクタ」ヨリ輸搬シ来ル支那茶ナリ此ノ茶ハ現下「ヤルマルク」立タルヲ以テ斯ク陸續来ルニヤト問フニ平時ニテモ「キヤクタ」ヨリ茶ノ輸送ハ絶ヘスト答ヘリ馬ハ「ペルム」迄ノ通シナリト

本日午后ヨリ岡陵ノ如キ者モ甚稀ナリ其皆ヲ四方ニ決スルニ絶テ山ナシ「ウラル」山麓モ既ニ断ヘタリト思ハル道路ハ昨ノ如ク北海道ノ新道ト大サ迄モ全ク相似タリ処々ニ「フルハルデケレイ」ノ焼キタル小塊ヲ積テ路側ニアリ道普請ノ為メナリ斯ル手入レニ関ラス路ハ粘土ニテ車轍ノ陥入スルヿ稍深ク（雨アリシニ因ル）故ヲ以テ予等ノ「タランタス」動揺スルヿ午後ハ殊ニ甚タシク轉倒反側スルヿ文王カ婚礼前ニ似テ絶テ夢ヲ結フヿヲ得ス

○沿道ノ土味ハ黒色ノ膏腴土ニシテ雑草木立及ヒ穀類ノ繁キニ感セリ黒麦ト「アウヨース」多シ能ク耕シタルニ感セリ畑ニアラサル処ハ牛羊豕馬等ノ牧地トナリ居レリ樹ハ「ペリヨーザ」カンピ（カバ）ト松ノ外ハ他樹ヲ見ス

午后五時頃一駅ヨリシテ農民等ノ乗ル陳　ノ「タランタス」一輛ヲ傭ヒテ試ミニ乗リシニ我等ノ大「タランタス」ヨリハ動揺少ナクシテ尤モ実際ニ適スルヲ覚ヘタリ此ノ種ノ大「タランタス」ニ変化ヲ加ヘタランニハ旅人ノ為メニ快キ車トナルヘキニ貴人等ハ不都合ノ大「タランタス」ヲ依舊コレヲ用ヒ来ルハ新ヲ好ムノ氣象ナキ旨且風ヲ見ルベシ○風車ノ屋ニ一大心木アリテ屋ハ此心木ヲ廻ル様ニ仕掛ケタルヲ見ル風車ハ板ニテ作リタル四枚羽子ナリ○馬夫ニ問題ヲ出シテ左ノ「インフォルヌーション」ヲ得タリ

此邊地價一「デシヤチン」（我二千四百坪）ニテ十「ルーブル」ヲ常トス林ノアリテ未タ耕サヽル地ニテ同價ナリト是レ薪ノ價アルニヨルモノカ

此ノ辺ニテ三「デシヤチン」ノ畑ニテハ夫婦暮シニ不足ナルヲ以テ夏ノ分ハ耕シ冬ノ分ハ薪ヲ切リ旅物ヲ搬フ賃銭等ニテ生活ス

乳牛ハ上等ノモノ一頭ニテ十五「ルーブル」、中部十一二「ルーブル」、下ノ部ハ僅ニ七八「ルーブル」ナリ
羊ハ雌雄共ニ各頭三「ルーブル」○馬ハ耕作ニ用ル馬ハ五十「ルーブル」是ハ甚タ高價ナル覚ヘキ説ニ
豚ハ四才位ノ者ニテ四「ルーブル」
雁ハ雌雄ニテ一「ルーブル」但シ一羽五十コペーキ ○家鴨ハ三十「コペーキ」
鶏ハ(ガンピカバ)壹「サーゼン」ニテ一「ルーブル」ニテ文
秣ハ壹「プード」ニテ二十「コペーキ」
牛肉ハ壹斤ニテ五「コペーキ」但シ「コカテリンブルグ」ニテハ八「コペーキ」ト云フ間ケリ
黒麥ハ一「プード」ニテ七十「コペーキ」「バター」ハ三十「コペーキ」是ハ甚タ高價ニ過ク
本日モ通過スル処ハ小駅間ニ高救ヲ所ノ村落アリ大ナル者ハ十七八丁ニ長サニ至ル迄ニ
皆丸木製ノ倉家ニシテ多シ婦女児童等太抵皆跣足ニテ歩ス衣服モ甚タ負シ
牛羊雁等路傍ニ群レリ羊ハ黒白斑毛ノ者多ク豕ハ白色ノ者多ク脊筋ニコワキ
毛逆立ヲ指ヲ本邦ノ豕ト全異ヲ覚ヘリ首ニ又ヨリ鈎シ置ケリ是シ觸ニ恐ルヽ為ナリ

本日モ罪人百名以上「タランタス」ニテ「シベリヤ」ヘ送ル者ヲ見ル或ル村ニテ罪人ノ投宿所
ヘ入ル者アリ外見ハ立派ノモノナリ
本日ハ竟日吟嘯ニテ察スルニ列氏氷点上七八度ニ過キサルベシ予夏服用意ノミシ来ル
ヲ悔エレ氏及ブナシ
午後八時「マルコフスカヤ」村ニ達スル所モ高ベル山嶺ニテ此ノ村ト次ノ駅間ハベル山嶺ヲ越
ニテ夫ヨリ先キハ「トボルスク」縣内ナリ
着スル少々前ヨリ雨ソボ〳〵降リ出ス駅ニ馬數ヒ長レル馬夫等皆云フ前路
ハ道路殊ニ悪ク黒泥ニテ大ノ「タランタス」倒覆ノ患ナキヲ保シ難シト於是本夜ハ駅
亭ニ一宿シ明朝五時ヲ以テ発程セントニ決セリ晩食ヲ高主ニ命シ良好ノ牛肉胡
瓜等ヲ食フ味尤モ佳

十九

弐ノ駅ノ一ツ前駅ニテ「ツーメン」ヨリ汽船出日ノ「カルタ」ヲ見ルニ本日午後三時ノ出船ニテ既ニ
間ニ合ハサルヲ知リ此後ハ一週日後ナルベシト聞ヲ大ニ失望セリ何トナレハ「タランタス」ノ真

二接間道具ニテ我等一同既ニ厭ヲ生ジタレバナリ進ンデ弥「チューメン」ニ於テ一週日ヲ待タルヲ得ザラバ寧ロ「タラシタス」ニテ陸行クニ如カズト予ハ決セリ

夜十一時半二生ト共ニ一燈ノ風テ此行ヲ書シテ又是ヨリ眠ニ就クノミ憂ル所ハ相替ラズ「ワンドロイス」ノ襲撃ニアリ

本日ハ駅ニ於テ西子ノ電信ニ接スル荷物ノ一ニ付キ問合セヤリ即答ス

八月八日　快晴

拂暁四時眠覚メ三子ヲ喚起シ旅装ヲ理ス昨夜「ワンドロイス」ノ患ナカリシ是ト前夜「ユカテリンブルグ」ニ於テ避虫茶粉ヲ掛ケ寝衣ヲ外套ト為テ眠リタル二由レリ五時五十分発程ス天象快晴秋冷襲衣神棄殊ニ行クニ二尺五寸角長サ十五尺許ノ目標アリ此処ヨリ先キハ「ボルスク」縣ナリ晝休小駅ニテ役人ヨリ聞クニ此標石ヨリ欧羅巴ト亜細亜ノ境即チ真ノ「シベリヤ」ナルヲ表スルナリト云ヒ説ハ「ユカテリンブルグ」府市正ノ口上ト差アレドモ「ウラル」嶺ヲ以テ欧亜境界ト為スハ世界一般地理上ノ

於テ認ムル所ニ掛リ而シテ本日標石ノ処迄ニ「ペルム」山縣ノ管轄タルヲ以テ曾テ以テ表石ヨリ以テ「シベリヤ」ト欧羅巴ト境ト立テタル者ナルベシ

表石ヨリ前途ハ土味濃粘土ニシテ日未ダ雨ヲ経ザルヲ以テ馬夫極メテ徐々ニ馬ヲ使ヒ其進ミ人ノ歩行ヨリ少シク疾キニ予於是寺見生ト共ニ車ヲ出ヅル草間ヲ歩行スルヿ殆ト三「ウラル」ニシテ又ニ車ニ上ル車中ニ在テハ治茶ヲ覚エザレドモ歩行スレハ外套ヲ脱ザルヲ得ザル程ノ熱サヲ以テ路傍ノ景ハ全ク昨日ニ異ナル道悩亦同ジ斯ル粘土ナレバ作物モ必ス悪シカリナント思ヒシニ路傍左右ノ畑ニハ黒麥（アクロース）燕麥（ハバ）「フラクス」等能ク繁殖スルヲ見ル又牧場モ甚タ多シ四方ヲ眺望スルニ絶ヘテ山ナク只雲樹ノ花ノトレテ「ホリソント」ノ如キヲ見ルノミ樹ハ木相替「ガムピカバ」多ク又赤松ノ極メテ枝振ヨキ者亦往々有之此ノ庭木ニ移シタランニハサゾ好カルベシナド寺見生ト語合ヘリ

行逢ノ車ハ昨日ノ如ク「キヤクタ」ヨリ支那茶ヲ積ミ来レル者多ク其数常ニ五十輌

以上ナリ斯ル車隊ヲ見ルコト午前後数次ニ及ベリ以テ「キヤクタ」茶商買ノ盛ナルヲ知ルベシ
又此茶ハ「キヤクタ」ヨリ「イルクーツク」ヲ経テ来ル者故「イルクーツク」ヨリ「キヤクタ」ノ間ハ荷
車常ニ絡繹トシテ寂寥ナラザルベキヲ推察セリ
車ノ覆ヒヲ全ク下ゲ青天ヲ戴テ車行スルニ深秋風景殊ニ客眼ヲ慰スルニ足ルト雖
樹立ハ「ガンピカバ」多キヲ以テ霜後ノ色多ク加ルニ雨景ト雷雲ハ秋風ニ吹送ラレ互ニ
位置ヲ変スル様ナド自ラ寂寥タリ此ノ寂寥ヲ破ルハ只馬鈴ノ音ト馬夫ノ馬
ヲ励マス一種異様ノ大声ノミナリ五年故国ヲ离レ今シモ無事ニ任所ヲ発シ帰
国スル者ノ目ニサヘ深秋粛殺悲惨ノ念ヲ起サシムレバ夫ノ罪ヲ負テ「シベリヤ」ニ送
ラルヽ罪人等ノ胸裏ハ如何ナラント察セラレタリ
十二時半過キ村駅ニテ雞卵ヲ焼カシメ所携ノ赤葡萄酒及茶杯ヲ出シテ聊カ昼
食ス此駅ヘ「チユーメン」府ノ「ポリシメイストル」及下役等出迎ニ出テ来リ居レリ彼等ハ
常ノ如ク我等ノ車ヨリ疾ク前行ス先是駅場並ニ路傍ノ村落毎ニ百姓男女
等何国ノ人ナランカト疑フ如キ顔ニテ皆我等ノ過グルヲ見詰メ居レリ予等ノ車過グ
ル所男子ハ皆大抵帽ヲ脱シテ揖セリ村樸ノ風何国モ皆大同小異ナリト雖魯国
民ハ殊ニ素性朴タル者ニテ又愛スヘキ所アリ此等ノ風ハ我邦自今洋癖者流ノ目ニハ卑
屈ト見做サルベク又漢癖者流ノ心ニハ礼儀正シキ風俗ナル哉ト感セラルベシ
午後四時頃車既ニ「チユーメン」府ヲ距ルコト我カ一里許ノ処ニ近ツケリ白壁ト寺観ノ尖頭及ビ
「ギボシ」処々ニ聳ヘ木製ノ家屋其間ニ隠見シテ約我カ一里ノ長サヲ為スハ頗ル繁
華ノ府タルヘキヲ知了セシム既ニシテ府ニ着スレハ大ロノ立派ナル石造ノ建家アリ而シテ兵
卒等銃ヲ荷テ立番セル様始メハ屯所ナルヘシト遠クヨリ察シ居タルニ近視スレハ罪
人ヲ入レ置ク所ナルヲ知レリ
府内ニ乗入ルニ一大商家ノ戸前ニ役人等及見物人ノ群レルヲ認メタリ是ゾ此レ午
飯ノ時出迎役人ノ語リシ如ク予カ為メニ西「シベリヤ」大鎮台「カツナコユ」ノ命ニテ
設置カレタル旅宿ナリ旅装未解ノ時戸ニ入レハ役人並ニ家主「ツルソユ」氏父子

戸ノ側ニ駢立シテ予ヲ礼セリ家主及ヒ「ポリシメイステル」予ヲ前導シテ樓ニ登リ廣間
ニ入ル八年頃二十三四ナル婦人黒色ノ絹衣ヲ長ク引キテ予ヲ迎ヘテ揖セリ是ハ子息妻
ナル由後ニ聞ケリ広間ハ四十畳許リ其次ノ間ハ客間ニテ二十五畳許ニシテ「カナペ」
及机子等皆黄色ノ「リンゴ」極メテ新シク見ヘタリ其外飾付ケ及壁、天井上飾物等甚タ
華美ナルヿ一目シテ其富商タルヿ知レリ其次ノ間ハ予カ為メニ設ケシ寝所ニテ平日
ハ婦人ノ居間ナルヘシト察セラル窓ハ三間共ニ折曲リテ市街ヲ見晴ラセリ此寝室ハ
四間四方ノ広サニテ巨大ノ椰子樹及ヒ美麗ノ草花ヲ「ブケット」トシテ飾付ケタリ是迄ニ
無キ美屋ニシテ昔年「ウラヂミル」及ヒ「アレキシー」親王カ巡行ノ時此ノ家ヲ以テ旅館ト
為シタル旨家主予ニ語レリ家主ノ書斎ハ寺見ヘ大閤ニ生ノ部屋ニ設ケ置キタリ此ノ
部屋ノ机ノ上ニ両親王ヨリ賜ハリタル写真ヲ飾置ケリ予モ家主記念ノ為メニト
テ「カビネット」写真一枚ヲ与ヘント約セシニ家主甚タ喜悦セリ、家主ハ大礼服ヲ着シ
勲ヲ帯ヒタリ其製各国公使館書記官ノ着スル者ニ同シ是レ此ノ家主ハ一等

商人ナルニ生スルカ若クハ府会ノ議員タルニ坐スルカ詳ナラス歳ハ六十餘ナルヘシ子息ハ三十二
三ニシテ「フラック」ヲ着ケタリ小使等モ皆「フラック」ヲ着ケタリ予カ悦フ所ハ大鎮台カ日本
国公使ニ対シテ注意ノ篤キヲ以テ第一ト為スヘキヿ論ナシト雖トモ亦斯カル清善ナル
室殊ニ寝所ニハ我カ大敵タル「ワンドロイス」住マサルヘキヿモ第二ニ居ス
六時ニ広間ニ於テ家主父子ト共ニ晩食ス主人ノ饗應アリ食事中ノ話左ノ如シ
「チューメン」府ハ人口一万五千人、物産ハ製皮、穀類、脂（ファット）ヲ以テ最トス穀類多クシテ豊歳ニハ一「プ
ード」ニ付キ八「コペーキ」位、平價ニテモ三四十「コペーキ」ニ過キス又牛肉一「プード」ニ付キ四十「コペーキ」
即チ一斤一「コペーキ」ナリ是品物多キニ捌口ナキヲ以テナリト然ルニ頃日英国ノ商船一
隻氷海ヲ航シ「オビ」河口ヨリ入リ来テ現ニ今「ドボルスク」府ニ来リ居レリ此船ハ水入十
尺ナルヲ以テ当府迄ハ入リ来ルヲ得ス是レ始メテ入リ来タル船ナリ此船英国ヨリ「オビ」河
口迄二十一日ニテ来リタリト又外ニ四百噸ノ英船此河ニ来ル見込ニテ本国ヲ発シタル
ニ今ニ至ル迄消息ナキハ氷塊ニ触レテ砕ケタルナラントノ噂アリト又彼得堡ヨリモ三四

隻来ルベキ筈ナリト

当府ハ「ウラ」河畔ニアリ此ノ河路ヲ汽船ニテ「トムスク」府迄達ス航路其里ニシテ客船ハ十日ニシテ達シ荷船ヲ引ク汽船ハ「トムスク」迄十四日許ニテ達ス

「エカテリンブルグ」ヨリ当府迄ノ鉄道ハ未ダ着手ニ至ラズ予其社既ニ「コンセッション」ヲ政府ヨリ得タルニヤト問ヒシニ未ダ得ザレ𪜈其社ハ多分「ペルム」「エカテリンブルグ」汽社ナルベシト 賄ノ價ヲ問ヒシニ一「プード」ニ四「ルーブル」二十「コペーキ」ナリト答ヘリ去レハ肉ヨリモ十倍貴シ難信

当府冬ハ二十三四度ニシテ魯京ヨリ厳シク河氷ハ十月ヨリ四月末ニ流ルト云フ

昨年ノ戦争ニ当府ノ兵モ出張セシヤ否ヤヲ問ヒシニ出張セズ只一二大隊当府及「ドボルスク」府ヨリ「タシケント」ヘ出兵スヘシトノ命下リ（是ハ英ノ印度領ヲ擾乱スル為メナリト聞ケリ）出張セシカ其ノ兵ハ今次伯林ノ和約ニヨリテ現ニ帰途ニアリト聞ケリ云々予云ク近頃印度侵入用意ノ兵ハ「ゼネラルカウフマン」氏ノ令ニテ三道ヨリ「ブハラ」国ニ入ルベシトノ噂サヲ新聞紙ニテ讀ミタリ然ルニ当府ノ兵帰リ来ルハ予カ聞ク所ニ異リ別ニ「ブハラ」一件ヲ聞込ミタルコアリヤト尋子シニ知ラズト答ヘリ

是レ商事ニアラザルヲ以テ商人ニ問フハ其人ニアラスト思ヒテ止メリ

当府ニテ船及汽船ノ機関ヲモ造立ス河蒸気船ハ三十艘アリ但シ引船ノ汽船ヲ併セテ云フナリ

晩食後「ポリシメイステル」ト市正ノ家ヲ訪フ不在ヲ以テ名刺ノミヲ投ジ寄ル館主ノ車ニテ市中ヲ一見ス時既ニ黄昏市中ニハ往々二楼ノ石造家美ナル者アリト雖多クハ木屋ノ低キ者多シ

市街ノ幅広キコ是迄ノ府ニ同シク又漠々タル平地ニ市街忽然トシテ存在スルコ恰モ札幌府ニ似タリ府ノ入口ニハ目標ナシ

八月九日 午前陰雨午后晴

昨夜ハ思ノ外枕ニ就クヤ否ウナサレ眠成ラズ何事ニヤト思フ中ニ眼ノ側頻リニ痒シ因テ例ノ敵虫ナルヲ知リ急ニ起テ火ヲ點シテ検スルニ跡ナシ暫クシテ一頭ヲ見出シ焼殺ス再眠未成手足ノ痒キヲ覚ヘ醒メテ検スレハ三頭顕出セリ悉ク焼殺ス如是コ猶一次ニシテ遂ニ暁三時過キニ達ス乃チ知ル此家ノ如キ美屋ニテモ此ノ毒虫跋扈スルヲ嗟夫真ニ可厭哉

朝九時起眠迚ハレテ黒相ヲ為ス奈何トモスベカラズ珈琲ヲ飲ミテ後市川子ト共ニ「タランタス」
一輛ヲ買フ價三百「ルーブル」ニシテ甚堅且ツ美ナリ八百「プイド」ノ重ミヲ載セテ試ミタルモ
ノナリト云フ大サハ「ペルム」ニテ求メタル車ニ同ジ夫ヨリ「フラネル」股布（もゝしき）襦袢等ヲ買ヒ旅寒ノ仕
度ヲ為ス大岡生ニ會シテ当府ノ寫真一枚ヲ買ハシム此壹枚モ寫真ノ家屋ナル者ヲ
漸ク懇請シテ得タルナリ写真師并下一軒アルノミ市街ヲ行ク者ハ魯人ノ外ハ韃靼
人ノミニシテ別種ノ人ナシ〇午前ノ時候ハ本邦十月下旬ノ如シ是ハ通例ノ時候ニハアラズト
家主語レリ十二時半ニ主人父子ト我等一行共ニ昼食ス「ザクーツク」迄ヲ添ヘタリ 殷勤
極矣午前市正某来ル之ヲ受ク、サテ「トムスク」府迄ノ客船ハ来ル火曜日ナラデハ出デズ一週
間ニ只一次出船スルノミ引船汽船ハ月曜日ナラデハ出デズシテ客船ヨリモ猶遅ク十四日間
ヲ要ス於是一昨日見込ミシ如ク難路ヲ冒シテ矢張「タランタス」ニテ本日仕度整ヒ次第
陸行ニ決セリ「チューメン」府ヨリ「トムスク」府迄ハ陸路ハ壹千五百「ウヱルスト」ニシテ当府ト「イルク
ーツク」府ノ中間■半路ヲ為セリト云フ川筋ヲ行ケバ大凡弐千五百「ウヱルスト」許ナリト是レ

迂曲シテ行クニヨリ然レドモ貿易品ハ皆川路ヲ取ル是レ便ニシテ且ツ廉ナルカ為メナリ予ハ来ル
火曜日ヲ待チ川船ニテ行ケバ「トボルスク」府ヲモ見物スルヲ得ベシト雖日ヲ空スルコト五六日ニ
及ブベキヲ以テ断ジテ陸路ニ決セシナリ陸路ハ是迄ノ如ク人造ノ路ナラズシテ自然ノ道ナリ
ト云フ雨後ノ難想フベシト雖又是レ後日ノ思出テニ爽快ヨカルベシ、四時半ニ主人父子
ト一同ニテ晩食ス予カ写真一枚ヲ家主ニ与ヘリ家主大ニ悦ビ珍蔵スベシト語ル
九日續補（此処ヨリ六十七枚迄極小型手帳ニ記載）
「チユメン」トハ韃語ナリ此府ノ古ヘ「タルタル」人ノ領ナリシカ「エルマック」之ヲ征メ占拠セシナリ
午后六時半「チユメン」ヲ発程ス後人先ヲ乗ス最初ハ道路頗ル宜シカリシ次第ニ悪
シクナリ
本日正午ヨリシテ風大ニ起ル既ニシテ月出ツ湖水ト相映シテ寂寥ノ景ヲ増セリ途中
車行遅フ甚ダ稀ナリ湖名ヲ「アンデレ エッスコエ、オーゼロ」ト云フ既ニシテ橋ヲ渡ル川
ア「プノールス」ト云フ「エカテリンブルク」ヨリ流レテ「チユメン」府ノ「ツラ」河ニ入ル然レ共其ノ深サ

サハ二尺乃至五尺ナルヲ以テ川船ヲ行ル能ハスト従人語レリ
十二時頃月落ケ車窓ヲ閉チテ眠ラントスルニ車動揺甚敷シテ夢ヲ成サス空気ハ
五六分計リ「チエメン」ヨリ以来道路ハ是迄ノ如ク塵埃ハ無ク往々水ハケノ無キ処アリ此ノ
邊ハ湿地ニテ耕畑ナシ今夜ヨリ毎驛皆「オムレット」ヲ出シ来ルヘキ事ニナレリ

十日

六時ニ窓ヲ開ク空気五六分位ナリ道路悪敷事一相替ラス是レ黒色ノ粘土ノミナルヲ
以テ雨ノ為メニ泥濘馬脛ヲ沈スルニ至レルナリ然レトモ本日午前六時迄ニ「チエメン」ヨリ凡
百「ウエルスト」ヲ経過セシヲ以テ満足セリ
六時半頃「ノホザイムスカヤ」ト云フ貧村ノ驛ニ於テ所持ノ「パン」ヲ食シ茶ヲ飲ム驛主（ポスト）
舎ナリ舎ニ少女三人アリ中ノ一人ハ殊ニ美ナリ出テ周旋ス大ニ人意ヲ可ナリ
正午一小驛ノ木標ヲ讀ムニ此処ハ「ペテルブルグ」ト「イルクーツク」ノ殆ト半路（中間）ナルヲ知レリ
路ヲ急クヲ以テ午飯ヲ用ヒスシテ直ニ馬ヲ代ヘテ前程ニ上ル午後六時「ウステラーメン
スカヤ」ト云フ驛ニテ晩食セントテ肉類ハナキヤト問フニ卵ヨリ外ハ何ニモナシト答フ即チ卵
ヲ命セリ「チエメン」ヨリ此驛迄ハ二百「ウエルスト」餘ナリ此驛ニ着スル少シ前ヨリ土味ニ
少シク沙アルヲ以テ道路稍固キ故ヲ以テ動揺ヲ少シク免レタリ
本日経過スル処ノ驛皆高腴ノ平地ニシテ山ハ片影モナシ村落ハ二十乃至三十「ウエ
ルスト」ヲ隔テタリ是ノ村落ニ驛所アルナリ沿道左右麦「リバ」「アウース」ノ繁茂スルヲ
見ル其地良ナルヲ知ルベシ又牧場極テ多ク牛羊豕ヤ鴨群ヲ為セリ
村落ノ男子ハ皆立止マリテ帽ヲ脱シテ礼スル事昔日ノ如シ
晩食ノ村ハ其長サ我一里餘ニ及ベル大村ナレトモ皆悉木製ノ貧家ノミナリ其美ナルハ
寺観ノミ
本日途中別ニ目ニ触ルル程ノ事モ無ク只良地ヲ稱スルノミ
村落ノ人民皆跣足ニテ歩シ婦女ハ切レヲ以テ頭並ニ首頭迄ヲ掩フ者多キ故
ニ往々見テ以テ「タタール」婦カト疑ヘリ

風ハ午後二時頃ヨリ柔ラキ従テ暖気ヲ増セリ天気ハ陰晴不定ニシテ雨モ折ヽ
来レリ晩方ハ全ク晴レタリ
鳥ハタカ、カラス、トンビ、セキレイ、スヾメ位ノ外見ルコトナシ馬夫ニ問フニ此辺ニハ熊モ狼モアリ
ト寺見生ハ熊狼ノ出テナバ砲撃セシト云フニヨリ予ハ狐位ナラバヨシト云笑ヘリ
晩食了リ午後八時発車ス道路大ニ乾キテ動揺甚タ少ナシ本夜モ月光如昼
詩ヲ吟シ歌ヲ歌ヒ相和シテ夜半ニ至リ眠ル睡中「イシマ」ト云フ一邑ヲ経ルニ里市正服
シテ出迎ヒ茶及ヒ寝所モ邑中ニ設ケアルハイザ案内セントト勧メタルニ公使ハ前途ヲ急キ
テ宿スルノ意ナキ故起スヲ要セスト市川子謝リタル由魯官ノ殷勤ノ状可謝ヽヽ

十一日 晴 雲アリ

昨夜十二時ヨリ熟睡四時ニ達ス五時半ヨリ車窓ヲ開ク日光恰モ窓半ニアリ風
モ微ニシテ寒カラス八時ニ一小駅ニテ茶ヲ飲ミ卵ヲ食フ昨宵八時ヨリ既ニ百哩
餘ヲ走レリ是レ夜中道路好カリシヲ以テ疾走シタルニヨレリ

十一時発車ス途次大洋アリ小高キ丘陵之ヲ囲ムヲ見ル道路ノ両側ハ平地皆好ク
耕シアリ十二時半「カムユレンスカヤ」ト云フ村ニテ羊肉ヲ烹セシメ午飯ヲ加ヘ且ツ「タラ
ンタス」二輌ヲ並ヘテ写真ヲ取ル本日ハ日曜ナルヲ以テ村中ノ者大抵皆集マリ来テ
囲メリ
先是「シベリヤ」ノ村落ハ出入口毎ニ木戸アリ貧シキ門番コレニアリ
夕六時一小駅ニ至ル此処ヨリ少シク前途ニ大湖アリ景色甚タ好シ尚一駅ニ至レハ
「チユカラ」村ニ至レハ萬事都合ヨキヲ以テ直チニ馬ヲ代ヘテ先行ス役人ノ先乗ハ不断ナリ今
ハ道路全ク乾キタルヲ以テ車動揺甚タ只塵ハ頗ル甚シ馬ノ良ナル亦実ニ可驚
加之毎駅役人出迎ヘ居リ馬ハ用意シテアルヲ以テ五七分ニテ即チ発ス
夕九時ニ「チユカラ」邑ニ着ス此処ニテ晩食ス邑ハ頗ル繁栄ナリ休息所ハ「スタン
チヤ」ニアラスシテ隣家ヲ我等カ為メニ設ケアリ室内香火ヲ焼キアルハ且ツハ蚊蝿、
数ケ所ニ明カナルハ兼テ用意整ヒ居リシヲ知ルヘシ

着ケル夕陽已沈鮮月東ニ出テ横雲「ホリゾン」ニ少シク横ハリ四方茫ニトシテ山ナク牛
羊群ヲ為シテ家ニ帰ル様甚タ客意ニ適ナリ只風ハ寒シ
本道ハ「チエカラ」ヨリ「オムスク」府ニ通ル然レモ「オムスク」府ヲ経過スレハ大凡百「ウエルスト」ノ迂路
トナルヲ以テ南邑ヨリシテ間道ニ入ル之ヲ商法街道ト云フ商旅ノ通行スル道ナルヲ以テ
ナリ此ノ間道ヨリ本道ニ達スル迄ノ間ハ「ゴリファート」ノ旅ナレモ馬ハ同シク一「ウエルスト」ニ一「コペ
ーキ」半ナリ
十一日眠ル車動揺セサルヲ以テ熟眠晨五時ニ達ス
十二日 晴
某ト云フ一小駅ニテ茶ヲ飲ミ夫ヨリ「セレブリヤンカ」ノ手前ニテ写真ヲ取ル此河ノ岸二
週日前ニ崩レ河中ニ二嶋ヲ生セリ今ヨリ二週日前此ノ土手地沈ムコト深サ十八「アルシン」廣
サ四十「アルシン」ニ及ヘリ而シテ此「イルワイ」河中ヨリ土堆リ持上レリ此ハ昼ノ中ノコトニテ一時ニカク
変化シタリ此中大砲ノ如キ響アリシト云フ崩レ込ノ長サハ一「ウエルスト」ナリ此河ハ汽船ノ通フモノナリ
「セレブリヤンカ」ト云フ村ニテ昼食ス主人云ク人頭税一年十「ルーブル」ヲ払ヘハ畑ハ何程耕
スト雖モ無税ナリ林モ自由ニ切取ルヲ得ルト
午後八時ヨリ「ウオナサルスカヤ」ト云フ小駅ニテ晩食ス馬ヲ索ヘス
本日経過スル所到ル処皆麦類ニシテ麦大抵皆熟シタルヲ見ル之ヲ集束スル間ニ
二ヶ月以来雨ナキ由故ヲ以テ塵ハ立テ雲ノ如シ然レモ道路ハ固キヲ以テ
車ハ更ニ動揺セス
朝ハ寒ク昼間四時頃迄ハ暑気甚タ強シ晩方ハ涼気ニテ甚快
馬ハ到ル処駿逸ニシテ重車ヲ四足ニテ引キナカラ大抵始終「ガロップ」ニテ
飛ヒ一時間ニ大抵五「ウエルスト」ヨリ十九「ウエルスト」迄ヲ走ル故ヲ以テ「チユメン」出立以
来二十四時間毎ニ二百三十「ウエルスト」ヲ馳レリ
午后四時「ヤランカ」村ヲ過キテ「トムスク」領ニ入ル
「ヤランカ」村ヨリシテ再ヒ本道ニ出テタリ兎ノ如キ車夫ノ事及渠カ謝ヲ云フコト

「ヤラン」辺迄ノ間道ハ自然路ナレ氏甚タ固クシテ好シ
竟日晴曉方大月ノ漠々タル郊野ヨリ出ルヲ見ル
竟日人ニ逢フコト稀ニシテ村落ハ「スタンチヤ」止ノ外ニ見ルコトナシ
「チエオレ」ヲ発シテヨリ三昼夜ニシテ既ニ七百「ウヱルスト」ヲ経タリ元来「トムスク」府近ニ
二夜ハ泊スル心組ナリシカ好天気ト云ヒ好道路ト云ヒ前途ヲ急クヲ以テ竟ニ
本夜モ車行ニ決セリ
夕七時半発程ス明如昼道路固クシテ車動揺セス十二時眠ニ就ク車
行ク如飛朝六時覚ム

十三日

拂暁雨雲アリ「ブラトスカヤ、スタンチヤ」ニテ朝八時茶ヲ飲ミ卵ヲ喰ヒ発
雨来ル昨夜十時半ヨリ今朝八時迄ニ壱百五十「ウヱルスト」ヲ直過セリ路標ヲ
見ルニ「トムスク」府ヨリ当駅迄ハ五百六十三「ウヱルスト」アリ廿六日三昼夜半ニシテ

既ニ三分ノ二ヲ通過セリ
十時発程微雨少シク来ル然レ氏塵ヲ止ムルニ至ラス既ニシテ又晴ル炎暑ナリ
目ニ触ルヽ草卉皆乾凋セリ此辺久シク雨ノ無カリシヿ知ルヘシ
正午一市邑ニ着ス戸口頗ル稠密見物如堵路亭ニ至ル前ニ小河アリ之ヲ渡ル見
物人中ニ韃靼人アリ邑名ヲ「カインスク」ト云フ韃人尤モ我等ヲ奇トシ近ク来リテ
頻ニ物ヲ言ヒ掛ケタリ是レ其面顔ノ相近キニヨルナルヘシ
午后三時半「アレノウイコルキ」ト云フ一小駅ニテ昼食ス「ビートユ、コルトレツト」ヲ食フ
客舎ニ戯ルヽ小児等ヲ見ルニ皆木綿ヲ着ス跣足ナリ先是ノ村童等モ亦
然リ、
村役人ニ向テ此辺ノ食塩一「プード」ニ付價十「コペーキ」砂糖ハ一「プード」ニ付十二「ルーブ
ル」五十「コペーキ」ナリト
前町ヨリ附添先導ノ役人ハ三百「ウヱルスト」ヲ伴フト云フ午飯後一雨来リ

シカモ下チ止ムヿ無ク塵ノ為メニ稍切ヲ為セリ
午后五時頃ヨリ涼気来ル天気又定マリテ明朝ノ晴ヲトスヘシ
本日鉄道ノ地モ久シク雨ナキ様子ナル地味ニ水気アルト見ヘ麦モ実レリ
道路不相替悪クシテ車動揺甚シク且ツ官道ニ草多キハ人行ノ稀ナルヲ見ルヘシ是レ
「トムスク」ヨリ「チユメン」ヘハ汽船ニテ通スレハナリ
村ハ二十三四「ウヨルスト」ヨリ二十三四「ウエルスト」ヲ隔テアリ其構ヒ一様ニシテ殆ト四角ノ
丸木小屋ナリ村ニ泊到処牛豕雞丁羊等アルヲ以テ食物ニ乏シカラス午后從
道ハ殊ニ閑静ヲ覚ヘタリ
本日モ荷物車及旅人等ヲ見ス昨日ハ旅車一輛ヲ見タリ夕八時「ウーピンスカヤ」
ト云ニ小駅ニ着シ晩食ニ雞ノ料セシ云此村ハ小湖ニ傍ヘリ時ニ四月東ニ出テ
平原ノ望山影モ林モナク只灌木ト萱ノ株ヲ見ルノミ然ルモ地味ハ痩カラス
麦ハ常ニ道路ニ見受ケタリ鷲タカヲ見ル殊ニ多シ此辺獺ハ狼兎狐

ニテ鳥ハ丁鴨小鳥等ナリ
薪ニ「ザゼン」ニテ二十「コペーキ」ナリト但シ「カンビカバ」及柳ノ小木ハ頗ル多シ
昨夕ノ食ヲ為シ場ヨリ当所迄ニ百八十三「ウヨルスト」ヲ経タリ而シテ車ノ動揺セザルヲ以テ
人ニ更ニ疲ヲ覚ヘス
毎晩駅亭ニテ食スルニ婦人ノマメマメシキヿ我郷村婦ノ及フ所ニアラス
夕十時半発程明月東天ニ在リ見ヨリ共ニ一盃ヲ傾ケ月ヲ賞スルニ塵甚タシク
シテ殆ト眼ヲ開ク能ハス因テ心ナクモ車窓ヲ閉チ眠ル終夜車ノ走ル極メテ疾キ
ヲ以テ頗ル動揺セリ且ツ隙ヨリ塵ノ侵入スルヿ尤甚シ

十四日

六時夢覚メ車窓ヲ開ケハ旭日正面ヨリ照シ来リ天気快晴朝気頗ル清ク本
日モ晴天ナルヿ知ルヘシ兵隊罪人男女ヲ護シテ来ルヲ見ル
八時「アフチンニコフ」ト云フ小村駅ニテ顔ヲ洗ヒ茶ヲ飲ミ卵ヲ喰フ昨宵発程ヨリ

壱百四十五「ウェルスト」ヲ行リ其疾キ可知十時発車炎天如燬馬蹄過ル所
濃烟四起眉口為之皆乾涸シテ渇ヲ催ス然レモ不得止車帷ヲ下シテ塵ヲ避ケ車中
暗黒甚タ無聊只午眠ヲ試ミ以テ駅ニ至テ休憩ヲ待ツノミ詩三首ヲ得タリ

奉使星槎萬里還西望葱嶺白雲間一條官道坦如砥屈
指三旬不見山

漠々曠原落眼邊更無風景遂吾還聞說三旬天不雨
馬蹄所過如砲煙

泥乾滿目只塵烟枉閉車帷試午眠客路尋常備忌雨
翻禱碧落下沛然

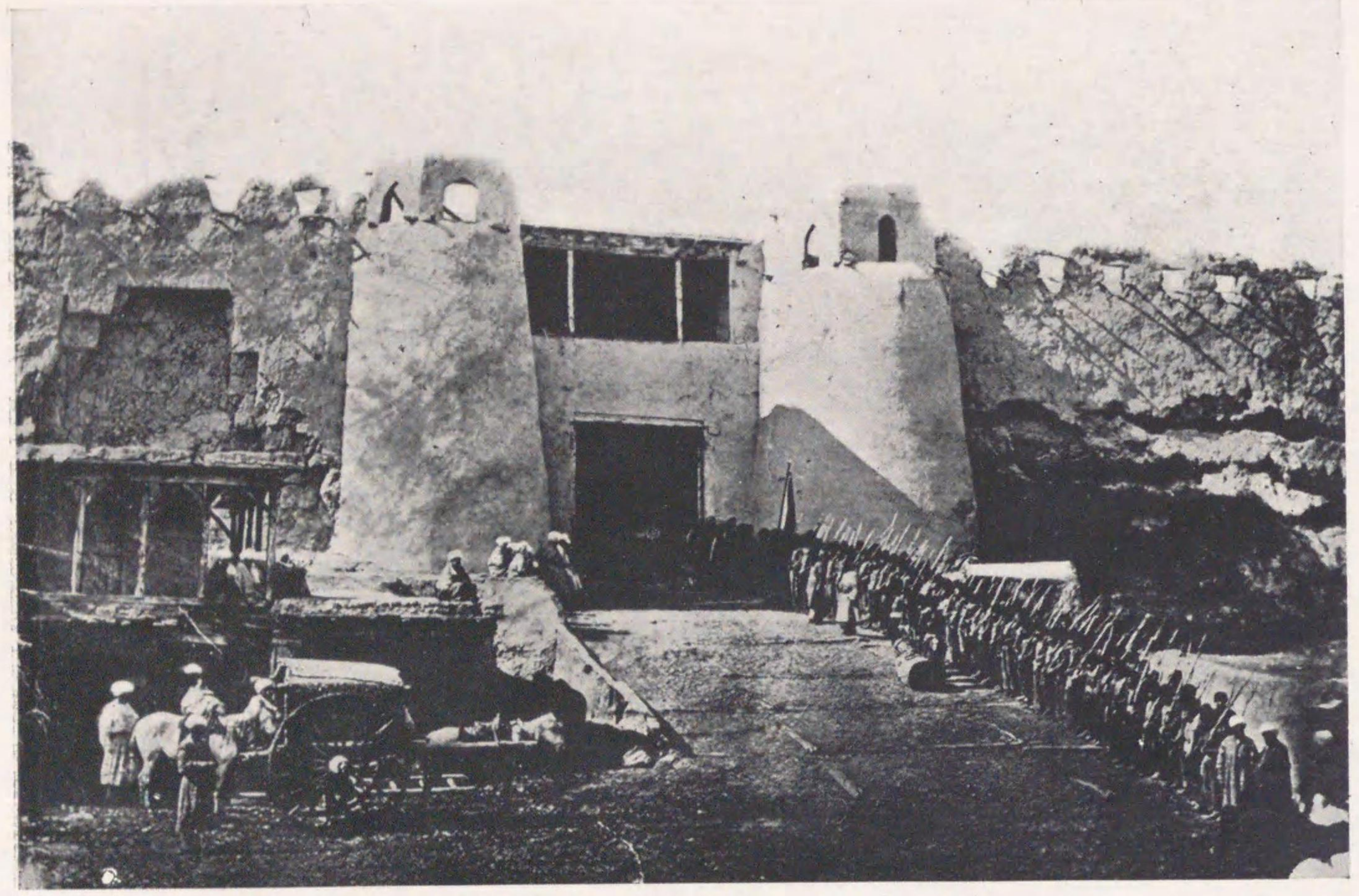
午后二時「カラワンヌイ」ト云フ小邑ニ着シ午飯ヲ喫ス「ステルリウ」魚ノ汁ヲ食味甚佳是
近辺ノ「ヲビ」河ヨリ捕ルナリ夫ヨリ発程ス午頃ヨリ少シク小高キ岡ヲ行キタルカ午後五
時頃岡ヲ下リ「オルスキボスク」駅ニ至ル「オビ」河駅ノ裏ニ流ル幅二丁許両岸樹林叢
生シ景色甚佳也此ニテ裸体ニナリ体ヲ洗ヒ爽ル處ヲ覚ヘ尤モ甚快シ浴罷テ茶ヲ
飲ミ休憩ス夫ヨリ幾モナク発程日既ニ沈ミ馬疲レテ疾キ能ハス夜九時半「ツシ
キラレ」ト云フ一小駅ニ着シ「ステルリチ」長サ二尺余モノ一尾ヲ四十「コペーキ」ニテ買ヒ及ヒ鶏卵
粉ヲ余シテ晩食ス本夕モ月明ニ星稀ニ弟奔前ニ虫音ノ郷音ノ様大ニ秋
ノ景ヲ装ヘリ
本日日中ハ列氏二十度以上ニ上リ然レモ朝夕ハ甚タ冷ナリ夜十一時発程車行
疾ク顛シ動揺甚タシキヲ以テ車帷ヲ閉チテ寝ル一睡暁ニ達ス

十五日 午前曇午后晴

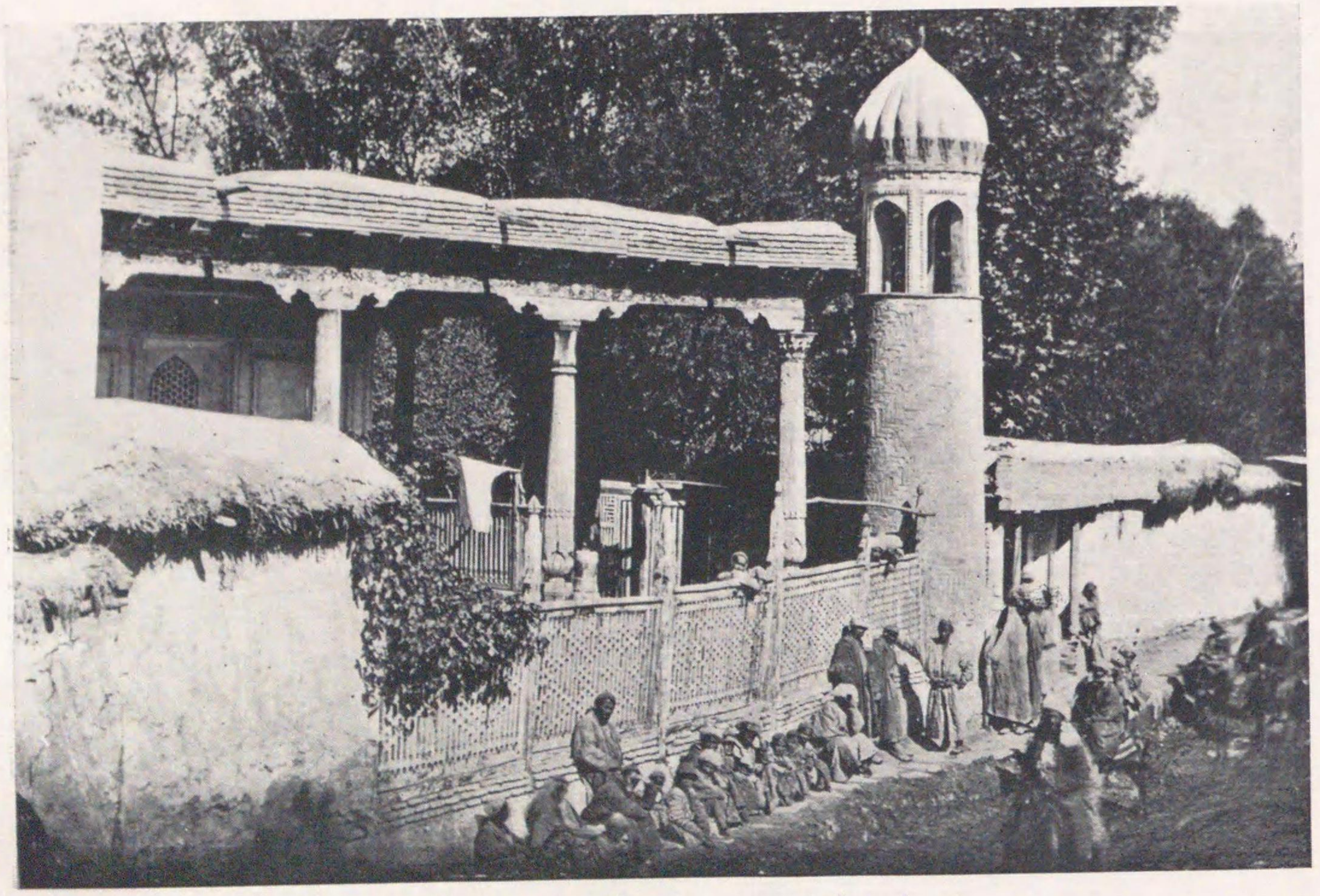
朝六時起一小駅ニ於テ顔ヲ洗ヒ茶ヲ飲ム是ヨリ小高キ山坂ヲ行ク
路粉ノ如キ泥土皆モ浮ノ如シ馬為メニ進マス既ニシテ漸ニ下ル向ヒテ小高キ岡
山岸連リテ上ニ樹林アリ下ニハ「トム」河流ル此河ヲ渡リテ彼岸ニ「トムスク」府吏
人出迎ヘタリ此所河幅三町許「トムスク」府ハ岡ノ上下ニ連ナリ十一時半「トムスク」府

ニ着シ府中ノ「ホテル、デ、ヨウロッパ」ト云フ旅屋ニ投宿ス
着府後二生ヲ拉テ湯屋ニ赴キ浴ス済テ旅宿ニテ昼食ス府製ノ麦酒
アリ「バファリヤ」製ニ倣ヘル者ニテ甚タ佳
食了ル一婦人来テ名刺ヲ出シ予ニ面セン事ヲ乞フ即チ席ヲ容レ之ト語ル
長崎在留領事「オラロフスキー」氏ノ妹ナリ嫁シテ六年「トムスク」府ニ住ムト云フ英
語ヲ好クセリ
浴後市川子ヲ拉シテ鎮台「リプロニコフ」氏ヲ訪ヒ面語久之其一二ヲ録ス
「トムスク」府人口三万五千、鎮内ハ「ペルム」鎮ヨリ大ニシテ支那ニ境ス
鎮台ハ国法ニヨレハ二年毎ニ鎮内ヲ一週セサル可ラス鎮台云ク毎年予ハ五千「ウエルスト」
モ旅ス
「トムスク」府ハ脂、穀類、金等ニ富ム脂ハ一「プード」ニ三「ルーブル」剰ナリ而シテ肉ハ通例
一「プード」府一「ルーブル」ニ過キス昨年ハ五十「コペーキ」タリシト脂ノ肉ヨリ三倍貴キハ遠ニ

致スヲ得ルト「デマンド」ノ多キニ堪スト云フ
寒候現下酷暑ニテ日中ハ室内ニテモ列氏十七八度（旅屋ノ広間ニテ）サレハ市街ハ
二十四五度以上ナルヘシ本邦ノ暑気ニ多ク異ナラス而シテ冬ハ酷寒三十度以上ニ至リ
昨年ノ如キハ四十二度ノ寒気二日ニツキ人馬共ニ出ル能ハサリシト云フ
徒役罪人ハ来ラス只論セラルノ罪人ハ来ル故政府モ人民モ渠等ニ構フコナシ故ニ
渠等始メテ来レハ青天ニ臥セサルヲ得ス只通例人家ノ奴僕トナル者多ク既ニ鎮
台ノ家ニアル奴婢ハ皆罪人ナリト鎮台自ラ語レリ
百姓ハ男子一人ニ付十五「デシヤチン」ノ畑ヲ受ケ畑税ハ三「ルーブル」ナリ十五「デシヤチン」ヨリ多
ク耕ス者アルモ知ラサレハ別ニ税ヲ納メシムルコナシト鎮台云フ
右三「ルーブル」税ノ外尚学校道路橋梁等ノ民費トシテ民ヨリ税ヲ取立ルナリ其
高ハ大概租税ニテ男子一人二十五「ルーブル」ニ過キス（田税モ合算シテ云フ）
罪人モ十五「デシヤチン」ノ畑ヲ与ヘ三年目ヨリシテ三「ルーブル」ノ税ヲ納メシム



「コーカン」(地名)ノ「カン」宮城ヘノ入城



シパ(ヒワ)ニ於ケル神殿

「トムスク」府モ三百年前「タヽル」ヨリ併合セシナリ当時ノ酋長「プリンス、タマン」ナル人ハ魯人ニ亡ボサレシナリ此酋長及部下ハ「トム」河ノ彼岸ニ住ミ居タリシナリト「トム」河ノ名ハ「タマン」ノ名号ニ基クナリト鎮台云フ

「タヽル」ニ定居ト猜居トノ二種アリ定居ノ者ハ魯人ト同シク税ヲ納メ猜居者ハ二回ノ「ヤサク」税ヲ納ムルト此猜居民ハ一年ニ二次呼寄セ重罪ヲ犯セルモノハ之ヲ罰スト

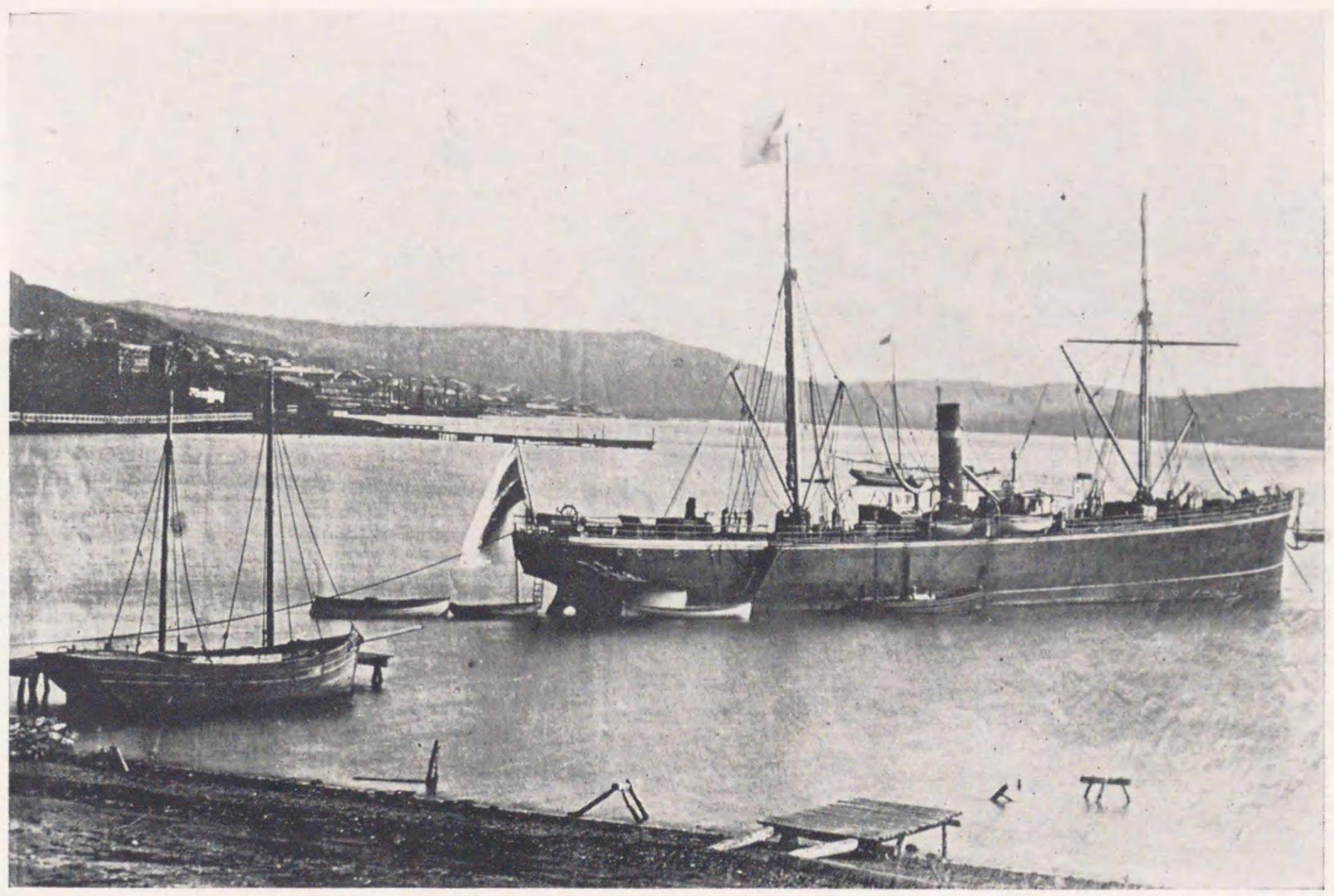
「トムスク」府ニハ未タ「ヂユリー」ナシ鎮台ハ「シスール」ノ罪人ニ喙ヲ容レスト雖刑事ノ罪人ヲ裁決スルノ権アリ

鎮台ハ「アドミニステレーシヨン」ノミニ関シテ兵事ニ関セス

当県ニ守兵僅カニ三千人ニ過キス大佐一人アリテ之ヲ督ス鎮台云フ領内ハ甚タ安穏ニシテ兵ヲ派スルコトハ絶テナシト兵ハ屯田ナス「トムスク」県内ノ人民ヨリ編成スル者ニテ年期ハ六年ナリ学問アル者ハ三年

当府ニ右ノ兵ヨリ一大隊ヲ置キ「マリンスキ」ニハ一中隊ヲ置キ其余ハ支那境ヘ或ハ五十人

或ハ百人位ハ分テ屯セシム
鎮台云フ別ニ土ヲ以テ塁ヲ兵モアリ是ハ有事ノ時呼ヒ出スモノナリト其法粗屯田ニ似タリ
支那トノ貿易ハ「キャクタ」ノ外ニナシ両三年前支那ノ隊商「トムスク」縣内ニ来リシ者ア
リ鎮台ハ長ク此商法ヲ存セシメント骨折リシカ支那人ハ再ヒ来ラサリシ是レ聞ク所ハ途
路ニテ損失アリシニコリタルナラント「セミパラチンスク、オブラスチ」ニハ「ミリタノト」鎮台アリ支那
ノ「カスガル」征討ノ将ヨリ往年「ソスノフスキ」氏ニ依頼シテ運搬セシ穀類ハ支那政府
未タ價ヲ拂ハス三万ノ隊商一万ハ盗ニ鈔掠セラレシ事モ莫大ナリ
「サノフ」ハ「カラスノヤルスク」ニテ死セシ者莫大ナリト鎮台云フ
笞刑ハ当縣内ニ流罪人ノ再ヒ罪ヲ犯セシキ二十笞ウツヲ得ルノミ韃族ハ米一「インス
クシス」ヲ受クル上ナラデハ打ツヲ得ス鎮台云フ「トムスク」府邊ヲ「オビ」河ノ運輸盛ナルハ繁
昌スヘキ目的アリ又云フ「マリンスク」ヨリ壱百五十「ヴルスト」許ノ処ニ沙金ヲ産スル多人々
小「カピタル」ヲ以テ各自ニ働キ居ケリ進シル毎年金壱百「フード」ヲ出セリ



浦鹽ノ碇泊場

ウラヂオストツク鳥瞰圖

「ドムスク」縣ハ民税ノ餘レルモノヲ以テ此金ヲ買上ケ而シテ之ヲ彼得堡府ニ送ルト云フ

即目所見書

「トムスク」府ハ坂アルコ「チユーメン」ニ同シ然レトモ石造ノ家多ク周向キ多ク雑ス製衣造場ハ麦
酒「パピロス」及脂燭、サボン等ノ小製造アル〻毎年雪融ノ時「トム」河ニナギリテ河向
泮ヲ浸シ府梧下一「アルシン」半位迄水来ルト云フ
府ヨリ我一里許ヲ隔テタル処ニ遊園アリ「トム」河ニ臨ミ四方ヲ見卸甚景甚タ佳ナ
鎮台ヲ訪ヒシ後「オラドフスキ」氏ノ妹ヲ訪ヒ且ツ夕宴ノ招キヲ断ル凖明日昼食ヲ
共ニセンコヲ乞フ是又餘時ナキヲ以テ謝ス
晩七時鎮台「ソプロニコ」氏来ル談話時ヲ移ス愛スヘキ開ケタル人物ナリ此人四十八年「ポン
ガリヤ」ノ師ニ「ロイテナント」トシテ出兵セシト話セルヲ以テ之ヲ計スレハ当モ五十五六ノ人ナリ「シベリヤ」ニ十
六年居レリト云フ「スワルウヱ」ノ朋友ナル由彼ニ伝言ヲ乞ヘリ
鎮台ノ車馬ニ駕シテ遊園ニ至ル二両五人ノ行人ナシ甚シ劇場見物ニ出テシニヨル

トニ云フ子時月明ナリ此邊「ダーチキ」ノ如キニ散羅セリ樹木モ亦多ケ花寂寥タル景ハ
高ニ「シベリヤ」ナラト思ヒ起スヨリ起ルノミニアラスシテ真ニモノサビシ、去テ帰舎シテ後樓ノ
「バルコン」ニ出テ、月ヲ詠ム前街ニ「ハルモニー」ヲ弾シテ過クル者アリ十一時後独リ市街ヲ歩ミ
坂上ニ上テ四方ヲ眺ム途上人行ナク犬頻リニ吠ユ十二時帰舎シテ眠ル毒虫ヲ避ケ為メ
粉ヲ十分ニ寝具ニフリカケ寝タルニ無感蘇ニ出来リテ肢体及面部ヲ刺ス如例煩寃
夢覚メ火ヲ点シ毒虫ヲ殺ス四顆、而後更ニ粉ヲ面部及肢体ニ塗リ込ミテ寝ル故ヲ
以テ暁八時迄安眠スルヲ得タリ起臥出ノ三五匹粉ニ中リテ死スルヲ見出セリ
当府モ「チユーメン」同様粘土ノ細粉多クシテ市街塵埃ノ甚タシキコ真ニ可厭「チユ
ーメン」ヨリ甚シ
府ノ近辺ニハ「タタル」人多ク住居セル由府中ニテモ「タタル」ノ男女ヲ見ルコ稀ナラス
当府ノ「イワオスチック」三百号餘アリ以テ其繁昌ヲ知ルヘシ外国ノ商ハ日耳曼人多ク
「ホテル」ハ三層ノ石製ニテ欧州ノ「ホテル」ニ異ナラス「エカテリンブルグ」ニ比スレハ遥カニ愈レリ食物

ヲ侍リ
目今ノ亭主ハ片腕ノ人ナリ家婢ニ「マリー」ト云フ一ノ美人アリ年十九バカリ「シベリヤ」ヲ往返セシ
人ハ皆是家婢ノ美ヲ盛称スルヲ以テ大闘ニ未タ見ニ生ハ彼得堡府ニ在テ既ニ此名ヲ聞
キテ居タリト云フ予カ部屋ニハ男ノ「ガルソン」ニテ魯語ヨリ外ハ外国語ニ通セサル者附添
居レリ而シテ彼ノ美婢ハ戸外ヨリ折々室内ヲ秋波シ去ルノミ不幸ト云フヘシ所々
「ドムスク」府ノ附近ハ熊狼狐甚タ多クシテ牧畜ヲ害スト云フ狐ハ極メテ多ク白狐モア
リト云フ

十六日　快晴暑甚シ

午前買物ニ出テ外套メカネ「シベリヤ」圖「ガリバルヂ」帽子等ヲ買フ價甚タ貴カラス
「オラロフスキ」氏ノ妹ノ夫来ル一封書ヲ「オラロフスキ」ニ渡サン事ヲ乞フ即諾ス
午飯ニ「アセトリーナ」魚肉ヲ喰フ味ハ「ステリリャナ」ト髣髴タリ只所謂大味ジナルヲ覚フ日
此河ニ捕フル者ナリ此魚ノ卵ハ即チ有名ナル「イクラ」ナリ又軟骨ハ魚ノ産有名ノ[illegible]

レイ」ヲ製スル者ナリ製造所ハ三百「ウヨルスト」モ遠所ニアリト云フ
午后七時半発程夜月明茶車三十輌来ルヲ見ル路ハ厲次高低アリ塵烟ハ車ノ往
来ヨリ起キシヨリテ塵土起リ終夜車頻ニ動揺ス是レ坂路アルニヨルノミ大夜頻ル苦案
アリ

十七日　快晴

払暁起テ寒暖計ヲ見レハ列氏氷点上六度タリシ旅車来ルニ逢フ数次ニ及
ブ是レ此近ハ間道タリシニ由テ行客稀ナリシナリ午前九時「ベグクルスカヤ」驛ニ洗顔
茶ヲ飲ミ辨ヲ絶発程ヨリ此ノ驛迄壹百六十「ウヨルスト」ヲ隔タリ午后二時「マリンスク」ト云フ
邑ニ着ス「ホリシレー」ノ頭来ル
牛肉ノ「スープ」及「ビーフステーキ」ヲ喰フ当所ヨリ八十里「ウヨルスト」ニシテ砂金場アリ金ヲ洗フ者ハ
免状ヲ得テ而後其開採ノ高ニ応シテ若干税ヲ納ムト云フ尤モ採タル金ハ一粉タリトモ
政府ニ売ラサルヘカラスト云フ

午後三時半発車道好シ暑気ハ二十二ニ交タリ五時半「スロコフ」ト云フ小邑ヲ経人口八百人
餘人家ハ二百五十軒餘ト見受ケタリ「ダール」モ同ク住ミニ掛ケ昨年ノ露戦ニ罷セラレシ
「チユルケス」モ送ラレテ此ニアリト云フ老人之ヲ「バシブヂック」ト云ナ昨年ニ客ノラレレリ
「ゲーユー」ト云フ河ヲ渡リ夜九時「ボロウイシカ」ト云フ村落ニテ晩食セントスルニ「パン」ノ外ハ雞
卵モ得ベカラス旅是所持ノ「サルヂンキー」「ハム」等ヲ出シ食ス此辺ハスヘテ蜜蜂ヲ養
フ亭主胡瓜ト蜜ヲ出セリ蜜ハ巣ノ侭ニテ蝋モ弁セテ喰フモリ予之ヲ味フニ蜜ハ素
ヨリ甘シト雖蝋ハ真ニ嚼蝋ノ譏ノ如ク只ニ味ナキノミナラス餘リ快ヨカラス亭主
又純粋ノ蜜ヲモ出セリ蜜ハ一「プード」ニ付二「ルーブル」半ヨリ三「ルーブル」半ニ至ル蝋ハ
壹「プード」ニ付十八「ルーブル」タリト是ハ甚タ高価ニ過ク
夜十一時発程終夜車甚動揺セズ十二時前ヨリ直眠晨ニ達ス
十八日 快晴
朝六時四十分「カラスノレチカ」ハ赤河ノ義ト云フ村落ニテ茶ヲ飲ミ卵ヲ喰フ此村ハヅレノ

小高キ処ニ屯所アリ守兵七十人アリテ罪人護送等ノ用ニ供ス村ハヅレニ河アリ「チユ
リユム」ト云フ行ク事十「ウエルスト」許ニシテ路左ニ十尺許ノ煉瓦化ノ標石アリ即チ東「シベリヤ」
ノ境ナリ是処ヨリシテ「エニセイスク」縣ト成ル道路自然ノ「カーペット」ニシテ塵起ラス九
時四十分「チユリユム」河ヲ渡リ「アーチンスク」ト云フ邑ニ着ス役人出テ食事ノ用意備
リ居ルユヘ休憩セスヤト頻リニ勧ムルニヨリ休憩ス此邑ハ人口三千餘アリ
朝来経来リシ土地ハ黒土ニシテ作物甚能ク熟セリ岡ヲ下リ又小山路ヲ行ク深ニ
下ル処ハ土ノ肥ヘタルノミナラス水モ多キヲ以テ尤モ作物ニ好シ尤モ高地ニモ作物能ク
繁生セリ路傍ノ雑草モ甚タ稠密ニ生セリ
此邑ニ流ルヽ「チユリユム」河ニハ沙金アリ此邑ヨリ六十「ウエルスト」ノ処ヨリ洗金場アリ
役人云ク此辺ニテモ蜜ヲ作ル蜜ハ一「プード」ニ付三「ルーブル」半ヨリ四「ルーブル」蝋ハ十二「ルーブル」
位ナリト
此辺狼熊等甚タ多ク牧畜ノ害ヲ為スト云フ

此邑ニハ特権ヲ全ク剥レタル罪人ヲ移セリ此罪人ニモ土地ヲ与ヘ然モ金ハ自ラ洗フ
能ハス只人ニ雇ハレテ洗フコトハ許セリ
罪人ニ嫁セント欲スル村女アル時ハ其費トシテ政府ヨリ五十「ルーブル」ヲ与ヘテ罪人ハ邑中
ニ住ムヲ得ス田舎ニ住ムヲ得ルナリ
此辺ノ芽ハ六月中旬ニ出ツ市街雪ノ深キコトハ一「アルシン」半乃至二「アルシン」ニ過キス山手ニ
テハ風ノ吹廻ハシニヨリテハ二三「サーセン」ノ深サニ至ル処モアリ此冬ハ四十度以上ノ寒サニ至ケリ
一鉄山モアリ石炭山モアリ
午后六時半頃「ブリユリ」ト云フ小邑ニテ晩食ノ備ヘアリト云フニ任セ休憩シ牛肉及汁
ヲ食フ此処ニ「カラスノヤルスク」府ヨリ「ポリシーオーセスアル」「フォン、キリンゲン、ベルグ」氏ト云フ人来
在リ出迎ヘノ為メナリ此人ノ話ニ「カラスノヤルスク」府ヨリ二百里ヲ費セハ好キ洗金場アリ
ト於是「カラスノヤルスク」府ニ投宿センコトニ決シ其旨ヲ同人ニ依頼スルニ喜テ之ヲ承
領セリ八時半頃食了テ直ニ発車ス

昨夜ハ全ク山路ニテ坂ヲ上下スルコト殊ニ多ク或坂ハ頗ル急ナリ「トムスク」ヲ発シテ以来少ナシハ山坂
様ノモノアリシカ本日ハ純然タル山路トナレリ「ギヤンク」ヨリノ茶車数十輌ニ行逢フコト両三次
ニ及ヘリ
夜月明カナリ道少シク「カマボコ」ナリヲ為スヲ以テ車ノ動揺頗ル甚タシ夜一村「カラスノヤ
ルスク」ヨリ三「ウヱルスト」ノ曠野塩気アル草アリ馬好テ之ヲ喰フト少ケリ猶夫ノ支那ノ
「ゴビ」沙漠中ニ処トシテハ「ブダルハナ」草（蒙古語）アリテ其塩気アルヲ駱駝好テ喰フト一般
主人及ヒ「ポリシメーストル」等予ヲ迎ヘテ揖シ之ヲ客間ニ引キ酒茶殷勤極ル三時半眠
ニ就ク
十九日　快晴
十時「ウオスクルセンスキー」寺ヲ訪テ「レザノフ」ノ墓ヲ見ル寺僧予ヲ迎ヘテ殷勤ニ待ツ碑
文ハ別紙ニ出ス文意ハ下文(A)ニアリ夫ヨリ下奉行ヲ訪ヒ談話久之寺僧及ヒ「ポリシメー

此邑ニハ特権ヲ全ク剥レタル罪人ヲ移セリ此罪人ニモ土地ヲ与ヘ此ノ金ハ自ラ洗フ
能ハス只人ニ雇ハレテ洗フコトハ許セリ
罪人ニ嫁セント欲スル村女アル時ハ其費トシテ政府ヨリ五十「ルーブル」ヲ与フ罪人ハ邑中
ニ住ムヲ得ス田舎ニ住ムヲ得ルノミ
此辺木芽ハ六月中旬ニ出ツ市街雪ノ深キコト一「アルシン」半乃至二「アルシン」ニ過キス山等ニ
テ風ノ吹廻ハシニヨリテハ二三「サーセン」ノ深サニ至ルモノモアリ此冬ハ四十度以上ノ寒サニ至ケリ
一鉄山モアリ石炭山モアリ
午後六時半頃「ブリユリ」ト云フ小邨ニテ晩食ノ備ヘアリト云フニ任セ休憩シ牛肉及汁
ヲ食フ此処ニ「カラスノヤルスク」府ヨリ「ポリシーメーステル」「フオンキリンゲン、ベルグ」氏ト云フ人来
リテ出迎ヘノ為メナリ此人ノ話ニ「カラスノヤルスク」府ヨリ一日ヲ費セハ好キ洗金場アリ
ト於是「カラスノヤルスク」府ニ投宿センコトニ決シ其旨ヲ同人ニ依頼スルニ喜テ之ヲ承
領セリ八時半頃食了テ直ニ発車ス

昨ハ全ク山路ニテ坂ヲ上下スルコト殊ニ多シ或坂ハ頗ル名高ナリ「トムスク」ヲ発シテ以来少シハ山坂
様ノモノアリシカ本日ハ純然タル山路トナレリ「キャフタ」ヨリノ茶車数千輌ニ行逢フコト両三次
ニ及ヘリ
夜月明ナリ官道少シク「カマボコ」ナリヲ為スヲ以テ車ノ動揺頗ル甚タシ夜一時「カラスノヤ
ルスク」府ニ着ス鎮台ヨリノ命ニテ同府ノ巨商「アクーロフ」氏ノ家ヲ以テ予カ宿舎トセ
リ同氏ハ昨夕八時ヨリシテ予ヲ迎フル用意ヲ整ヘ待居タリト云フニ府民モ群集シテ
待居タル由ナルカ夜半ニ着セシヲ以テ見物人ハ散シテ踪ナシ
主人及ヒ「ポリシーメーストル」等予ヲ迎ヘテ揖シ之ヲ客間ニ引キ酒茶殷勤極ル三時半眠
ニ就ク
十九日　快晴
十一時「ウオスクルセンスキー」寺ヲ訪テ「レザノフ」ノ墓ヲ見ル寺僧予ヲ迎ヘテ殷勤ニ待ツ碑
文ハ別紙ニ出ス文意ハ下文(A)ニアリ夫ヨリ下奉行ヲ訪ヒ談話久之、寺僧及ヒ「ポリシーメー

ストル」「ガムレワ」氏亦来臨ス下奉行ハ温和ノ人物ニテ礼儀甚タ篤シ予カ「シベリヤ」ノ高
脚ナルト街道ノ好キヲ称スルヲ聞テ甚喜色アリ云ク「オーストリヤ」使節「ゴーンド・チナー」山及ビ
「カラスノヤルスク」府ノ「ウオスクルセンスコエ」寺ニ大ナル「レザノフ」ノ墓碑アリ大サ五尺四方ナリ碑面ノ文而
云ク「千八百七年三月一日「カラスノヤルスク」ニ於テ死シ十三日ニ葬ラレタル「ニコライペトロウヰチ
レザノフ」ノ功ニ対シテ謝スル為メ「リユウアメリカン」社カ此墓ヲ千八百三十一年八月十三日ニ立
建ツ」急ニ葬ラサリシハ総督ノ命ヲ受ケサレハ取計フヘカラサルヲ以テナリ此ノ寺ハ二百年来ニ
建ル者也

一キ「ラヂール」及犬ニテ雪橇ヲ牽カセ七百「ウヨルスト」モ「スタンナヤー」無キ地ヲ行キシ
「ヤクーツクヨブラスナ」内ニハ毎作七百「ウヨルスト」モアリ「アルダン」ト「インヂキルカ」河ノ間ナリ鹿及
犬ヲ用ヒテ橇ヲ引ク寒度ハ四十七八度ニ及ブ又「ムーラン」アリ
「ヤクート」種人ハ数ハ「トルコ」ヲ用ヒ語ハ蒙古ト「タタル」語ヲ交ヘリ
午后一時帰館入浴後食堂ニ入レハ下奉行「ボリシメーストル」及里正、館主等皆在
リテ予ヲ首坐ニ迎ヘ同食ス

「イルクーツク」ノ人「バザノフ」ハ昨年四百「プード」ノ沙金ヲ取テ去レリ
「カラスノヤルスク」縣内ニテ洗金場百八十ケ所アリ一人民自分ニテ沙金ヲ見出セシナリ他国
人民モ洗金ノ免許ヲ得ルナリ
「アルヤノフ」氏ハ持金ヲ費シ尽シ遂ニ人ノ助借スモノアリテ遂ニ今日ノ場所ヲ開採スルニ至レリ
金ヲ洗フ者ハ別ニ税ヲ出サス「シベリヤ」一般皆然リ罪人ニアラサル以上ハ何人モ開採スルヲ得ルナリ
洗金場二百七十「サーゼン」ノ幅ニテ五「ウヨルスト」ノ間ニテ毎年三百五十「ルーブル」ノ税ヲ納
メサル可ラス今年拂ヒテ翌年拂ハサル時ハ「コンフイスケーレン」セラレ何人ニテモ此免許ヲ
得ルニ敷金モ何ニモ出スニ及ハス
右通リ納金ノ上ハ何「プード」採ルヲ得ヘシ
八月十九日午后七時「カラスノヤルスコエ」ノ「ウスパンスキー」寺傍ノ招ニヨリ茶ヲ飲ム居ハ小ト
雖「エニセイ」河ニ臨ミ景甚佳

ストル」「ガムレツ」氏亦来臨ス下奉行ハ温和ノ人物ニテ礼儀甚タ篤シ予カ「シベリヤ」ノ膏腴ナルト街道ノ好キヲ称スルヲ聞テ喜色アリ云ク「オーストリヤ」使節「コーンド、デチー」及ヒ伊太里ノ使臣「コーント、ラエ」氏亦此言ヲ言ヘリト且ツ云ク「シベリヤ」ハ特ニ地ノ膏腴ナル而已ナラス金鉱ヲ出ス甚タ多ク銅亦然リ只人口少キヲ奈何セント〇奉行ハ昨日出立シテ「アチーンシ」邑ヘ行キ留守ナリ下奉行トノ話ノ要ハ下文（ハ）ニ記セリ

是ヨリシテ「ポリシレーメーストル」「ガムレツキ」氏ヲ訪フ其妻児等出テ予ヲ迎フ「ガムレツキ」氏ハ「ヤクーツク」県等極寒四十五度及以上ノ地ヲ屡次旅行セシ人ニテ前月「ムラシン」ニ開ケラレシヿモ「ラエチール」及犬ニテ雪橇ヲ牽カセ七百「ウヱルスト」モ「スタンチヤ」ノ無キ地ヲ行キシヿアリ同氏ハ「ブラゴウエスチエンスク」ニモ在勤セシ人ナリ極寒ヲ経歴セシ要話アリ

夫ヨリ「イスプラウオニク」従九「グリンゲンベルグ」氏ヲ訪ヒ妻児ト相語リ花園及蜜蜂養所等ヲ一見ス

午后一時帰舘入浴後食堂ニ入レハ下奉行「ポリシレメーストル」及里正、舘主等皆在リテ予ヲ首坐ニ迎ヘ同食ス

「イルクーツク」ノ人「バザノフ」ハ昨年四百「プード」ノ沙金ヲ取テ去レリ

「カラスノヤルスク」県内ニテ洗金場百八十ケ所アリ一人民自己ニテ沙金掘ヲ見出セシナリ他国人民モ洗金ノ免許ヲ得ルナリ

「アルヤノフ」氏ハ持金ヲ費シ空シク遂ニ人ヨリ借スモノアリテ遂ニ今ノ場所ヲ開探スルニ至ナリ

金ヲ洗フ為ニ別ニ税ヲ出サスヿモ「シベリヤ」一般皆然リ罷人ニアラサル以上ハ何人モ開探スルヲ得ルナリ

洗金場二百七十「サーゼン」ノ幅ニテ五「ウヱルスト」ノ間ニテ毎年三百五十「ルーブル」ノ税ヲ納メサル可ラス今年掘ヒテ収年掘ハサル時ハ「コンフヰスケーレン」セラレ何人ナリトモ此免許ヲ得ルニ敷金モ何ニモ出スニ及ハス

右通リ納金ハ只何「プード」採ルヲ得ヘシ

八月十九日午后七時「カラスノヤルスコエ」ノ「ウスパンスキー」寺傍ノ招ニヨリ茶ヲ飲ム居ハ是「エニセイ」河ニ臨ミ景甚佳

リ并テ十首陛ニ迎ヘテ同食ス

五時「クリレゲンベルグ」氏馬車及食物ヲ仕度シテ洗金場案内ニ来ル於是寺見大関ニ至

ヲ連レテ発ス市川子ハ病ヲ以テ辞ス是ヨリ市外ヲ出ツレハ兵隆「バラック」アリ隔日勤メ

「カラスノヤルスク」縣中ニ「メンシンスク」ト云フ郡アリ此地ニハ菓物モ多生シ水瓜ハ十個ニテ「一ルーブル」位ナリ

西伯里ノ「イタリヤ」ト云フベキ地ナリ

「カラスノヤルスク」縣内「アーチンスク」庭内ニ塩湖アリ夏分ハ周囲乾キテ塩ヲ残ス此塩ハ全ク

採取自由ニテ政府ハ関セス

二丁余ニシテ流瀬ハ急ニシテ水清シ

（二十日、二十一日、二十二日ノ三日間ノ記ナシ）

二十三日　陰

虫毒アリシカ葉粉ト莎羅ノ助ニヨリ甚タシキニ至ラサリシ、朝七時起、茶ヲ飲ム、舘主昨夜

約ヲ踏ミ洗沙機関ノ雛形ヲ学校ヨリ取寄セタリ而シテ其簡易ナル者ヲ指シテ云フ

リキシャ来リ首唯ニ迎ヘ同宿ス

五时「クリレゲンベルク」氏馬車ヲ食物ノ仕度シテ洗金場寨内ニ来ル於是寺見大岡ニ至ヲ連レテ発ス市川子ハ病ヲ以テ辞ス是ヨリ市外ヲ出ヅレハ兵隆「バラック」アリ陽日勤メテ六年间役ヲ奉ス「カザック」ナ其リト云フ須臾ニシテ「ユニセイ」河畔ニ傍テ行ク路筋ハ同河ノ左岸ニシテ七、八丈水ヨリモ高シ而シテ尚巍々タル「フルハルデケレイ」山高サ十丈江上ノモノアリ此山脊ヲ火薬ニテ砕キ而シテ二間半許ノ坐路ト為セシナリ是道筋ハ府ヨリ五「ウヱルスト」相距ル「モナストリー」ニ通フ為メ寺傍ノ行キシ者ニテ煩ル見ルベシ「ユニセイ」河ノ幅ハ約我ニ十余ニシテ流頗ル急ニシテ水清シ

(二十日、二十一日、二十二日ノ三日間ノ記ナシ)

二十三日　陰

虫毒アリシカ薬粉ト莎羅ノ助ニヨリ甚タシキニ至ラサリシ朝七时起キ茶ヲ飲ム、舘主昨夜約ヲ踏ミ洗沙機関ノ雛形ヲ学校ヨリ取寄セタリ而シテ其簡易ナル者ヲ指シテ云フ

箱アリセハ君ニ与ヘンモノヲト、時ニ「ポリレーメーストル」側ヨリ言テ云フ箱ハ手ニ嘩テ作ラシメ
シトテ予於是館主ノ好意ニ任セ其「モデル」ヲ貰ヒ受ケタリ
下奉行来テ暇乞ヲ為ス予乃チ館主始メ諸役人ノ労力厚意ヲ謝ス東方ニ云フ伊国
ノ公使モ其写真ヲ残シ置キタリ願クハ君ノ写真ヲ得ベキヤト予乃チ「カビ子ット」一枚ヲ
与フ館主ハ其以前ヨリ予カ写真所望スルニヨリ与之渠大ニ悦ヒ己レト妻ト同坐ノ
写真一枚ヲ予ニ返礼セリ予亦「ポリレーメーストル」ニ小写一枚ヲ与ヘテ是迄ノ労ヲ謝ス
十時半予ハ南府ノ写真ヲ買フ為メ寺見生ト同車シテ先発ス日耳曼人ノ写真師
某ノ家ニテ弐枚ヲ買ヒ大ヒタリ価十五「ルーブル」タリ夫ヨリシテ「エニセイ」河畔ニ至レハ館主
「ポリレーメーストル」其他諸役人皆在リ河ヲ渉リ彼岸迄一同送リ来テ殷勤ニ別ヲ告ク
館主ハ其子ニ「シャンパン」一罎ヲ携ヘ来ラシメ盃二個ヲ出シ之ニ満テ其一ヲ予ニ勧メテ云フ是レ
我国ノ礼ナリト因テ郊原ニ立テ一盃ヲ互ニ傾ケ予カ先途無事ヲ祷レリ其様実ニ親切
ヲ極メタリ此処ヨリ「タラタス」ニ乗リ疾走ス于時十一時半ナリ天陰レトモ雨来ラス塵埃風ニテ
ニテ前後ニ端ニ殆ト咫尺ヲ辨スル能ハス路傍皆能ク耕シテアリ午後一時「バトイスカヤ」ト
云フ駅ニテ茶所持ノ物ヲ出シテ午飯ヲ喫ス飯了テ発ス于時雨来リ道路塵埃大ニ減ス
本日道路ハ山坂少クシテ甚タ好ク車更ニ動揺セス且ツ雨降ルヲ以テ大ニ快ヲ覚
フ沿路左右皆黒土ニシテ半ハ耕シアリ
本日ハ帽ヲ戴ケトモ蚋虫飛来リ折節蜂モ来ル斯ル「エスコルト」ニハ敗北セリ車中「フヲル
チヨワルスク」氏ノ黒龍江記ヲ読ム
夕九時半「ウヤルスク」ト云フ小駅ニテ茶ヲ飲ミ卵ヲ喰フ本日「キヤクタ」ヨリ茶車四五十輌
ニ逢フ両次
雨ハ夕方歇ム
十時半発車黒夜坂路ヲ下ルニ朦霧ノ患アルヲ以テ慮リ車ヲ降行ス途上咫尺
ヲ辨セサルヲ以テ去ニ車帷ヲ下シテ眠リ夜三時頃夢覚ムレハ細月断雲間ニ
アリ路稍明カナリ本日ノ暖気午間ハ十二三度タリ雨ノ来ラサリシ前ハ十八度タリ

二十四日

朝七時四十分「カンスク」邑ニ着ス昨夜発車ヨリ百八「ウヱルスト」来タ故ニ昨日「クラスノヤルスク」ヲ発シテヨリ二百十六「ウヱルスト」ヲ経過セリ路ハ嶮ナラスト雖坂少々ニアリ

「カンスク」邑ノ「スタンチヤ」ニ着セシ時「パン」ヲ売リ来ル壱斤ノモノ十「コペーキ」ナリ彼得堡ヨリハ四「コペーキ」貴シ麦ハ沢山ナルニ「パン」ノ貴キハ他品ノ高價ナルニヨルヲ知ルヘシ

午后二時「インガシユフ」ト云フ貧邑ニテ雛ヲ殺サシメ昼食ス蝿ヲ焼殺セシ興アリ

四時同処ヲ発シ幾モナクシテ河ヲ渡ル雨少シク来ル途次茶車ニ逢フヿ四五百

夜九時半「クリュチール」ト云フ一小邑ニ至ル村役云ク馬疲ル途ニ坂アリ小橋アリ甚タ危険ナルヲ以テ此駅ニ止宿セラレンヿヲ乞フト即チ投宿ニ決ス予ハ虫ヲ畏レ「タランタス」中ニ眠ル

有雨

二十五日　陰晴午后全晴

雨止ムモ霧深シ朝七時半発程坂路所々ニアリ道ハ泥濘ノ為メニ至ラスト雖雨頗ル多ク降リシト見ヘ往々ヌカル処アリ左右ニ耕地アリ地味ハ相替ラス膏腴ナリ林モ甚タ美ニ赤松林モアリ午前十一時「ビルサ」ト云フ一河ヲ渡ル河幅一丁余向岸ハ広キ沢地ナリ茶車三十輛ニ逢フ此河岸ヨリシテ「イルクーツク」領ナリ故ニ石標路傍ニアリ此河モ水清シ午時鷚長空ニ啼ク数声既ニシテ沢中ニ一邑アリ役人群集シテ戸ヲ出テ我等ヲ見物セリ予ハ路ノ泥深キヲ以テ車ヲ出テスシテ却テ見物人ヲ車中ヨリ見ル中ニ「チガン」ノ三四人ノ「チガン」ノ婦アリ其他ハ通常ノ魯人ナリ

午后一時半「バイロノフ」ト云フ一小邑ニテ卵ヲ煮シ「リービフ」ノ「エキスタラクト」ヲ開キ昼食ス

午后過ル所赤松及樅ノ林ヲ多ク見ル天次第ニ全ク晴ル両日来塵ノ起ラサル故ニ大ニ快ヲ覚フ

途中往来ノ客車ヲ見ル竟日坂路多ク只甚タ急ナラサルノミ

夕九時「アルガシ」ト云フ小邑ニテ晩茶ヲ飲ミ休憩ス十時半発車黒夜ト雖昨夕

ノ如ク危カラザルニヤ発車ヲ止メズ徹夜動揺尤モ甚ダシ是レ路ノ悪敷ニアラズ前轍ノ道ニ多キカ故ナリ

暁四時半車帷ヲ開テ寒暖計ヲ検スルニ列氏氷点上四度ダリシカ日出頃ニ至テハ七八度ニ上レリ

二十六日　竟日霧不散

七時頃一大河原ニ出ツ「ウガ」河流甚急ナリ河幅ハ四十間位ニ過キスト雖朝霧極深キヲ以テ彼岸ヲ弁セス河ヲ渡ル大「ボリシー」及役人等「ニチニ、ウーヂンスク」邑ヨリ出迎ヘリ夫ヨリ一大村ヲ過キ「ニヂニウーヂンスク」邑ニ着シテ雞ヲ殺サシメ朝食ス味甚佳

昨今通過スル村落人物ヲ見ルニ大抵皆風呂敷様ノモノヲ冠レリ之ヲ問ヘハ即チ前面ニ馬尾ヲ以テ作リシ避虫紗ナリ実ニ此辺日中ハ蜉蝣及蚊等ノ毒虫極メテ夥シ真ニ可厭只「ダランタス」ハ走ルニ疾キヲ以テ来ル稀ナリ車止マレハ集来ル時ハ烟草ヲ吹テ之ヲ驅ル

「ニヂニウーヂンスク」邑ハ一個ノ大村ニ異ナラスシテ「カンスク」ニモ及ハス記スヘキモノナシ

十時発車午后二時半「クドヘラジスカヤ、スタンチヤ」ニテ昼食ス此処近路ハ高坂アラスシテ平ナリ林ハ松多シ途中兵卒罪人ヲ護シテ行クヲ見ル皆歩行セリ罪人ノ婦女小牛数ケ一車ニ乗搭セリ罪人ハ許セラレス相率テ連歩セリ又「タラ」無人ナリ茶車数十輌ニ逢フ雨次、罪人ハ皆「クサリ」ニテ足ヲ繋セリ但シ女ハ然ラス

午后九時「ツルノフスカヤ」駅ニテ晩食ス一大村ナリ

十時半頃車発ス冷気氷点上六度ニ至ル且ツ蚊夜見ル所ナキヲ以テ車ニ帷ヲ下シテ眠ル終夜頗ル動揺セリ

二十七日　晴天有霧

朝七時「リスチヤンスカヤ」駅ニテ茶ヲ飲ム夫ヨリ平地ヲ行ク麦皆熟シテ眺望無辺ナリ夫ヨリ頗ル漠々タル高原ヲ経テ「チミンスカヤ」ト云フ一大村駅ニテ昼食ス午時十二時也此村ニテ「ブリヤツク」人種ノ一帰路ニ在ルヲ見受ケタリ

一時半発ス正午「チマー」ト云フ河ヲ渉ル岸ニ丁字許彼岸ハ甚タ低クシテ類ノ樹茂生セリ已ニシテ又河ヲ渉ル乃チ島丈ヲ知ル此処ヲ渉ル時渡守子ニ復来ル事ナキヤヲ問フ其故ヲ問ヘハ今朝ヨリ亭カ来ル故ヲ以テ渡ヲ禁止セラレタレバナリト

河ヲ渡リテ路傍ノ左右丈草地ニ「イタチ」ノ如キ小獣甚タ多シ其色ハ淡茶色ナリ土ヲ穿ナテ住ム此獣ヲ「ミヌルキー」ト云フト馬夫答ヘリ碗ヲ取出シテ撃タントセシニ捷利ニシテ近ヅケズ「ミヌルキー」ナラバ何故斯ク走ルヤトテ一笑セリ

本日ハ十一時ヨリ午后三時五十分頃迄暑気甚敷列氏ノ二十度ヨリ二十二三度ニ達セリ四時過ヨリ次第ニ冷ニナリ夜九時頃ハ列氏七度ニ下レリ変化ノ甚敷人ヲシテ昼夜ニ冬夏ノ感ヲ為サシム

竟日大抵平路ナリシカ午后四時ヨリシテ山坂トナレリ本日ハ雲霧四方ニカヽリテ本邦ノ春日ノ如シ到処麦多シ

夕九時半「グツリク」ト云フ一小邨ニ休憩シテ晩食ス雞ヲ殺サシム調理甚佳

此邨ニテ屯所ヨリ一士官（ポル、ポリチック）醉ヲ帯ヒテ来訪セシ一奇談アリ即チ日本ニハ両変行ギシトノ事魯帝日本帝ノ中立ヲ徳トスルノ礼ニ「ポシエヱツト」ノ屯所八千ノ兵ニ将タリシトノ事此邨ノ人民及兵ニ代テ両国交誼ヲ祝スル事、正服ヲ着替テ来リシ事等、

竟日路平ニシテ安眠セリ十一時頃ノ寒暖ハ七度暁方五時半ハ六度タリシ

二十八日 快晴

朝七時頃「　」ト云フ一大村ニテ茶ヲ飲ミ雞ヲ食フ此邨ヨリ九「ウヱルスト」前往還ノ脇ニ塩井四ケ所アリ此等ハ官有タリシカ今ハ「ハミノフ」「バガノフ」「ジーウヱルス」氏ノ所有トナレリ毎年塩ヲ出ス二十五万「プード」余、此井ハ古ヨリアルモノニシテ塩ハ水ノ九「ペルセント」余ナリト云フ此語ハ当邨ヲ発スルニ臨テ始メテ聞キタルヲ以テ遺憾トス現ニ政府ニテ深サ四十「サーゼン」ノ井ヲ堀リ以テ凝体ノ塩ヲ見出スニ従事セリト云フ

此邨ヲ出テヽヨリ道路ハ八間乃至十間許ニシテ極メテ好シ坂二三アリト雖甚タ高カラス然傍何レモ麦「アウヨース」熟セリ又麻モ見受ケタリ花其高サハ僅ニ二尺乃至三尺ニ過

キス又我邦ノ菜花ニ能ク似タル者自然ニ繁茂セリ
十二時ニ　辞シテ茶ヲ飲ミ卵ヲ食フ一時半発車一ノ大河原(即チ「アンガラ」河原)
ニ沿テ行クコト十三「ウォルスト」ニシテ「イルクーツク」府ニ着シ「ゲネラール、シーウェルス」氏ノ家ニ宿ス
「イルクーツク」府ハ「アンガラ」河ヲ挟テ向岸ニアリ人口三万五千ナリト云フ「アンガラ」河ハ一大河
ニシテ流甚タ急ナリ水ハ冷ニ過キ魚ナシト云フ河中処々ニ島アリ
河原ヨリ「イルクーツク」府ハ八九「ウォルスト」ノ距離ヨリ望ミ得ヘシ先ツ人目ニカカル者ハ不相
替寺塔ナリ又山上ニアル「ミリテールホスピタル」ナリ
府ハ山脈ノ東ニ低シ坐ニアリ其佳景ナルコト「ニヂニ、ノブゴロト」ヨリモ美ナリ実ニ「シベリヤ」ノ「パラ
ルカル」ト名ケルモ虚ナラス
予カ車河ヲ越ユル時「ポリシーメースター」ハ正服ニテ迎ヘ(出ヅ)先策ヲ為シ又「カザク」ノ騎兵二騎
ニテ我等ノ車ノ前後ヲ擁セリ河ヲ渡リ了ルヤ府門アリ頗美ナリ此渡口ニ大学校ノ生徒十
数人白衣ヲ着テ出迎ヘタリ又見物人モ多カリシカ皆慎テ一語モ吐クモノナク皆帽ヲ脱テ
礼ス
旅館ナル「シーウェルス」氏及「ボウコーニク」某氏出迎ヘリ甚タ美ナル家ニテ主人ノ寝所ト書斎
ヲ予カ為メニ与ヘラレタリ又市川子ト共ニ主人ノ命シ置キシ自家ノ浴室ニテ浴セリ甚
快ク覚フ浴後当府在勤ノ兵隊ノ総長「ゲネラール」某機嫌キヽトシテ来ル
五時半主人及「ボルコーニク」其他同行一同ニテ食ス美酒佳肴坐ニ満テリ主人ハ甚タ真
卒ノ性質ニテ極メテ親切ナリ二人共ニ日語(ゼルマン)ニ適スルヲ以テ予カ為メニ甚タ便利ナリシ
食後主人ノ花園ニ歩シテ茶ヲ飲ミ夫ヨリ主人ト同車シテ府内ヲ一見ス本町ヲ「バルシヨイ、
ウヰリツア」ト云フ大町ノ謂ナリ石造ノ家甚タ多ク餘リ「エカテリンブルグ」ニ譲ラス
着府後電信局ヘ人ヲ遣セシニ「ウラヂオストツク」ニ瀬脇氏ヨリ二通ノ電信アリ其一ハ八月二十一日
出ニテ其文ニ云ク出船ハ本月(八月)中旬ニアル由其一ハ同四日出ニテ其文ニ云ク最後ノ
出船ハ十月二十日頃ノ由
偖又「ストレチヱンスク」ヨリ黒龍江ノ汽船ヲ主人ニ問フニ主人云ク出船ハ魯ノ一日ト十五日ヲ定期ト

為スト於是主人ト謀ルニ「バイカル」湖汽船明後日ヲ以テ湖ヲ渡ル由（但シ一週ニ一次）ナルヲ以テ孜明
後日ヲ以テ当府ヲ発シ「キヤクタ」ヲ一見シ夫ヨリ「ストレチエンスク」府ニ赴クコトニ決シ更ニ撒暢氏
方ヘ電信ヲ出シ（我等ハ九月廿五六日迄ニ其表ヘ着スベシ其頃ヨリ十月ニ旬頃迄ノ間ニ六
出船ナキヤ、速ニ答ヘヨ、モシ差當リ分ラズバ、分リ次第「ブラゴウエスチエンスク」カ「ハバロフカ」ノ電
信局ヘ信ヲ寄セ置カヨ）

主人ハ本日ヲ以テ「キヤクタ」ヘ電信シテ予カ同府所ヲ訪フコトヲ為知タリ

当府ニ美ナル劇場アリ市川、李見等ハ見物ニ赴ケリ予ハ物價表ヲ編ムコトニ従事ス
シテ夜十二時枕ニ就ク

二十九日 快晴

朝七時起流石ハ顕官ノ寓所ナルヲ以テ虫毒ナカリシ但シ粉ヲ用ヒス十時半ヨリ海軍
小礼服ニテ「シーウエルス」氏及附添大佐某ト同車ニテ鎮台始メ東「シベリヤ」陸軍部督（昨日来リシ少将）
「スタコ」ノ長官、市正、巨商等十餘名ヲ訪フ袖中ナル「インテレチエント」ナル人物ハ巨商某及

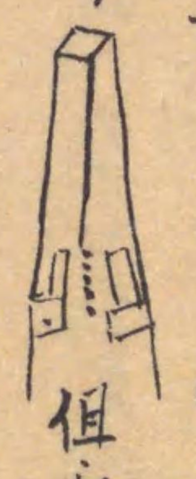
市正某ナリシ總鎮台ハ旅行留守ユヘ副鎮台代理セリ此人六十七八ノ老人ニテ甚柔和ノ人
ナリ「スタコ」長官ナル少将ハ愚鈍無識ノ人物ト見受ケタリ彼ハ予カ帰館後鎮台及諸
顕官予ヲ訪ヒ来リシ席上ニ於テ「ウラヂオストワク」ヨリ香港ニ行ク方ト長崎ヘ行クトノ遠
近ヲ予ニ問ヘリ予答ヘテ長崎ノ方少シク近シト答ヘタリ傍ラ痛キ色アリタリ予ハ始メ此ノ少
将ヲ訪ヒシ時東「シベリヤ」鎮内及「アムール」「ウスリ」地方近ノ兵数及「カザク」ノ屯田兵ハ等ノヿ
ヲ追ヒ尋ネタルニ答ル能ハス附添ノ大佐傍ヨリ予ニ答ヘタリ大佐ノ言ニ於レハ正兵ハ并セ
テ六千人ニ過キス其他ハ皆「カザク」（即不規兵）ニシテ前ヲ并セテ三万人余ニ過キスト答ヘタリ
此屯田兵ハ平時ハ志ノ調練シテ居ルモノニアラス国境ニ於テ地ヲ無税耕作ヲ事トシテ居ル
者ナリ故ニ事アル時呼集セテ以テ兵ト為スナリ馬モ銃器モ衣服モ皆自分ノ費ナリト

○正兵不正兵ノコトハ三十日ノ條ニ改正スルモノヲ出セリ

二十九日ノ續キ

市正ニ当府ノ物價表ヲ送リテ其價ノ書キ異シンコヲ頼ミシニ深悦テ諾シ午後答礼トシテ来

リシハ自ラ帯来リタリ此人云フ当府ニハ支那商人四十人余住居シ其外飴類等モ商ヘリト
此ノ支那商ハ予通行ノ時其店及人ヲ見受ケタリ支那人予カ軍服ニテ良好ノ馬車ニ駕
シ兵卒ノ護スルヲ見テ何物ナラント驚キ見ル風ヲ見ハセリ「ブリヤーク」人モ亦同様ニ見受ケタ
リ渠等ハ我等ノ顔色ノ己ニ類スルヲ以テ斯ル感ヲ起セシニ相違ナシ
本日尋問セシ人名ハ別ニ下文ニ記ス
午后一時帰館ス又鎮台始メ諸顕官等答礼トシテ来居タ
午飯後主人及大佐ト共ニ鋳金場ヲ問フ政府ノモノナリ此場ニテ東「シベリヤ」各地方ヨリ出ス
沙金ヲ鋳テ棒ト為シ彼得堡ヘ送ルナリ
沙金ハ十二「フント」宛細長キ皮嚢ニ入レ更ニ木綿袋ヲ覆ヒ縫目ヘ「ラック」ヲ以テ閉チ袋口ハ沙金
主ノ印ヲ「ラック」ニテ鈐シタリ沙金ハ「ガラフヒート」ノ坩ヘ二「プード」半許入テ鋳ルナリ鋳金ハ「フラ
ヂンク」粘土ニ作リ外見ハ四角ニシテ一方毎ニ口アリ釜内ハ通常ノ「ハールド」ナリ此ノ「ハールド」四個脊ナカ
合セニ並ヘテ以テ四角ニシテ尖形ナル「オブリスキ」状ヲ為セリ



但シ「ハールド」ノ形ナリト云

烟出ハ亦新ト旧ト合シテ一トナルナリ此長サ二十七「アルシン」ナリ而シテ木炭ノ大サ五六寸四方位ノモノヲ
用ヒテ熔ス但シ烟通高キヲ以テ火ハ自然ニ盛ニ燃ユルナリ
沙金ヲ熔スニハ沙金一「プード」ニ付「ボラックス」一「フント」硝石末「フント」ヲ加ヘルノミ
「クルシブル」ハ西伯里ヨリ出ル極上ノ「グラフヒート」ヘ六「ペルセント」ノ「カオリン」ヲ交ヘ外部ヘ「クワルツ」ノ
粉ヲ塗リ焼キタル者ナリ六次用ヒ得ヘシト此熔金ノ「スラック」及「クルシアル」ハ砕テ
更ニ金ヲ洗フ洗金沙場ニ異ナラス
沙金ハ本抵一「プード」ニ付キ八十「ゾロトニック」ノ減目アリト云フ
沙金ニハ「クワルツ」ノ交レル者ハ未タ二品ノ外費達ヲ和シテ熔スト云フ
沙金ノ熔場ハ東「シベリヤ」ニテハ当府西「シベリヤ」ニテハ「バルナウル」邑（ゴロド）此外「エカテリンブルグ」
トシテ并セテ三ケ所アリ而シテ「イルクーツク」ヲ以テ最モ大ナリトス
館主云フ東「シベリヤ」ヨリ出ツル沙金ハ并セテ約二千「プード」余リ毎年東西「シベリヤ」ヲ合ス
ハ毎年二千五百「プード」ニ及フヘシト館主ノ妻ノ父ノ洗金場ニテハ毎年四百「プード」ヲ出スト

但シ多クハ「ヤクーツク」縣ニアリ「イルクーツク」府ヨリ何レモ一千「ウヱルスト」ヲ距テヽ好キ沙金場
アルナリ又云ク百「プード」ノ土中ニ一「ゾロトニク」ノ金ヲ含メル位ニテハ「ヤクーツク」辺ニテハ引合ハズ
何トナレハ洗夫ノ給料壹千「ルーブル」ニ至ル者多ケレハナリ
東ノ「シベリヤ」沙金場ハ太抵百「プード」ノ土中ニ二「ゾロトニク」ヨリ十二「ゾロトニク」ノ金ヲ含ム
者ナリ然レ圧斯ル場所ヲ見出スニ迄ノ入費ハ甚大ナリ
東西「シベリヤ」共ニ皆沙金ニテ「クルワツ」金ニアラス「クルワツ」金ハ「ウラル」ノ山「ザバイカル」州ハ
最モ好沙金場ニ富メリト
附添大佐云ク「シベリヤ」ハ金多キヲ以テ人々皆金ヲ洗テ金ヲ得ルニ汲々タルヲ以テ他ノ製
造場ヲ立ル者更ニ無シ且ツ各府ノ傭夫ノ廉價ナラサルモ皆金ノ為ナリ既ニ「イルク
ーツク」府ノ如キハ通例一人一日二「ルーブル」ヲ与ヘサルヘカラス故ニ金ノ出ルハ「インチフヒジユアル」ニハ宜
シト雖圧府ノ為メニハ悪シト甚タ理アル言葉ナリ
「イルクーツク」府ニ別ニ製造所ト称スヘキ者モ無ク六十「ウヱルスト」モ隔テタル処ニ焼酎ノ製造所
ト硝子ノ製造場アルノミ「ステヤリン」燭ノ製造場ハ一ケ所モナシ「フエツト」ハ多キヲ以テ脂燭
ヲ少造スル者ハアリ而テ其品ヲ見ルニ第一子バリ第二クサシ、心ハ綿ヨリ成ルモノニアラザルヲ以テ
一ト切用ルヘカラス小路ニテハ大抵皆此ノ脂燭ヲ用ユ
本日鎮台ニ東「シベリヤ」ニテハ土地ヲ買フヲ得ストテ云フ謂ハレヲ尋子シニ「是ハ「カフスヤルスキ」
ニテ聞キタル事」左様ナル事ハ決シテ無之人々皆地ヲ買テ私有地ト為スヿヲ得ルト答ヘ
タリ且云ク百姓一人ニ付十五「デシヤチン」ノ地ヲ有スルヲ得ル定則ナレ圧其餘ハ皆勝
手ニ廣ク耕ス者アリ税ハ三「デシヤチン」ヲ耕ス者ニテモ二十「デシヤチン」ヲ耕ス者ニテモ只
三「ルーブル」ヲ毎年政府ヲ納ムルノミ其他学校道路橋梁等ノ費トシテ十七「ルーブル」ヲ
二十「ルーブル」ヲ出スニ至ル年モアリト(此数ハ前文ノ三「ルーブル」モ并セテ云フ事)
「イルクーツク」府ノ人口約三万五千許ニテ市正「ゴロドスカヤ、ガラワ」ハ固ヨリ一名町役人
「ゴロスヌイ、チレン」ハ六十人ナラ此レハ何レモ三ケ年ヲ定期トス俸給ナシ撰人モ被撰人モ家ヲ
有スル者又ハ地ヲ有スル者ノミ税ヲ納ムル者ヲ以テ定ムルニアラス

○沙金ハ熔解シテ「パラレロピペドム」ト鑄タル者ヲ三分ニ層分シ表裏共ニ上下二部ニ
銑ヲ金分ヲ削取リ之ヲ「ロル」ニテ「ヘプレッテル」ニ而シテ之ヲ極薄クシ其片極小ナル者ヘ
鉛ト銀ヲ和シテ「ペーンデル」形ノ小皿(凵)ニ入レ火吹キシ鉛ノ散ズル後硝石推シテ溶解シ
以テ金分ヲ定ムル也

晩食後館主及附添大佐ト馬車ニテ府ノ向ヒナル(「アンガラ」河ヲ渡リテ)小丘上ニ登リ全
府ノ「パノラマ」ヲ見ル丘甚タ高カラサルヲ以テ一望遍形ナシト云フヲ得ズト雖モ猶其全貌
ヲ見ルヲ得タリ甚タ好景ナリ「アンガラ」河ト「イルクーツク」河及「ウシャンサウカ」ト云フ一小河流ニ合シテ
一所ニ有リ合所ハ即チ府ノ前面ナリ「イルクーツク」河ハ源ヲ支那境ノ山ニ発シ「アンガラ」ハ源ヲ
「ザバイカル」ニ発ス「アンガラ」河ノ流極メテ急ニ水ハ六七度ノ冷サナルヲ以テ魚ハ甚タ稀ナリト
夫ヨリ總鎮台ノ夏園(丘ノ住居ノ処)ニ至ル頗ル佳景ナリ夫ヨリ館主ハ予ヲ昨日宴
園及ヒ踊リ場ヘ連行ナント云フニヨリ予ハ本日見物セシコトヲ筆記スルニ付キ行ヲ好マズト辞
シテ共ニ家ニ帰来ル

○館主ハ二十年来當府ニ住ス外国人モ老鎮台モ皆云ク「イルクーツク」ハ通例冬ノ寒サ二

「シベリヤ」火成地ノ
「フオン、シボルト」氏ハ「イルクーツク」ヲ以テ火製地ト云ヘリ千八百六十年「イルクーツク」ニ地震アリテ寺鐘
自鳴シリ且ツ毎年二三次ハ小地震アリ多分ハ冬ナリ

「キャクタ」ノ商人及我等ハ樹ハ菊地ヘ御来覧アルヘキヲ悦ビ既ニ御旅館モ
設ケ置キタル栄ヲ待セシト

是ハ館主ヨリ予カ「キャクタ」ヘ行ノ趣ヲ為知タルニヨリ

忠事

熔金場ヲ訪ヒタル后博物館ヘ行キ「シベリヤ」ノ種類鳥虫獣等ヲ見ル「バイカル」湖
中ニ産スル「チューレン」獣(「アザラシ」)ヲ見タリ館ノ「デレクトル」ハ予ニ「ムラビヨフ」氏ノ黒龍江
紀行并ニ圖ト「チルチンスク」ヨリ北京迄ノ絵道ノ書ヲ送レリ予大ニ謝シテ之ヲ納ム

○沙金ハ熔解シテ「パラレロピペドム」ト鑄タル者ヲ三分ニ區分シ表裏共ニ上下二部ニ
融ヲ金ヲ分チテ削取リ之ヲ「ロル」ニテ「ペプレッテレ」ニ而テ之ヲ極薄クシ其片極小ナル者ヘ
鉛ト銀ヲ和シテ「ペーンデレ」ト云フ小皿（図）ニ入レ風吹キニシ鉛ノ散ジタル後硝石ヲ以テ溶解シ
以テ金分ヲ定ムル迄ナリ

晩食後館主及附添大佐ト馬車ニテ府ノ向ヒナル（「アンガラ」河ヲ渡リテ）小丘上ニ登リ全
府ノ「パノラマ」ヲ見ル丘甚タ高カラサルヲ以テ一望遍形ナルト云フヲ得スト雖モ其全貌
ヲ見ルヲ得タリ甚タ好景ナリ「アンガラ」河ト「イルクーツク」河及「コペルサウ」ト云フ一小河流ニ合シテ
一所ニナリ合所ハ即チ府ノ前面ナリ「イルクーツク」河ハ源ヲ支那境ノ山ニ発シ「アンガラ」ハ源ヲ
「ザバイカル」ニ発ス「アンガラ」河ハ流極メテ急ニ水ハ六七度ノ冷サナルヲ以テ魚ハ甚タ稀ナリト
夫ヨリ総鎮台ノ夏園（丘ノ住居ナリ）ニ至ル頗ル佳景ナリ夫ヨリ館主ハ予ヲ昨日ノ夏
園及ヒ踊リ場ヘ連行カント云フニヨリ予ハ本日見物セシコトヲ筆記スルニ付キ行クヲ好マスト辞
シテ共ニ家ニ帰ル

○館主ハ二十年来當府ニ住ム白人モ老鎮台モ皆云ク「イルクーツク」ハ通例冬ノ寒サニ
十二三度ニシテ四十度近ノ寒ハ或ハ至ルコト少ナクトモ風ナキヲ以テ甚タ寒カラス「イルクーツク」ノ
三十度ハ「ペテルブルグ」ノ十三度ニシテ風アルヨリハ凌キ好シト實ニ可然
予書ヲ涜ニ寄ス（午時十二時半）時ニ公使ニ龍カ下スルニ至テ「キヤクタ」ノ魯將ヨリ電信到
来ル其文ニ云ク
「キヤクタ」ノ商人及我等ハ閣下ノ御着御覧アルヘキヲ悦ビ既ニ御旅館モ
設ケ置キタル宗ヲ待ツト
是レ館主ヨリ予カ「キヤクタ」ヘ行クノ趣ヲ為知タルニヨリ

忠事

熔金場ヲ訪ヒタル後博物館ヘ行キ「シベリア」ノ礦類鳥虫獣等ヲ見ル「バイカル」湖
中ニ産スル「チユーレン」獣（「アザラシ」）ヲ見タリ館ノ「ヂレクトル」ハ予ニ「ムラビヨフ」氏ノ黒龍江
紀行并ニ圖ト「チルチンスク」ヨリ北京迄ノ新道ノ書ヲ送レリ予大ニ謝シテ之ヲ納ム

本日電信頭来リ云ク「ネルチンスク」ヨリ北京迄ノ「カラワン」路ハ甚タ好シ又「ネルチンスク」ヨリ
「ブラゴウエスチンスク」迄満洲領ヲ通シテ電線ヲ架スル件ハ坦道ニシテ且ツ出水ノ害ナシト
雖支那政府ハ拒ンテ承知セスト云ヘリ

○

東「シベリヤ」及黒龍江「ウスリ」地方ノ惣体ニアル正兵ハ併セテ七大隊ニシテ其餘ハ不正
兵即チ「カザク」三万人ヲ有用時兵ニ取立得ル筈ナリ正兵ハ七大隊ト雖其数約
壱万二千人ナリト云フ一大隊ノ「コムパタン」ハ七百人ナリ「カザク」ハ国境地ヲ貰ヒ無税ニテ
耕ス但シ馬銃及衣類ハ皆自ラ持出スナリ
○前文ニ記セシ無智ノ少将ハ東「シベリヤ」ノ惣「スタブ」ノ長ニテ名ヲ「コレンコフスキー」ト
云フ

○沙金

沙金場ハ毎人長サ五「ウエルスト」幅一「ウエルスト」宛ヲ所持シ得ルナリ之ヨリ小ナルモ随意ナリ
税ハ一「サセン」ニ付十五「コペーキ」ノ割ナリ
「ヤクーツク」領ハ最モ沙金ニ富ム
「イルクーツク」領ヨリ一千「ウエルスト」ヲ離レタル地ニアラサレハ多ク金ヲ産セス其人働キ人ノ手
間一年ニ千「ルーブル」ニ著ルヲ以テ金一「ソロトニック」半（百「アード」ノ五三）ヲ含マサレハ引合ハスト云
「ザバイカル」地方（譬ハ「ネルチンスク」領）ハ物価モ手間モ精廉ナルヲ以テ六十「ドリ」ナレハ引合
フト云フ
「シーウエルス」ノ妻父ハ現ニ七十五ケ所ノ洗金場アル洗ヒ居ル者ハ二ケ所ナリ他所ハ採ラサル納税
ス磐ノ四五ニ十五「フード」ノ金ヲ得シテアリ又熔金場ニテ見ル十五「フレト」ノ金塊モ同氏ノ妻父ノ
採所ヨリ出セシ者ニ係ル
前文附添大佐ノ名ハ「ボルシエフ」ナリ
八月三十日

朝七時起キ行装ヲ理ス十時法人暇乞トシテ来ル一昨日語シ置キシ「ブリヤック」ノ酋長等
来ル之ト語リシナリ別紙ニ載ス楽手等ノ写真ヲ乞ヒ楽手ノ合同写真ヲ送ランコ
トヲ約ス支那商亦来ル
鎮台、館主及附属大佐等ト写真ヲ取替ス
当府ノ景色ノ写真ヲ求ム一枚七「ルーブル」ナリ四枚ヲ買フ物価ノ貴キ知ルヘシ
午后一時午飯ヲ喫シ了リ館主及大佐ト同車ニテ発ス六十「ウヲルスト」「アンガラ」河ニ傍
テ遂ニ「バイカル」湖ノ船場ナル「リスチウヰチナヤ」ト云フ一村ニ着ス午后五時四十分ナリ
右六十里間ハ道路モ甚タ好ク且ツ湖畔ニ来リシ時ハ景色画ノ如ク殆ト筆
スヘカラス山ハ甚タ峻ニシテ往時ハ「ボルカニー」セシコト知ルヘシ
此処ヨリ湖水ヲ渡ル丁ハ九十二「ウヲルスト」ニテ五六時間ニ達スヘシ陸路湖畔ヲ廻ル時ハ三百
十八「ウヲルスト」ニシテ甚タ嶮ナリト云フ此船ノ社ハ「カピテイン」ト云ク千八百四十二年ヨリスト又
云ク九月下旬ヨリ十月中旬ハ風濤悪シキ候ナリ航行ハ魯暦五月中旬ヨリ十二月
初旬迄アリト湖水ハ甚タ清澄ニシテ且ツ深処ハ六七百「サーゼン」アリト「アンガラ」河ハ即チ「バイカル」
湖ヨリ流出ル河ニシテ其口ハ流甚タ急ニシテ厳冬ト雖氷合セシコトナシト但シ湖面ト「イ
ルクーツク」トハ六十尺ノ差アリト云フ流ノ急ナル知ルヘシ湖水ノ河ニ入ル口ハ出岩アリ之ヲ「シヤマ
（教宗ノ名）僧ノ「ホリー、ストーン」ト做セリ「ブリヤック」ハ此岩ヲ過ル時ハ必ス帽ヲ脱シ拝シテ去ルト
云フ前文「リスチウヰチナヤ」ノ汽船社ノ家ニ休ミ出船ヲ待ツ「スタフレ」ノ長（少将）夫
婦及娘マテ送リ来ル
午后七時船発ス「シーウェルニ」及大佐皆帽ヲ脱シ目ノ及フ処迄見送レリ夜曇レリト雖星
光処々ニ漏レ風モナシ電光キラメケリ

○

「イルクーツク」府ハ固ト「ブリヤーク」民ノ住居タリシ処ナリ此民ハ水草ヲ逐テ移ル者ナリ今ヨリ四
五十年以来定居スル者多キニ居ルニ至ケリ魯ノ領トナリシハ「ペートル」大帝ヨリ廿年前
ナリ（約二百年）城趾モ何ニモナシ且ツ此府「ブリヤーク」民ノ領タリシ時ハ家数ヨホクアリシナラス

ト云フサレハ「イルクーツク」ハ魯人戦ハスシテ取リシ者ナル可推シテ知ルヘシ
「エルマック」ハ「トボルスキ」近ニ取リ内河ニテ打死セリ同人ノ「モニユメント」ハ同府ニアリ「タタル」ハ「カラス
ヤルスク」府近在ニ多ク住シテ其ヨリ東南ハ「ブリヤク」ノモノナリト云フ
一「ブリヤク」民ハ別紙ニ記セシ如ク男女并セテ凡ソ五万人許ニシテ蒙古語ヲ用ユ文字ナシ知
ル者ナシ
本日「イルクーツク」ヲ発シ府ノ外門ハ本ナ「ムラビヨフ」氏「アイグン」ノ約成リテ帰リシ時ノ記門ナリ
○先ノ續キ
夜十時半頃近辺ノ舩ヲ記ニ「カヨイト」ニ眠ル一夢夜半汽音ノ耳ニ喧シキヲ覚ワカチ舩ノ
着セシナリ于時夜一時半
本日乗組ハ「カヨイト」ハ我等四人ノミナリ甲板上ノ客ニ支那人一二名アリタリ「イルクーツク」ニ
住ム支那商人ノ「キヤクタ」ニ赴クモノナリ

八月三十一日

夜中甚タ雨降リ甲板甚湿ヒタルヲ見ル備着舩場ノ驛ヲ「バヤルスカヤ」ト云フ車ニ馬ヲ換ヘ来
ル「イスプラウニク」役及下役出迎ヒ来リ例ノ如ク前導シテ発程ス朝四時半「ボルシヨレチンスカヤ」
ト云フ一小驛ニテ茶ヲ飲ム雨ハ夜来餘程降リシト見ヘ道路稍泥ヲ為セリ然レトモ着舩
后ハ降ラス只曇ルノミ茶ヲ飲ミ了テ車ヲ発車道路凹凸坂アリシ既ニシテ平地トナル七時半
「カバンスカヤ」驛ニ而馬ヲ換フ此驛ハ一大村ニテ山ハ遠方ニ見ヘ四方開カツナル好村落ナリ
驛標ヲ見レハ

キヤクタ迄	三百「ウヨルスト」
チタ迄	五百三十六3/4「ウヨルスト」
バルグチン迄	三百十七「ウヨルスト」
ストレテンスク迄	八百九十六「ウヨルスト」

「バイカル」湖ヲ渡リテヨリ「セレンゲンスク」邑ノ管轄所ヨリ前導ノ「イスプラウニク」ハ此邑ヨリ
出迎ニ来リシナリ

此ノ驛ヲ出ツルヤ兵卒十八人許ニテ罪人二十人鎖ノ前後ヲ護シ行クヲ見ル皆鉄鎖ニテ足ヲ繋ケリ歩行ナリ後ヨリ妻子又ハ病罪人等ノ「タランタス」連ナリ行ク罪人ハ二日歩シテ一日休マシムルナリ

道路ハ甚タ雑駁アリ左ニハ「セレンガ」河流レ右ニハ程遠ノ突兀タル山峰重畳シテ連ナリ其後ニ遥ニ峨々タル山又山アリ其高サハ大抵四五千尺ヨリ一万尺ニ見受ケラル処ニ「ザバイカルヒ」ニ泉ハ是迄ノ山河ト全ク観ヲ異ニシ夫ヨリ両山間ニ前文ノ「セレンガ」河流ルル河畔ニ沿テ桟道ノ如キ道ニ大ナル風景絶佳

午后三時山中ノ一舍ナル「グロビンスカヤ」ト云フ一驛ニテ午食ス胡瓜ノ塩漬ト黒パンノ外ハ卵サヘモナシ所持ノ「リービフ」ノ汁ト「サルヂン」ヲ出シテ食シヌ平時山羽翠日ヲ蔽テ写真ヲ取ルヲ得ス

食了テ発ス満目風景全ク是迄ト替リテ甚佳山岳ノ景色モ是迄ヨリハ一層青色アリ之ヲ以テ此邊ハ是迄ノ処ヨリハ暖氣タルヘキヲ推知セリ聊カ寒暖計ハ午后五時二十七度アリシ

行クコト三十「ウエルスト」許ニシテ一大驛ニ出ツ此驛ハ沼地ノ様ナルヲ以テ夏分ハ中皆水溜ナルヘシ六時半「ムヒンスカヤ」ト云フ村驛ニテ馬ヲ代フ此處ニテ馬カ蹈リニ泥ヲ喰フヲ見ル大ニ怪テ之ヲ予ニ告ク予之ヲ附添役人ニ問フニ塩氣ヲ含ムル故ナリト答ヘリ予親是其土ヲ水ニ和シ之ヲ試ルニ果シテ少シク塩氣ヲ味ヘリ又「ラーピス」水ヲ以テ之ヲ試ムルニ果シテ白色ノ沈澱ヲ致セリ「ラーピス」ヲ溶解セシ水ハ此処ノ河水ナレハ沈澱物ハ些レトモ之ヲ以テ知ルベシ此地一般塩氣アルニハアラサルヲ、

此驛土ニ斯ノ塩氣アル以上ハ草モ亦然リ故ニ牛馬ノ為メニモ亦宜シ

驛ヲ行クイ餘驛ニシテ夕八時半「クリユチスカヤ」驛ニテ雛ヲ殺サシメ夜食ス

九月一日

天氣朗明暑氣甚シ夜来輝テ驛中ヲ奉シナ車大ニ動揺ス朝七時「セレンギンスカヤ」驛ニテ茶ヲ飲ミ卵ヲ喰フ

「ギリヤーク」人

「ツングース」ノ天幕部落

八時発車ス月シテ谷中ヲ行ク四方ニ突兀タル山散羅シ中ニハ全ク「コンカル」状ヲ為ス旧
火山アリ山ハスベテ岩ノミニテ樹木ナシ一大狼車ノ傍ヲ趁リテ山ニ走ル急ニ砲ヲ求ル中ニ遠サ
カリタルヲ以テ見棄ル色ハ茶ニシテ尾ハ黒色ヲ交ヘタリ犬ヨリ二倍ノ大サアリタリ
九時「セレンガ」河畔ノ渡場ニ出ツ渡守ハ「ブリヤック」人ナリ宗色ヲ好キヲ以テ「ブリヤック」ト云フ居
婦人小児等及ヒ渡場写真ヲ取ル
此ノ種ノ人種ハ魯ト「ブリヤク」又ハ蒙古ト魯ト交リタル者多シ「ブリヤク」ト蒙古ト言語
稍相通ス蓋同音ニアラスト云フ未確後日ヲ待ツ此場ヲ「セレヤンスコ ストレロチヌイ」渡ト
云フ
午前十時既ニ十八露里此渡場ニ来ラサル前ニ谷中ニ「ブリヤク」ノ一婦井水ヲ汲ムヲ見ル
予車ヲ下リ其水ヲ試ムルニ少シ濁リタレド塩気ナクシテ能ク飲ムベシ井ノ深サハ三間半
乃至四間許ナリ
写真ヲ了リタルハ十時ナリシ夫ヨリ舟ニテ「セレンガ」ヲ渡ル流甚タ急ナリ河幅一町半向岸ハ

峩々タル岩山ナリ○予「ブリヤク」ノ小家ニ入リ婦ノ児三人ニ各五「コペーキ」ヲ与ヘタルニ手出シテ之ヲ受ケ喜色ヲ顕ハセリ写真アリタル後婦ト他ノ小女ナル「ブリヤク」ノ女ニシテ喇嘛宗ニ入リタル者ニ各小銀二十「コペーキ」ヲ与ヘテ写真ヲ取ラシメシ礼トセリ

河ヲ渡テ七八軒ノ小家アリ魯人「ブリヤク」人ノ住ム所ナリ沙山ノ脇ヲ行クタル往還ヲ過キ小沙漠トナル「ブリヤク」ノ村落処々ニアリ魯人ノ家ト同シク九木小家ナリ土人此ノ沙漠ノ水草ノ丘ヘ牛馬ヲ牧セリ此往還ハ沙ニシテ且ツ前車ノ轍深キヲ以テ車ノ動揺甚ダ烈シ馬モ亦タ悩ミ行クナリ午前十二時沙漠中ノ一村落「ボワロートナヤ」ニテ所持ノ食物ヲ出シテ午食ス

午后二時発車同シク沙漠中ヲ行キ或ハ小丘ヲ登下ス赤松ノ原アリ此ノ中天少シ陰リ涼風四至甚タ快ヨシ「ブリヤク」ノ小村ナル「カリノ、ペレワロフスカヤ」ト云フ落ニテ「ブリヤク」ノ小家ヲ訪ヒ其言語ヲ学テ別紙ニ記ム六時二十分「ウスチ、キヤクタ」落ニテ馬ヲ代フ此所ヨリ「キヤクタ」

百枚目ヲ参照

近ハ二十七「ウェルスト」余ナリ此辺ハ頗ル大ナル村ニテ魯ノ寺モアリ深中ニテ四方ノ山ハ高カラズ

ウスリー河ノ「ゴルヂ」人

ウヅキー地方ニ於ケル「ワングース」人

此辺牛羊ヲ牧スルモ多シ

此驛ニテ我等ノ車ニ用ユル外馬ナキ由ヲ以テ附添ノ役人ハ此所ニ止メ我等ハ車ニテ発程夕十時「キヤクタ」ニ着シ茶商会社ノ「クラブ」ヲ以テ旅館トス此他ノ「コミサル」及「キヤクタ」ノ前邑(四ツウルスト前ニ在リ)「トロイツコ、サフスク」ノ「ポリレーメーストル」及電信局長及茶商ノ總代トシテ商人二名来訪ス

予カ商地ニ着セシハ既ニ夜中ナルヲ以テ「トロイツコ、サフスク」邑ヲモ只ニ燈火ヲ見シノミニシテ能ク辨スル能ハサリシ

着後直チニ「コミサル」役ト語リ左ノ条々ヲ聞キ得タリ

「キヤクタ」ハ茶商ノ倉庫ノミニシテ人口ハ三百許ニ過キス前邑「トロイツコサフスク」ニハ三千人モ人口アル由

「キヤクタ」ハ千七百二十五年ニ支那ト境ヲ定メ此処ヲ以テ貿易場ト定メシナリ是レ即チ「エカテリナ」第一世ノ時代ニシテ魯使ハ「サワ、ラグチンスキ」氏ナリ故ヲ以テ「キヤクタ」ノ前邑モ「トロイツクサフスク」ト名付シナリ二所共ニ此時創立セシナリ此條約以前ハ魯人ト支那人国境各所ニ於テ不規則ノ貿易ヲ為シ来リシカ此時ヨリシテ「キヤクタ」ト「スルハイトイ」ノ二ケ所ノ外ハ貿易ヲ禁シタリ「スルハイトイ」ハ「キヤクタ」ヨリ東ニ寄ル支那界ノ魯領ナリ然ルニ「アクナチエフ」氏北京條約以後此ノ「ハルハイトイ」ノ貿易ハ次第ニ衰微セリト

「イクナチエフ」ノ條約ニ支那ト貿易ハ西「シベリヤ」ニテハ「セミパラチンスク」領ノ境ニ於テシ東「シベリヤ」ニテハ「キヤクタ」ト定メシナリ然レ圧折節他所ヨリ支那商来ルコアリト

予「ブリヤク」人ト蒙古人ト差アルヤ否ヲ問フニ彼云ク人種言語教門共ニ一ナリ只「ブリヤク」人ハ魯領ニアリテ相隔タリシニヨリ言語ニナマリヲ生セシト雖大同小異ニシテ相通スト又云ク楽器等奉スル「シヤマ」山モ「ラマ」モ共ニ佛ノ一派ナリト

「キヤクタ」ニテ「コミサル」役ハ一名アルノミニテ別ニ役人ナシ

「キヤクタ」ヘ入ル路ノ右側ニ大ナル墓寺アリ

夜十時夜食ス十二時眠ニ就ク避虫粉ヲ寝所及ヒ面部ニ撒シテ睡ル

九月二日雨

朝七時起軍礼服ヲ着ス窓外ニ往来スル支那人蒙古人等皆立止リテ奇観ヲ呈ス

○舎ヲ支那ノ「マイマチン」府ノ町家ニ我ニ十許ノ距離ニ其屋宇壮麗ヲ可観

九時「トロイツコ・ソフスキー」ノ市正「モルチャノフ」氏来訪セラル一巨商也此人ト黒龍江ヲ

貿易ノ事ヲ語ル種々ノ要談アリ伊人曾テ自己ノ汽船ヲ以テ支那茶ヲ黒龍江

ヲ経過シテ「シベリヤ」ニ致ラントシ沙漠ヲ越ヘ「キヤクタ」ヘ送ルモノヨリ運賃廉ナリト

又云ク支那ノ沙漠ヲ運輸スルヨリ日本ノ品ヲ水路黒龍江ヲ経テ運致スル方廉

ナルヲ以テ支那ニ「コンキュレーレン」スルヲ待ズヘシト

「キヤクタ」ヨリ北京近政府ノ郵便ハ月二次車荷郵便ハ二月二次ニ此車特ニ郵便ヲ立ツ是ハ一月ニ四次就中

冬季ハ二月ニ至レバ故ヲ以テ魯商等旬ヲ郵便ヲ立ツ是ハ一月ニ四次就中

一次ハ東持飛脚ヲ以テ十五晝夜ニシテ北京ニ達ス

「キヤクタ」ヨリ「ウルガ」(烏城)迄ハ三百ノ「ウルスト」ナル旅程中ニ支那ノ郵ナク蒙古ノ「ユルタ」

アルニ

十時頃ニ米臨セシ巨商「アレキセイワレリエフ・シエエフオフ」氏「ミハイル・アレキサンドロウキチ・ペトロフ」

氏「コミサル」役人「ウゲニー・ソフスキー」邑ノ予ト同行セリ「カザク」ニ

騎乗ノ車前後ヲ擁ス夫ヨリ「トロイツコソフスキー」邑ニ至リ陸軍大隊長某電信長某

「ポリシーメーストル」等ヲ訪フ到処皆「シヤンパン」酒ヲ出シテ祝言ヲ述ヘ飲ムヲ是レ「シベリヤ」

礼ト見得タリ並ニ「ポリシーメーストル」如キハ予ニ謂テ曰ク関ナク来訪セラレンコヲ願メ知リタ

シニハ魯国ノ例ニ倣ヒ塩「パン」ヲ出シテ迎フヘキ筈ナレ共草卒間ニ付政ノ礼ヲ以テ待遇

スルコヲ許サレヨト殷勤ニ迎ヘテ後「シヤンパン」ヲ出セリ午前ノ「ブレシーテ」ニ「シヤンパン」ヲ出スハ政

ノ礼タルヲ以テカ何レモアレ朝ヨリ「シヤンパン」ニハ頗ル困却セリ于時雨大ニ下ル宇真屋

ヲ訪フテ「キヤクタ」ノ景色二枚ヲ買フ烏城及ニ「ユトノガラフ」等ノ写真二新特セント名ノ

「アルヒウス」氏側ヨリ言ヲ曰ク予「マイマチン」ノ景ヲ花ス請フ之ヲ贈ラントス乃チ去ル

途中見ル物:支那人蒙古人「ブリヤク」人等ヲ何ヒ去抵同人種ニテ分ケ難シト雖「ブリ

ヤクタ」ハ魯領ノ民ナルヲ以テ少シク異ナリ譬ヘハ辮髪セスシテ短キ総髪ノ者多ク蒙古人ハ支那人ト頭髪顔色共ニ同シキヲ以テ殊ニ分チガタシ只言語全ク異ナリ蒙古ト「ブリヤク」ハ同言語ナリ「ブリヤク」ハ支那人ニ比スレハ丈ケ少シク高キニ似タリ鼻ハ支那人ヨリモ低クシテ眼光モ下品ニ見ユ

予ガ訪ヒシ魯人ノ家ハ大抵皆「ブリヤク」ノ男女ヲ以テ僕婢トセリ

午后一時「コミサル」ト同車ニテ支那領売買城ニ入リ支那ノ首長ヲ訪フ支那ト「キヤクタ」町家ノ境ハ僅ニ五十尺（サーゼン）ノ中立地アルノミ故ニ恰モ一府ノ如シ双方互ニ牆ヲ繞ラセリ牆ハ疎ナル木ナリ此中立地ニ蒙古ノ「ユルタ」一個ヲ見タリ支那領ニハ数個ノ木製関門アリ唐画ノ小楼台ノ如シ種々ノ額アリ北門鎖鑰等ノ額字アリ劇場ノ関所ノ如シ魯領ノ方ニハ門アリテ扉ナシ門番ノ如キ者一人アリ支那ハ夜ハ門ヲ鎖セリ魯ハ「トロイツコ、ソフスキー」邑ニ六百人ノ一大隊兵アリ今ハ夏ナルヲ以テ皆暇ヲ与ヘ役ヲ為サス支那ノ方ニハ一兵モナシ

偕予ガ車支那領ニ入ルヤ支那人皆出テヽ眺メタリ既ニシテ裏店ノ如キ一舎ニ入ル是レ即チ首長ノ邸ナリ魯人ハ支那ノ首長ヲ「チヤルクチー」ト唱フ蒙古語ナルヘシ首長ハ年四十九歳ニシテ奎姓蘭軒名ト云フ予ガ兼テ知リナガラ別ニ衣冠モ整ヘス衣服ハ極陋ニシテ顔色威望モ何ニモナキ馬鹿氣ナル男ナルヲ以テ予ハ一舎中主僕ヲ分ケガタク「コミサル」ノ指點ニ由テ始メテ首長ナルヲ知レリ首長ハ一語モ魯語ヲ知ラス魯ノ首長モ亦全ク支那語ヲ知ラス故ニ魯ノ「コミサル」ハ召使ノ「ブリヤク」人ヲ用ヒ支那ノ首長ハ支那ノ蒙古語ニ通スル者ヲ用ヒテ「ブリヤク」ト話セシメ一ハ蒙古語ヲ魯ニ訳シ一ハ蒙古語ヲ支那語ニ直シ以テ互ニ僅ニ相通スルヲ得ルノミ予ガ此ノ首長ノ小屋ニ入ルヤ凉茶ヲ見テ口ヲ開キ「アー」「アー」ト云ヒテ已レト並ヒタル坐ニ就カシメタリ魯ノ「コミサル」ハ予ニ譲テ一段下キ敷石ノ上ナル腰掛ニ憑リタリ支那ノ首長ハ魯ノ「コミサル」ヲ見ルコト秦越ノ如ク甚タ歯ニ掛ケス「コミサル」ハ亦支那ノ首長ヲ野蛮視シテ敬礼ヲ加フルノ意ナシ予ハ此ニ三人ノ有様ヲ見テ隣交或ハ交誼ノ相存スルコトナキヲ知レリ予ハ支那ノ主長ニ向テ筆ト硯ヲ出セヨト手マネセリ一支那人側ヨリ之ヲ出ダス予直チニ筆ヲ採テ

予粗解漢語而不通漢音請以筆代舌

ト書キタレハ主長ハ喜色満面予ニ向頭ヲ少シク點シ再ビ「アー、アー、アー」ト言出セリ其挙動怪易ニシテ罷ナキヿ児童ノ如シ自是互ニ筆談ス支那人七八名予ヲ周囲ヲ囲テ立見シナガラ何ヤラ「パラ、パウ、チン、チヤン」抔ト私語シ居タリ抑モ此ノ小屋ハ空気ノ融通殊ニ悪シク且ツ臭気甚タシキヲ以テ長坐シ難シ、居ルヿ二十四五分ニシテ予別ヲ告ケントスレハ主長之ヲ止メ茶菓及ヒ「シヤンパン」ヲ出シタリ我等礼義ノ為メ一口飲ミタリ時ニ魯人ノ「コミサル」ハ家中ニアル切類ノ一二ヲ取テ予ニ示シテ云ク是等ノ品モ多ク貿易ノ為メ魯ニ輸入スト云ヘリ是レ年来予ト魯商来ノ貿易品ヲ議セシニヨリ示セシナリ予小屋内ヲ顧ミルニ各種ノ貿易品類満タリ故ヲ以テ予ハ支那人ノ主長ヲ以テ商業ヲ兼営スル者ト思ヒ帰館後前文魯人数名ヲ招キテ晩食ノ時之ヲ問フニ一同口ヲ並ヘテ云ク是レ公然ノ賄賂ナリト且ツ「コミサル」云ク「マイマチン」ノ主長役ハ「マヨール」位ノ者由而シテ其役ハ顕官ニ数金約一万五千「ルーブル」ヲ賂ヒテ来シ者ノ由ニツケリ年限ハ三年ニシテ渠レ三年間ニ商人ヨリ公然ト「マイナイ」ヲ受ケ富ヲ致シテ帰京スルヲ例トスト云ヘリ是皆実説ナルヿ疑ヒナシ予南邑兵隊長ニ支那ノ兵ヲ見ルヿアリヤト聞キシニ未タ曽テ一人モ見シヿナシト云ヘリ予云ク然ラハ貴下ノ任スル辺塞無事ニシテ労ナカルヘシト問ヘバ隊長云ク実ニ無事ヲ極メタリ渠等ハ事ヲ起ス程ノ気略アル民ニアラズト云ヒ一商云ク予曽テ「ウルガ」ニアル支那兵ヲ見ルニ弓矢ヲ用ユ其鄙ニシテ弱ナルヿ噴飯ニ堪ヘスト隊長又云ク予ノ職掌ナルヲ以テ我兵ヲ調練スル時ハ「マイマチン」ノ皆戸ヲ鎖シ支那人一人モ出テズト予其故ヲ問フニ隊長云ク更ニ解スヘカラサルヿナリ渠恐クハ之ヲ以テ「デモンストレーシヨン」ト考ヘタルヘシ然ルニ渠ハ久シク我ト相賦大スルヲ以テ其「デモンストレーシヨン」ニアラサルヲ知ルヘキ筈ナリト予又「コミサル」ニ魯人ノ用向ヲ以テ「ウルガ」若クハ北京ニ赴ク者アル時ハ支那人何等挙動アリヤト問フニ答ヘテ云ク必ス附添役人ヲ付ケ自由ニ独行セシメス是レ全ク猜忌ノ念ヲ致スモノナリ云々支那ノ主長ハ一年ニ一次許ハ蒙古民ヲ喚寄セ馬上弓槍ヲ使フ調練抔ヲ為セリ渠ハ「ミリタール」ノ職モ貿易事務モ兼ヌルモノナリト一商側ヲ

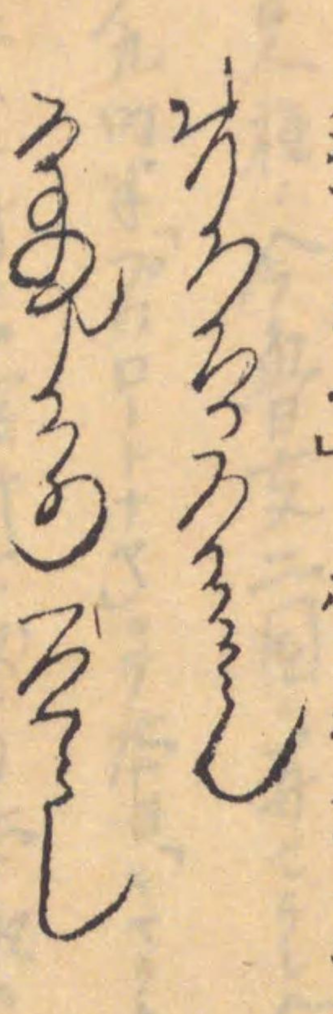
口ヲ出シテ云フ或場合ニ於テハ神官ヲ兼ヌルコトアリト業スルハ是ハ天地ヲ祭ル等ノ古典ヲ
行フ件目撃セシナラン
支那ハ婦女ノ長城以外ニ出ルヲ禁スルヲ以テウルガニモ「マイマチン」ニモ支那婦ハ一人モ見ルコトナシ嘗ニ寄事カ魯人云フ是レ塞外ニ出ル支那人ニ婦ヲ伴ヒ行クヲ許サス件ハ他国ヘ逍レテ再来セサルノ畏アルニ由テナリト聞及アリト此說解スヘカラズ蓋「マイマチン」ニモ「キヤクタ」ニモ「イルクーツク」ニ住ム支那商人モ婦ヲ伴ハサルハ実事ナリ予本日両三次「マイマチン」邑内外ヲ車行セシニ婦女ハ一人モ見ズ
「マイマチン」内ニハ一ノ支那人住ミ邑外ニ住ム者ハ蒙古人ナリ
備我等ハ主長ノ屋ヲ出テヨリ一商店ニ到リ偶像一（二十二ルーブル）ト扇子一本ヲ買ヒ夫ヨリ関夫子ノ廟ヲ見セリ「マイマチン」邑ハ四方ヲ墻ニテ囲ミ狭キ町三筋許アリ町毎ニ両ツ門アリ門アレハ更ニ親アリ町ハ只ニ狭キ而已ナラス臭気殊ニ甚タシ
午后五時前文魯人五名ヲ招キテ同食ス食前ニ「キヤクタ」ニテ茶ト貿易スル魯商ノ毛皮類ヲ一見ス河獺狐猫「リユス」等ナリ魯製造品モアリト云フ
食後牛毛ノ敷物類ト製皮ヲ巨商等齎シ来リテ日本ニ向クヤ否ヲ問ヘリ予又北京ニアル五六ノ使館ヲ経テ当府ヘ茶ノ見本ヲ送ランコトヲ約セリ魯国ヨリモ同シク北京ヲ経テ東京ヘ送（贈）ランコトヲ約セリ是レ「アムール」河ヲ用ヒテ日本貿易ヲ開カレンカ為メナリ予カ見込ト全ク合セリ
「イクナチエフ」條約ニ貿易ノ自由ヲ許アルヨリ茶ノ外ハ支那ノ品物「キヤクタ」ヨリ入来ルニ全ク無税ナリ其上支那商ノ魯国領ニ住シテ営業スル者ヨリ営業税ヲ取立ルコトナシ故ニ支那商ニハ大ニ益アレ氏魯商ハ競フ能ハサル害アリト「コミサル」及商人等ハ口ヲソロヘテ予ニ語レリ此事「イルクーツク」ニテ聞キシコトト異ナリ
夜八時「ミハイル、ペレワロフ」氏ノ湯屋ニ浴ス
巨商等ヨリ磚茶二種及「キヤクタ」貿易表三年間ノモノヲ得タリ是レ予カ依頼セシナリ

「プハヒウス」氏（コミサル）寫真三枚ト画一枚ヲ恵セラル
夜雨再来ル滴々有声
「キャフタ」ヨリ支那領「マイマチン」ニ出ル毎ニ一国開化ノ程斯ク迄モ異ナル者カト大ニ感ヲ起セリ

九月三日　晴

午前十時「マイマチン」ノ主長蒙古兵ノ士官ヲ代トシテ予ニ答礼ス「プファフヒウス」等皆来ル
北京駐札鄭永寧氏ヘ寄ル書ヲ出ス事畢テ予ト共ニ「コザク」ノ下等士官ヲ連レ中立地ニ在ル蒙古ノ「ユルタ」ヲ一見ス中ニ蒙古二人アリ一人ハ「ラマ」僧ナリ次ナ亦髪ナシ一人ハ頭毛支那人ノ如シ支那ノ兵ナリ兵然　生ナリトト云ヘリ予「カザク」ノ下等士官ヲ通事トシテ蒙古ノ言語ヲ聞ニ「ブリヤク」ニ少シモ異ナルナシ骨相モ亦然リ支那人ニ比スレハ頬骨高ク鼻低シ
夫ヨリ「コミサル」等一同ニテ午飯ヲ喫シ了リ十二時半発程「コミサル」ハ予ヲ送テ「トロイツコソフスキ」ノ邑ハヅレ迄来ル
雨ニテ路筋泥ヒ塵ナシ沙風吹起リ日中ナレド寒暖計ハ十七度ニ過キス

(α)「チ、カル」ノ蒙古人「トプチンナクボ」ナル者云ク「ヂンギスカン」ノ生レシ処ハ「オルドス」ナリ「ウラモリュン」河（赤）ノ辺（ホトリ）ニアリ此地ニ墓所アリ又云ク「ウルガ」ハ蒙古ニテハ「ダークレ」ト云フ大都ノ謂ナリ此処ノ剃馬ノ頭ヲ「ヂップツングンバボトクタ」ト云フ又「ツベット」ニモアル「ダライラマ」ヲ「ボクダダライラマ」ト云フ「ボクゲン」トハ蒙古語ニテ大ノ義ナリ


チンギスカン
クブライカン

汲場近ク山坂且河岸ニ旋（傍）ッテ多クハ汲テ黒夜車ノ覆ルコトアラバ畏ルヘキコトナリ杯トサシテ掛念ナキニアラサレ氏馬夫ヨリ何モ言出テサルニ付苟モ安心シテ上途此時風止ミ星夜甚タ静ナリ須臾ニシテ熟眠スル事見生亦熟睡セリ乍チ地震ノ如キ心地セシト感セ

「プハヒウス」氏（コミサル）写真三枚ト画一枚ヲ恵セラル
夜雨再来ル滴々有声
「キャクタ」ヨリ支那領「マイマチン」ニ入出スル毎ニ二国開化ノ程斯ク迄モ異ナル者カト大ニ
感ヲ起セリ

九月三日　晴

午前十時「マイマチン」ノ主長蒙古兵ノ士官ヲ代トシテ予ニ答礼ス「プファフェウス」等皆悉
北京総札鄭永寧氏ノ書翰ヲ出ス等見子ト共ニ「コザク」ノ下等士官ヲ連レ中
立地ニ在ル蒙古ノ「ユルタ」ヲ一見ス中ニ蒙古人ア一人ハ「ラマ」僧ナルヲ以テ赤髪ナシ
一人ハ頭毛支那人ノ如シ支那ノ兵ナリ兵役　生ナリトト云ヘリ予「カザク」ノ下等士官ヲ
通事トシテ蒙古ノ言語ヲ問フニ「ブリヤク」ニ少シモ異ナルナシ骨相モ亦然リ支那
人ニ比スレハ頬骨高ク目鼻低シ
夫ヨリ「コミサル」等一同ニテ午飯ヲ喫シ了リ十二時半発程「コミサル」ハ予ヲ送テ「トロイ
ツコソフスキ」ノ邑ハヅレ迄来ル
雨ニテ路筋泥ヒ塵ナシ冷風吹起リ日中ナルモ寒暖計ハ十七度ニ過キス
午后六時「カリノ、プレワロフスカヤ」ニ於テ蒙古ノ僧「トプチンナクブ」ナル者ト逢ヒ語ス
是ハ支那ニテ百五十人ノ長ヲ七年務メシ者ナルカ今ハ「ラマ」トナリテ此辺ヲ遊歴スル者
ナリ此者ノ云フニテハ前紙(a)ニ記事アリ同人云フ「ブリヤク」モ蒙古モ更ニ別ナシ支那ニア
ル者ヲ蒙古ト云フ魯領ニアル者ヲ「ブリヤク」ト云フノミ言語モ人種モ全ク一ナリト此蒙
古人種ノ今魯支二国ニ併セラレ今日ノ姿ニナリタルヲ歎セリ
夕九時半「プワロートナヤ」ニテ本日「キャクタ」ノ旅館ニテ贈与セラレシ「パン」雞肉等ヲ出シテ晩
食ス　寒暖計七度ナリ本夜ハ中ニ夫ノ前日写真ヲ取リシ矢ノ渡場ニ達スベシ
渡場近ク山坂且河岸ニ沿フテ(傍)多キヲ以テ黒夜車ノ覆ヘル「ル」事アレバ畏ルヘキ事ナリト故ト
止メテ掛念ナキニアラサレ氏馬夫ヨリ何モ言出テサル付背モ安心シテ上達此時風止ミ星
夜甚タ静ナリ須臾ニシテ熟眠スル事見生ニ亦熟睡セリ乍チ地震ノ如キ心地セシト感セ

シ他ニアラズ予馬夫ニ尺許ノ低跡ヘ前輪ヲ乗入レタルニヨリ車ハ乍チ顛倒シテ寺見
先ト荷物予カ上ニ仆レ来リシナリ寺見モ急ニ醒メテ車帷ヲ開キ出テントスレ𪜈荷物
ニ推サレテ動ク能ハズ予ハ尚更挙動不自由ナルノミナラズ下リマキ口ヲ塞キ手足ハ全ク
動ク能ハザルヲ以テ気息甚タ苦シ只ヽ急ニ寺見子ニ車帷ヲ開クベシト云フニ寺
見ハ車外ニ出ル能ハザルヲ以テ大音ヲ発シテ馬夫ヲ呼フ馬夫ハ生憎「ブリヤク」人ニシテ大
ニ愕キ役ニ立タズ今ハ殆ト進退維谷ト思ヒシ処ヘ先乗ノ「イスプラウニク」及市川大岡
ノ三人早クモ馳セ来リ寺見ヲ引出シタルヲ以テ予モ纔カニ出ルヲ得タリ
幸ニシテ此処ハ河岸ニモアラズ又岩石モアラヌ処タリシヲ以テ我等二人共ニ少シモ怪我セザリシ
夫ヨリ一同ニテ覆車ヲ起シ荷物ヲ手早ク取出シテ再ヒ整頓スルニ従事セリ此処ハ抜坊
ヨリ一「ウヨルスト」前ニシテ時ハ夜十一時半ナリ「イスプラウニク」ハ手燈ヲ直チニ持来リテ予モ
亦兼テ出立前ニ買求置キシ旅燈ヲ予荷物中ヨリ取出セリ此朗リヲ無幾程
元ノ如ク車ヲ整頓スルヲ得タレ𪜈未タ夜中ニ付損所アルモ料ラレズシテ予ハ市川子ノ車

ニ同車シ寺見ハ「イスプラウニク」ノ方ニ同車セリ渡船中ニ車ヲ検スルニ馬ヲ取付ケル鐶七分餘
ノ鉄金ク折レテ紛失セリ此他ハ別ニ損所ナキカ如シ河ヲ渡リテ五「ウヨルスト」ニシテ「セレンゲンスク」邑ニ
着ス午時四時二十分ナリ兼テ予カ為メニ設ケ置キタル一商ノ家ニ投シ茶ヲ飲ミ夜ノ明ル
ヲ待テ車ノ修覆ヲ命セリ
「セレンギンスク」邑ヨリ横道「二十五「ウヨルスト」」ニシテ「ブリヤク」ノ教宗ノ大僧正ノ住ム村アリ「キヤク
タ」ト云フ予ハ行キタルニヨリ一往セントヲ兼テ言入レ置キタルニヨリ「セレンギンスク」ノ市正ハ夜中ナレド来テ
云ク彼村ハ馬ナキヲ以テ既ニ十疋ヲ遣ハシ置ケリト於是車ノ修復中彼村ヲ一見センコニ決
シ夜ノ払暁ニ乗ジ別車ヲ備ヒテ発ス寺見・大岡ニ生従フ「イスプラウニク」ハ素ヨリ同行ス
九月四日 快晴
払暁六時半別車ヲ駆テ「グゼーノエ」湖ノ「ブリヤク」寺観ヲ一見スル為メ発ス前「セレンゲンスク」
邑ヨリ西二十五「ウヨルスト」ノ処ニアリ路筋ハ都テ平ニシテ景色可也三方皆山ニシテ距离ハ二千丁
許ナ地ハ豪腴ニアラザレ𪜈牧牛羊場ニシテ家畜極メテ多シ処々ニ「ブリヤク」ノ小家散羅セリ

丸木作リナルヿ魯ノ百姓ノ家ニ異ナラズ既ニシテ「グゼーノエ」湖ニ達ス南北二里(日本)東
西二十五丁許ニシテ広霑等群集セリ水ハ碧色ヲ為ス水底沙石ニシテ清キヿ知ルヘシ
寺ハ湖ノ向岸ニアリ極メテ閑静ナリ寺ニ着スル前ヨリシテ寺楼及白堊遠クヨリ辨シ得ヘシ
此処ハ寺僧モ住ム処ニシテ家ハ丸木製ノ屋七十許人ハ四十五人故ニ空屋多シ是レ「ブリヤク」
ノ参詣人来宿スルカ為メニ斯ク多ク家ヲ作リ置キタリ佛寺ハ三楼ニシテ頗美ナリ寺僧ハ東
「シベリヤ」「ラマ」宗ノ大僧正ニシテ年ハ四十八九容貌通例ノ蒙古人ニテ其挙動従容迫
ラザルヿ古莫ニ貴僧タルヲ知ルヘシ黄色綿袖衣ニ緋チリメンヲ袈裟様ニ肩ヨリ掛ケ僧モ
「セイロン」ノ僧ノ如シ予ヲ迎ヘテ甚タ礼アルヿ「コイマチン」ナド郡長官ノ如キ類ニアラス且ツ人物
モ一見シテ遥カニ衆ヨリモ愈レルヲ知リ得ヘシ左ノ話ヲ為セリ通辨ハ魯語ニテ寺見生
エヲ為セリ大僧正ハ魯語ニ通セサルヲ以テ「ブリヤク」ノ通事ヲ用ヒタリ教ハ「シエキモニー」ニテ
「ラマ」宗ナリ「シエキモニー」ハ国仏特ニテハ「チヤクヂモニー」ト云フ由探スルニ我国ニテ「シヤカモニ」
ト謂フニ同シ釈尊ノヿナルヲ知レリ前文「イルクーツク」ノ条ニ「シエクメニン」ト記セシハ誤訛ナリ

大僧正ノ役名ハ蒙古語ニテ「バンヂエトハンバ」ト云フ名ヲ「タンペルタゴンボエフ」ト云フ大僧正云ク「ブ
リヤク」ノ中ニ「シヤマン」宗ノ者モアリト予通例ノ呪詞ヲ問フニ

ナモ、グルビー、ナモブダヤー
ナモ、ダルマヤー、ナモサンガヤー」ト云フ

本堂ハ釈尊始メ各種ノ佛像及掛物其他一切皆日本ニ同シ只佛経ハ印度語ヲ
「ツベツト」語ニ訳セシモノニテ魯紙ヘ書キタルナリ予大僧正ニ衆僧ヲシテ予カ為メニ讀
経セシメンヿヲ乞フ諾ス十六人ノ僧(日本僧ニ異ナラス)蹲坐(アグラ)ニテ無本ニテ讀ミ始メタリ
其節ハ日本僧ヨリ高ク且サラク異ナリ「ツベツト」語ナリ夫ヨリ大僧正ト共ニ三階(ガイ)楼上ニ
上リ「バルコニ」ニ出テ四方ヲ眺望ス天晴レ風寒カラス甚タ佳思アリ
夫ヨリ再ヒ元ノ客間ニ帰ル大僧正我等ノ為メニ「ザクースカ」ヲ出セリ予彼ニ問フニ「ラマ」宗
ニテハ肉食スト雖自ラ殺サシメスシテ他ヨリ買ヒタル者ヲ食フト若シ、モシ日本流ニテ肉食セサル
時ハ生活スル能ハサルヘシ大僧正云ク曾テ一人ノ「ブリヤク」日本ヘ航セシヿアリ此際持帰
ヘリト云フ日本製ノ鏡ヲ示セリ今佛前ニ供ヘタリ

予大僧正ニ予カ写真ト布施金五「ルーブル」ヲ与フ僧甚謝ス又日本仏教ノ話ヲ大僧正ハ予ニ仏像ノ一幅ト黄色ノ緒片トヲ紀念ノ為メニ呉レタリ

午后十二時半発車二時ニ帰舎ス「ダツラン」ニハ兵隊ノ宿所ニテ修繕ヲ加ヘ既ニ出来上リ居タリ

主人ノ婦ト共ニ三時午食ス婦ノ周旋甚至ル電信局長黒田氏「ブラヂオストツク」ヨリ昨日発電信ヲ持来ル予去テ三浦塩港ヘ返報シ事ニ甚苦ヲ「ストレチンスク」ニ待ツテヲ要セリ

午后六時「セレンギンスク」ヲ発ス「グチエーノエ」湖ヲ左ニ見テ過ル時ニ落日東山湖ニ映シ金柱ヲ現ス亦一奇景ナリ此ノ如キ好風景ノ地ヲ不者ハ拂暁夢中ニ過キシナレバ知ラザリシナリ「ブリヤク」人ノ村落アリ甚佳渓ナリ大ニ夜寒気強シ

九月五日

朝霧深シ朝六時氷点上五度ナリ「セレンガ」河ヲ渡ル此河ハ「バイカル」湖迄通フ汽船一隻アリト役人云フ河ヲ渡リ幾ニナクシテ「ウルフニウーヂンスク」ニ着テ馬ヲ代フ此ノ府ハ右岸ニ臨ミテ壮麗ナレモ本月十日未曾有ノ火災ニテ大抵焼ケタリ此邑ハ十分ラウテルムガ長タリ前邑ヨリ三十五「ヴヨルスト」ヲ経テ午前「オノホイスカヤ」ト云フ小驛ニテ「リーピブ」松魚（カワブレ）粉等ヲ出シテ朝食ス驛テハ卵ヲ得タリ此ノ驛ハ「ウダ」河ノ側ニアルヲ以テ予ハ河岸ニ出テ口ヲ漱キ顔及髪ヲ洗フ甚タ心地好シ此時天晴秋陽如焼十時半発車道筋悪シカラスト雖前車轍ト自然道ナルヲ以テ車ノ動揺殊ニ甚シタシカリキ途中観ルモノハ「ブリヤク」人カ馬ニ乗テ通リ又ハ牛羊等ノ村落辺ニ群ル牛羊等ヲ見ルノミ「セレゲンスキ」ニテ聞ク牛ハ十二「ルーブル」馬ノ廉ナル者亦大抵同価ノ駿逸ナル者ハ百五十「ルーブル」許ナルモ馬ハ大抵我邦ノ馬ト同シ大サナリ羊ハ一「ルーブル」半ナリ「ブリヤク」ハ尤モ羊ヲ食フト云フ

「ブリヤク」人ノ車辺ヲ過クル者ハ我等ヲ見テ「シンパチー」ノ色ヲ見ハシ帽ヲ脱シ微笑シナカラ行ケリ是レ同亜細亜種民ナルニヨリ自然ノ感ニ出ツルナリ

支那人車ヲ裁テ過グルヲ見ル商人ナルベシ
驟雨来リ大ニ涼味ヲ生ス午后五時「チングリボルドクスカヤ」ト云フ驛ニ至ル「イルクーツク」
ヨリ予カ往過ノ日ハ明後日ナリト為知アリシヲ以テ驛馬ナシ不得止驛ニ舎シテ晩食シ
百枚目参照
馬ノ来ルヲ待ツ「ブリヤト」人ヲ呼寄テ其ノ語ヲ問フ別紙蒙古語ノ条ニ出ス
夕十時発車次ノ驛ニテ「ブリヤト」数人予カ車ヲ囲テ見物ス予見生渠等ニ向テ汝等
古昔一帝アリシヲ知ルヤト問ヒシニ皆不知ト答フ一人アリ云ク「ヂンギスカン」是ナリト云々ノ話アリ
本夜ハ寒気殊ニ烈シ十時半ニ燈ヲ照シテ寒暖儀ヲ見レハ氷点上二度ナリシ又暁
四時ニハ一度半ナリシ以テ午間ト大差アルヲ見ルヘシ

六日

朝霧極テ深シ朝八時ニ「ポペレチンスカヤ」驛ニ着シ河流ニテ面口ヲ洗フ極テ快シ卵ヲ食
シ且ツ所携ノ松魚節煮粉ヲ食午后二時一小驛ニテ茶ヲ飲ム此驛ニハ卵モナシト云ヘ
リ其辺村数ハ前世アリ又支那人ノ出店ニ軒アリ此ノ驛ニテ「ブラゴダイチンスク」ヘ行ク一家
ノ待合セ居ルヲ見タリ我等ノ発後ニアラサレハ馬ヲ待ルル能ハサルヲ以テ発程ヲ待テリ中ニ美
婦姉妹二人アリ齢皆破瓜ヲ過グ頗ル人ヲシテ心酔ハシム是ヨリ漠々タル郊原ニ出ツ四里
四方モアルヘキ一大湖アリ「エラウニヤ」湖ト云フ湖畔ニ鴨多シ砲発ヲ試ミタルモ疾丸シテ
途中七叉
「ブリヤト」ノ馬夫ニ一盃飲マシメ蒙古歌ヲ歌ハシメシニ其節甚タ下田節ニ似タリ
本日経過セシ処ハ皆牧畜ノミニシテ更ニ畑ヲ見ス人烟ニ甚タ稀ニシテ道路ハ滑ト「ブラトー」
ノミ処々ニ清水ノ湧テリ
夕六時十五分「ドムニンスカヤ」ト云フ驛ニテ雞ノ肉ニ晩食ス午食ハ「ボグロムナ」ト云
フ一驛ニテ「サガリン」島ヨリ帰来ノ大佐「チラウロフ」氏ナル者ニ逢フ「ローゼン」成富等ヘ伝
言ヲ頼タリ好人物ニ見受タリ渠ハ大ニ日本ヲ愛ス抔イヘリ
竟日天気快晴暖度ハ日中十五六度日没後ハ例ノ如ク頓ニ寒気ヲ生ス
夕八時頃発車九時一小驛ニテ車ヲ代フ十時寒暖計ヲ見ルニ氷点下半度ナリ

此処モ亦同シク「エラウニヤ」原ノ續キニテ半輪ノ明月路左ニアリ窓ヲ凌キ車帷ヲ開キテ眺望ス

故郷の雪野寒しえべりやの高らかの草も秋の夜の月

徹夜寒氣強甚シ曉暑度ハ氷点下一度タリ曉方我車路左ノ低地ニ乗リ居タ大ニ引出スニ困却セリ

七日快晴

「ゲチラルグープルナーテル」ノ年給ハ七千「ルーブル」ニシテ居宅其他ノ雑費トシテ并セテ貳萬五千「ルーブル」ヲ得、「グープルナーテル」ハ四千、之ニ雑費ヲ加ヘテ六千「ルーブル」ナリ然レモ西伯里奉行ハ五年以上年功ニヨリテ年俸ヲ増ス譬ヘハ現時「カラスノヤルスク」ノ奉行ハ黒龍江其他ノ奉行モ勤メシヲ以テ九千「ルーブル」ヲ得ルナリ

「チタ」ハ家数四百軒許、人口四千許ナリト云フ此処ニモ支那ノ貸店アリ予写真ヲ買ハントテ写真師ヲ尋ネタルニ所持セス

「クラブ」ノ食事代ハ自分拂セリ

午后二時半発車道路ハスベテ山坂ナレモ格別嶮ナラス松林ヲ走シ午后八時十五分「トリノボロツナヤ」ト云フ小驛ニテ所持ノ雞ヲ出シテ晩食ス九時発車

「チタ」ハ山ヲ負ヒ一大澤ニ臨メリ山ハ甚タ高カラス澤中ニ一個ノ流アリ之ヲ「インガダ」河ト名付ク此河ハ「子ルケンスク」ニ流レ「シルカ」河ト合スト云フ

「チタ」府ヲ出テヽヨリ「クルボクコフスカヤ」ト云フ小驛ニテ再ヒ此ノ「インガダ」河ヲ見又聞ク「トリノボオロフナヤ」驛ニテモ之ヲ見ル是ヨリ終夜「インガダ」河ニ傍テ行ク山坂ノ昇下リ尤モ甚シ常ノ道ナラスシテ雑致アリ本夜明月ナルト雖モ前途ヲ明瞭ニ得ヘシ本夜ハ車夫ニハ「プリヤヒナルヲ以テ不慮ノ教言ニアランコトヲ慮リ予見失ハス共ニ十一時頃迄注意セシガ遂ニ寝ニ就ケリ終夜寒カラス氷点以上五度ニ下ラザリシ

八日快晴

此処モ亦同シク「ユラウニヤ」原ノ續キニシテ半輪ノ明月路左ニアリ寒ヲ凌キ車帷ヲ開キテ眺望ス

故郷の雪野寒しとやへやの鳥らみの草を秋の夜の月

徹夜寒氣依然曉四時ニハ氷点下一度タリ曉方我車路左ノ低地ニ乗リ入ラ大ニ引出スニ困却セリ

七日快晴

朝六時半「ドムノクリエ」左ノ「スカヤ」ト云フ一市ニ休ミテ茶ヲ飲ミ卵ヲ食フ温泉ニテ頭顔ヲ洗フ快甚ダシ八時半発車道路極好シ十二時「チタ」府ニ着ス此府ノ鎮台「ミリタイレグーブルナートル」ニテ「ゲ子ラール、ユヨール」ナリ「イルクーツク」總督ノ命ヲ受ク此府ノ「ミリテーレグーブルナーテル」ハ「ストレチンスク」迄ヲ総括スルナリ又「乙ーセグーブルナートル」アリ俗事ヲ司ル

我等ハ着後「クラブ」ニテ午食シ襟巻冬衣ヲ買フ價二十六「ルーブル」ナリ

「チタ」ハ家数四百許人口四千許ナリト云フ此処ニモ支那ノ貿店アリ予写真ヲ買ハントテ写真師ノ家ヲ尋ネシニ所持セス

「クラブ」ノ食事代ハ自分拂也

午后二時半発車道路ハスベテ山坂ナレモ格別嶮ナラス桜林ヲ走シ午后八時十五分「トリノボロツナヤ」ト云フ小村ニテ所持ノ雞ヲ出シテ晩食ス九時発車

「チタ」ハ山ヲ負ヒ一大澤ニ臨メリ山ハ甚ダ高カラス澤中ニ一個ノ流アリ之ヲ「インガダ」河ト名付ク此河ハ「チルケンスク」ニ流レ「シルカ」河ト合スト云フ

「チタ」府ヲ出テヽヨリ「クルボクコフスカヤ」ト云フ小村ニテ再ヒ此ノ「インガダ」河ヲ見又第文「トリノボオロフナヤ」村ニテモ之ヲ見ル是ヨリ終夜「インガダ」河ニ傍テ行ク山坂ノ昇下リモル尋常ノ道ナラスシテ雑鼓ト本夜明月ナラスト雖モ前途ヲ明ラニ得ヘシ本夜ハ車夫ハヨブリヤク人ナルヲ以テ不慮ノ變言ニアランコトヲ慮リ寺見共ニ十一時頃迄注意セシガ遂ニ寝ニ就ケリ終夜寒カラス氷点以上五度ニ下ラサリシ

八日快晴

暁六時「ガルギンスカヤ」ト云フ小驛ニテ茶ヲ飲ミ卵ヲ喰フ前驛ニテ「インガダ」河流ル其幅三四十
間ニ過キス水ハ格別害カラス面顔ヲ洗フ甚快シ昨日以来山皆高カラス且禿山多シ
夜来經過セシ「クニヤチベルガオイ」驛ヨリ五六十「ウヨルスト」ニシテ沙金場アリ「ゾーレフ」ト云フ社ニテ
開採ス又同所ヨリ半「ウヨルスト」ニシテ沙金場アリ「チーエフ」社ニテ開採スト云フ共ニ小ニシテ見
ルニ足ラスト云フ

「ガルギンスカヤ」驛ヲ発シテヨリ並チニ是迄ニナキ山路ナリ山又山ニシテ「インガダ」河ヲ見ルト最首
無跡ヲ往還トセシヲ以テ上下甚タ多ク且ツ山ハ皆樹木ナク加之北風大起リ為ニ有声甚ク風
景ヲ殺ケリ於是焼酎ヲ飲ミ人造ノ風景ヲ添ヘタリ

十二時半「カザノフスカヤ」ト云フ小驛ニテ所携ノ雞肉ヲ出シテ午食ス二時発車山間ヲ行
クナリ山皆禿ニシテ三十「ウヨルスト」間更ニ雞犬ノ声ナク只牛馬ノ山遊フアルノミ且北風
甚烈寒気五度タリ是迄ナキ悽然タル景ナリ

午后六時「チルチヤ」河ノ渡場ヘ「イスプラウニク」「ポリシーメースタル」及市正等出迎ヘリ河ヲ渡リテ
「チルチンスク」府ノ巨商「ブーチン」氏ノ家ヲ以テ旅館ト為ス明暁六時ヲ以テ市中ノ寺見物ヲ拉シテ
「ブーチンスク」ノ沙金場ヲ一見スルニ定メタリ
「ブーチン」氏夫妻等ト面謁夜食ヲ共ニス待遇頗ル殷十二時就寝

九日

午前五時起行装ヲ理シ寺見物ヲ拉シ「イスプラウニク」ト兵士一人出張ニテ館主「ブーチン」
氏ノ沙金場ナル「ブーチンスク」ト名ル地ニ発ス「チルチンスク」ヨリ東南八十三「ウヨルスト」ノ處ニアリ道路ハ山坂
アリト雖甚タ悪シカラス「チルチンスク」ヨリ六十「ウヨルスト」許ニシテ山ニハ松樹多シ天気ハ午前寒ク
シテ本邦十二月雪天ノ如クナリシカ午后北風モ止ミ天晴テ小春ノ景アリ三時半沙金場ニ着ス前
中ハ大場ニ着スル最初ノ沙金場ハ七「ウヨルスト」許ニアリ是ハ昨日ヲ以テ一覧セシヿニセリ初メ
沙金場ノ些手前ニ炭酸水ノ湧出ル処アリ巌然囲ヲ為シ置ケリ魯俗呼テ酸水ト
名付ク味甚佳鉄気ヲ多ク含メリ
着後直チニ番頭等一同ト共ニ沙金場ヲ周覧ス其事ハ別紙ニ詳ナリ夕七時半

番頭ノ住ム本屋ニ夜食シ夫ヨリ洗ヒ上ケ及「カントール」等ヲ見ル此処ハ夜中モ働クナリ松薪ヲ焼カセシテ以テ燭ニ當ツ其景甚タ盛大ナリ十時本屋ニ帰リ主人ニ各般ノ事ヲ問テ之ヲ略記シ十一時又々晩食シ十二時寝ニ就ク

本日「ワンゲーウ」人ヲ見ル「ブリヤリ」ヨリモ美ナルニ似タリ只水草ヲ避ケルト云フ

十日

夜来有雨朝七時起茶ヲ飲ミ七時半砂金場ヘ発ス雨ヒテ帰路ニ方ナル砂金場ヲ一見ス是ハ一番始メニ開採セシ者ニテ十二年前ヨリス此処ハ水モ積多キヲ以テ水車ヲ以テ働ク「エニセイ」ニテ見タル仕掛ニ均シ極メテ「シンプル」ナリ「トルフ」ハ一「サーゼン」ニ遇ルコト少ク合金土ハ我カ五尺許ニシテ鉛ハ甚シク「カラニート」ナリ金ノ分量ハ方級六十「ドリ」ニシテ粒ハ極小ナリ水車ハ「ボーヘンスラフラット」ニシテ「ボチカ」一個ヲ動カセリ此処ニ掛ケル人夫ハ併セテ百六十人ニシテ毎日四万五千「プード」ノ土ヲ洗フ此処ハ水涸レノ時休業スルコト多シ

此処ヨリ二「ワヨルスト」帰路ノ方ニ又洗金場アリ四年前ヨリ働ク所ナリ是ハ番頭別人ナリ而シテ人夫ハ二百人ニシテ毎日四万二千「プード」ノ土ヲ洗フ金ハ四十「ドリ」ニ過キス機関ハ十五馬力ニシテ「ボチカ」ハ一ナリ他ノ運動力ニ用ユルコト多ケレハナリ

「ドルフ」ノ厚サ四「アルシン」

合金土ノ厚サ一「アルシン」半

金脈ノ幅ハ二百乃至百二十「サーゼン」ナリ

此処ノ金ハ塊石ト「ガラニート」ノ砕砂ニ和シテ出ヅ

番頭ノ家ニテ午飯ヲ喫ス写真一枚ヲ得タリ夫ヨリ砂金場一見ノ后午後一時二十分発車雨下リ泥滑ニシテ車中ニ泥飛ヒ大ニ困ル晩方風雨次第ニ増ス夕七時頃「チルチンスク」ノ旅館ニ帰ル「チタ」ノ鎮台「ペドシェンコ」氏偶「チタ」鎧町ノ銀山地方一千五百「ウヨルスト」ヲ巡廻シテ當家ニ宿スルニ會ス夜食同氏及「ブーチン」一同ト共ニス本日帰后書キ大ニ疲ル

「ペトシェンコ」氏ハ二十二年「シベリヤ」ニアリ嘗テ「ブラゴウェスチンスク」ノ奉行タリ「チタ」ニハ四年来奉行ヲ勤メリ其ノ人沈着ニシテ温順識見アリ同氏云フ「ワヒゲーズ」ノ魯村ニ住ム者ハ

今ハ皆魯種ト混化シテ言語モ其根源ヲ知ルヲ得ス「アムール」ニ住ム「オロチョン」「マネグル」ヲ視
察スルニ同種ナルヘシ又云ク「ヤクート」ハ「ホンガリヤ」ノ「マクチヤー」ト共ニ「フヒンスク」ノ人種ニシテ歴々
證スヘシト然ラハ則チ漢時所謂匈奴ナル者ニテ一ハ現下「ホンガリヤ」ニ遷リ一ハ「ヤクーツク」
縣ニ止マリシナリ奉行附添ノ一士官云ク曾テ水ソ路ヲ遡フ「ツングーヅ」ト「ブリヤーク」ト相話
ラシメシニ更ニ相通セサリシト、奉行云ク「ネルチンスク」ヲ管轄ナル「ザバイカル」「ウオークルウ」領ノ
「ツルハイツイ」(魯國ノ領)ト支那領「ハイラル」ノ間ニ貿易アリ「ヤルマルク」ノ時ハ平常ヨリモ稍繁
昌ス魯人ハ毛皮塩等支那ハ茶絹等ヲ交換スルナリ又云ク「ハイラル」ヨリ「アイグン」城迄ハ「カラハニ」
直路アリ途中二箇ノ河アリト雖嶮ナラス且ツ直路ナルヲ以テ去年黒龍江電信線ノ為メ此
路ヲ経過シテ「ブラゴウエスチエンスク」ニ達セシメ支那政府ハ此道ニ電線ヲ通セシムルヲ許サスト
擬スルニ黒龍江ニハ陸路ナキト「ネルチンスク」ヨリ屈曲甚シキヲ以テ後来支那ト魯國ト事
アル時ハ魯ハ「ツルハイツイ」ヨリ「アイグン」等迄ヲ版圖ニ入レント謀ルヘキヿ判然タリ
本夜館主「ブーチン」氏ハ予ニ砂金場ノ写真ト「ネルチンスク」ヨリ北京迄「エキスペヂション」ノ書ヲ
ヲ贈レリ
夜大ニ風雨雷烈シク 窓外鳥ニ有声昨朝八時ヲ以テ発程スル「ヲイスブラウニク」
ニ識シ回答ス
予ハ砂金場ニ赴カサルヲ以テ「ネルチンスク」府ヲ見ルノ暇ナカラシ同府ハ「ネルチヤ」河ノ左岸ニアリ
人口約三千五百人家四百軒許ノ一小府ナリ「ブーチン」氏ハ一大巨商ニシテ前府ノ商買ハ
皆同氏ノ手ニ有リ家屋モ亦甚タ多ク且ツ美ナリ奉行云ク是迄列氏三十三度以上ノ寒ニ逢
ヒシコナシ又云ク「バイカル」ハ九百サーゼン迄アリ

十一日

早朝装ヲ理ス館主磚茶一枚ヲ予ニ贈ル是レ昨夜日本ト茶ノ交貿ノ話ノ為メナリ館
主談シテモ奉行ノ説ニモ「アムール」ヨリノ貿易ハ支那ヨリモ弥見込アリ
八時半雲乱ヲ冒シテ発ス是迄ハ「タランタス」ニ輛ヲ売リ拂ヒシヲ以テ館主ノ「タランタス」ニ乗
テ発ス奉行モ館主モ皐趣シテ予ヲ戸外迄送レリ主人モ奉行ト共ニ逗留ヲ勧ムルモ餘

日ナキヲ奈何セン発車前予ハ主人ノ花園ヲ一見スルニ百種ノ草木花卉甚タ美ナリ
又硝子室モアリ然レ𪜈今朝ノ暴風ニテ園ニ立ツ女子ノ像サヘモ無性物ナガラ寒サウニ
見ヘ夏景色ハ更ニナク「シベリヤ」ノ真面目ヲ現ハセリ備寺見寺ト共ニ車ニ上ル途次
雪雲四合甚タ惨怛ノ景色ナリシカ稍久シテ雪ハ霰ト共ニ降来リ風モ極メテ寒ク車
中ニアリテ長靴ヲハキ居ルニ足指シビレルニ至ル帷ヲ閉ヂテ寒ト雨雪ノ侵入ヲ防ク無聊甚タシ
一小律ヲ得タリ

涅陳城外雪花飛満目山河秋已非明日黒龍江畔路
長流與我共東帰

是ヨリ三好ヲ経午后五時「ストレチェンスク」村ニ達セリ風雨未止、同所迄ハ八十九ヴェル
スト上ナリ道路ハ甚タ悪シカラスト虽モ山多ク人家稀ニ一軒モナク佳景ハ少シモナシ「ダラシ
ン」湖ハ動揺セリ「ストレチェンスク」ハ村ニシテ未タ邑ヲ為サス而シテ「シルカ」河ノ左岸ニアリ故ニ「ネル
チンスク」ヨリ来レハ河ヲ渡リテ着スルナリ旅屋ハ一軒アレ𪜈疎末ナル由一商「シャイツロフ」ノ家ヲ

予カ為メニ旅宿ニ設ケアリタリ乃チ投宿ス
先是市川大尉ニテハ先ツ前所ニアリテハ「ウラヂオストック」ヨリノ電信ヲ予ニ差出ス其ノ
文ヲ披閲スルニ九月五日発ニテ開拓使鈴木大助氏「ウラヂオストック」逗留箱館丸
ヨリ出セシナリ云ク黒田ハ一昨日日本ニ出立セリ箱館丸ハ君ヲ載セテ帰国スル為メ来着
ヲ待ツ
右何ニヨリ一番好信トシテ黒田氏ノ厚意ヲ深謝スルニ堪ヘタリ夜ニ入リ鮭ヲ買ヒ日
本料理ヲ食フ味甚佳、旅宿ハ「レヂアント」ナキニ依テ坐敷ノ板間ヘ「フラ子ル」ヲ敷テ臥セシ
ニ例ノ虫毒ニ刺レタリ
十二日 雨「ストレチェンスク」逗留
朝「アムール」社汽船着ス「カピテン」直チニ来テ予ヲ訪ヒ船中ノ用意ハ格貌口ニ詰シア
ヘリ乃チ午后二時半迄ニ荷物ヲ積ミ入レンコヲ約セリ「ストレチェンスク」在勤ノ陸軍大佐
来訪セラル晩方ニ答礼ス此ノ人ノ話ニモ一昨夜奉行其外ノ話ニモ支那政府ハ支那人魯領

入テ使用セラルヽヲ固ク禁スルヲ以テ「アムール」ノ沙金場ヲ開採スルニ甚タ不都合タリト云ヘ
午后旅館前面ナル「シルカ」河ニ釣ヲ垂レ魚百尾餘ヲ得タリ晩方大浴後汽船ヲ訪ヒ
「カピタン」夫婦ト面語ス「カピタン」ハ「カヨイト」中婦人ノ場所ヲ余ノ為ニ供セリ且「ハバロフカ」
迄ノ道ヲ成丈ケ急キ予カ要トスル場所ニ船ヲ繋シテ止ランコトヲ約セリ此ノ船ハ「アムール」社二十隻
ノ一ニシテ「アレキシー」親王ノ日本ヨリ「シベリヤ」ヲ経テ帰京サレシ時組立テタル船ナルヲ以テ「アレキシー」
ト名付ケタリ船ノ大部分ト機関モ「ハンビュルグ」ヨリ取寄セタルナリ四十「ハミナル」馬力ニシテ食
水ハ二「フート」半ナリ
「ストレチェンスク」ハ「ムラビヨー」前ハ川下ニ東ニ直路ナク高處ヨリ百「ウェルスト」下部ヨリ前ハ
魚目人ノ住居モ何ノモナカリシト云フ現下家数ハ七八十軒町ノ長サ凡ソ一「ナラベ」ヒト一「ウェルスト」モア
リ人口ハ四五百人モアルヘシ当地ノ寒サヲ問フニ主人不相替四十度ト答ヘタリ「トルカ」河ハ高所ノ火
ニテ一町足ラスニシテ流ハ頗ル急ナリ前岸ハ十丈許ノ土山ニシテ草木アリ蝶ナキ岸テ高所ノ風景
ハ「ネルチンスク」ニ付ヨリモ快壮ナルヲ覚フ

昭和十四年一月十五日
於牧[illegible]